



弘前市雪対策 総合プラン

市民や地域力を結集した
協働による持続可能な雪対策の実現

第 1 章 弘前市雪対策総合プランの改訂

- 1－1．弘前市雪対策総合プラン策定の背景と改訂の趣旨… P 1
- 1－2．計画の位置付け及び計画期間…………… P 2
- 1－3．豪雪地帯対策基本計画とプランの改訂…………… P 3
- 1－4．これまでの取組と評価…………… P 4
- 1－5．市民参加によるプランの改訂…………… P 5
- 1－6．持続可能な開発目標（SDG s）とプランの取組…… P 6

第 2 章 本市の現状と課題

- 2－1．本市の冬の気象…………… P 7～8
- 2－2．行政による雪対策…………… P 9
- 2－3．人口減少、高齢化の進行…………… P 10
- 2－4．町会活動の現状…………… P 11
- 2－5．建設業の動向…………… P 12
- 2－6．除雪支援事業の現状…………… P 13
- 2－7．除排雪経費の動向…………… P 14

第 3 章 雪対策の基本方針と施策展開

- 3－1．雪対策の基本方針…………… P 15
- 3－2．施策展開…………… P 16
- 3－3．重点事項と各目標…………… P 17～18



第4章 個別施策

4-1. プラン体系詳細図	P 19～20
4-2. 個別施策	
1 交通、通信等の確保に関する事項	P 21～24
2 農林業等地域産業の振興に関する事項	P 25
3 生活環境施設等の整備に関する事項	P 26～28
4 国土保全施設の整備及び環境保全に関する事項	P 29
5 除排雪の担い手の確保及び除排雪体制の整備の促進 に関する事項	P 30～34
6 親雪及び利雪による個性豊かな地域づくりに関する 事項	P 35～36
7 雪氷に関する調査研究の総合的な推進及び気象業務 の整備・強化に関する事項	P 37

資 料 編

I. 市民アンケート調査	資 1～資 21
II. 旧プランの個別施策評価	資 22～資 43
III. 弘前市総合計画（政策⑫雪対策）	資 44～資 48
IV. 豪雪地帯対策基本計画（概要版）	資 49

第1章 弘前市雪対策総合プランの改訂

1-1. 弘前市雪対策総合プラン策定の背景と改訂の趣旨

記録的な豪雪となった平成24年度は、累積降雪量^{※1}で平年値^{※2}の679cmを大きく上回る770cmを記録し、最大積雪深^{※3}では平成25年2月25日に観測史上最高の153cmを記録するなど、市民生活をはじめ地域産業にも大きな影響を与えました。

これを契機に、安全・安心な道路交通の確保のみならず、市民と行政の協働といったソフト面も含めた、克雪（積雪に関する諸問題を克服すること）・利雪（雪を資源として有効に活用すること）・親雪（雪に親しむこと）による総合的な雪対策を目指し、平成26年3月に「弘前市雪対策総合プラン」の策定により、一歩進んだ雪との共生を進めました。

こうした雪対策を進めるなかで、将来にわたる持続可能な雪対策の体制づくりを進める必要性から、「安心して暮らしやすく、地域と協働で支える元気なまちづくり」を基本方針として、令和2年6月に「弘前市雪対策総合プラン」を改訂しました。

令和2年度からこれまでの4年間において、地域内で互いに支えあう除排雪活動への支援など、協働による雪対策の推進を図ってきましたが、進行する町会加入率の低下や、将来的な雪処理の担い手不足、冬の気象の変化や、物価高騰に伴う除排雪経費の増加などの課題に対応するため、本プランでは、「市民や地域力を結集した協働による持続可能な雪対策の実現」を基本方針として掲げ、行政による道路除排雪事業に加え、着実な広がりを見せる協働による雪対策の推進や、進歩する最新技術の活用について検討し、将来にわたり持続可能な除排雪体制の構築を図るとともに、先人達より受け継いできた雪国生活の経験や知恵に、新たな概念や技術を融合し、市民・事業者・行政が一体となった効果的できめ細やかな雪対策の実現を目指します。

※1 累積降雪量：期間中の降雪の深さを合計したもの。

※2 平 年 値：連続する30年間について算出した累年平均値を示し、10年ごとに更新されたもの。
現在の値は1991～2020年の資料から算出された2020年平年値となる。

※3 最大積雪深：積もった雪の深さのうち、期間中に記録した最大の深さを示したもの。

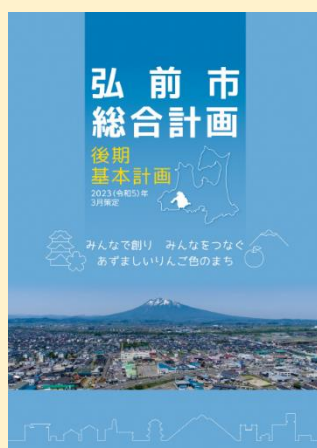


第1章 弘前市雪対策総合プランの改訂

1-2. 計画の位置付け及び計画期間

○計画の位置付け

「弘前市雪対策総合プラン（以下、「プラン」という。）」は、本市のまちづくりの方向性を示す総合計画である「弘前市総合計画」を上位計画とし、その分野別計画のひとつとして整合を図りながら定めた雪対策の実施計画です。



弘前市総合計画

[2019年度～2026年度]

将来都市像 **みんなで創り みんなをつなぐ
あずまいりんご色のまち**

■将来都市像を実現するための5つの政策方針と仕組み

「将来都市像」を実現するため、「5つの政策方針」とそれを支える「仕組み」を定め、分野横断的に取り組みます。

1 将来の弘前を担う多様な人材が育つまちづくり

将来を担うひとづくりを進め、あらゆる分野において、これからの弘前を支える人材育成を推進します。

2 地域共生社会の実現に向けたまちづくり

健康的な暮らしと市民一人ひとりがお互いを尊重し、支え合う、地域コミュニティの形成に取り組みます。

3 地域資源を活かした魅力的な産業のあるまちづくり

農業、商工、観光産業の活性化などに取り組み、地域経済の活性化を推進します。

4 快適な雪国生活と安全・安心で環境にやさしいまちづくり

雪に強いまちづくりや地域防災力などの強化、防犯・交通安全対策やごみの減量化、資源化などの取組を推進します。

5 景観保全と都市基盤の整備による持続可能なまちづくり

景観資源の保全・活用や交通網の整備、空き家・空き地対策、道路の補修など快適な住環境等の整備を図ります。

仕組み 協働によるまちづくりの推進、市内大学との連携、AI（人工知能）、RPA（ロボットによる業務自動化）などの新技術の導入による市民サービスの向上や周辺市町村等との連携などにより、地域の維持・活性化を図ります。



弘前市雪対策総合プラン

分野別政策のひとつである雪対策の実施計画

○計画期間

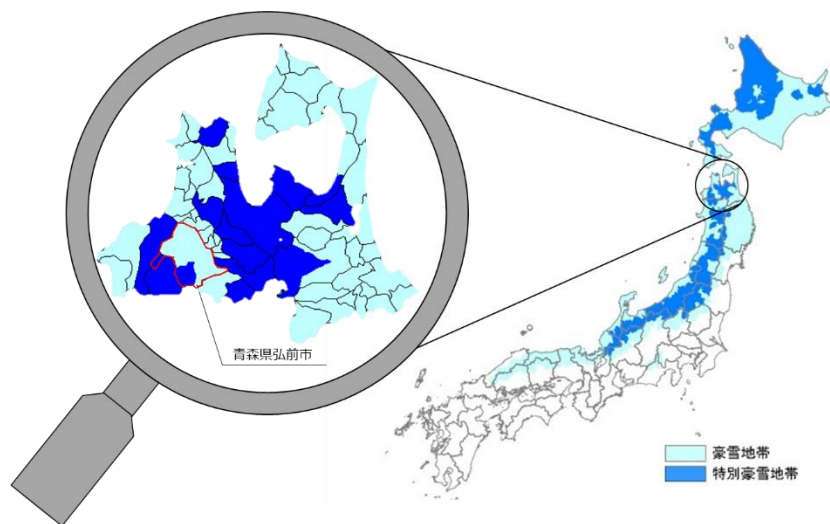
2014 平成 26年度	2015 平成 27年度	2016 平成 28年度	2017 平成 29年度	2018 平成 30年度	2019 令和 元年度	2020 令和 2年度	2021 令和 3年度	2022 令和 4年度	2023 令和 5年度	2024 令和 6年度	2025 令和 7年度	2026 令和 8年度	2027 令和 9年度	2028 令和 10年度	2029 令和 11年度	2030 令和 12年度	2031 令和 13年度	2032 令和 14年度	2033 令和 15年度	2034 令和 16年度	
弘前市経営計画 (前計画) [2014年～2017年]				弘前市総合計画（上位計画） [2019年～2026年]																	
弘前市雪対策総合プラン [2014年～2017年]				弘前市雪対策総合プラン [2020年～2023年]																	
														▼ 中間見直し							
弘前市雪対策総合プラン [2014年～2017年]				弘前市雪対策総合プラン [2020年～2023年]				弘前市雪対策総合プラン [2024年～2033年] ※5年で中間見直し													

第1章 弘前市雪対策総合プランの改訂

1-3. 豪雪地帯対策基本計画とプランの改訂

本市は豪雪地帯対策特別措置法において、全域が豪雪地帯（旧相馬村地域は特別豪雪地帯）の指定を受けており、雪による障害に加え、進行する社会構造の変化により、地域を取り巻く環境はより厳しさを増しています。

改訂するプランについては、こうした変化へも対応する雪対策の展開を目指し、国が推進する豪雪地帯対策との連携を図るべく、豪雪地帯対策基本計画で掲げる7つの重点事項をもとに、本市の地域特性に則した内容となるよう改訂を行います。



出典) 国土交通省「豪雪地帯と特別豪雪地帯」

豪雪地帯対策基本計画とは？

豪雪地帯対策基本計画は、豪雪地帯対策特別措置法（昭和37年法律第73号）により、豪雪地帯における雪害の防除などの施策の基本となるべき計画として国が定める計画です。

昭和39年の策定以来、これまで5度の変更が行われており、近年の豪雪地帯をとりまく課題への対応を踏まえ、令和4年12月9日に基本計画の変更が閣議決定されました。

豪雪地帯対策基本計画(令和4年12月)～豪雪地帯に関する7つの重点事項～

- (1) 交通・通信等の確保に関する事項
- (2) 農林業等地域産業の振興に関する事項
- (3) 生活環境施設等の整備に関する事項
- (4) 国土保全施設の整備及び環境保全に関する事項
- (5) 除排雪の担い手の確保及び除排雪体制の整備の促進に関する事項
- (6) 親雪及び利雪による個性豊かな地域づくりに関する事項
- (7) 雪氷に関する調査研究の総合的な推進及び気象業務の整備・強化に関する事項



第1章 弘前市雪対策総合プランの改訂

1-4. これまでの取組と評価

旧プランの取組に係る目標や施策、評価及び分析を実施し、令和4年11月に開催された「令和4年度第1回弘前市雪対策懇談会」において、委員より意見を頂きました。



（意見抜粋）

- ・ 弘前市社会福祉協議会で実施している除雪支援事業の市による補助金が増額となり、支援する側にとって良い改革だと考えているが、除雪支援の回数を考慮するとまだまだ負担が大きく、満足できる額になっていない。
- ・ どこの町会でも除雪困難者が増えている。この対応については基本的に町会で対応すべきと考えるが、町会役員も高齢化しており対応が難しくなりつつある。
- ・ 除雪支援事業の課題として、地域でボランティアを行う除雪の担い手が、高齢化や地域コミュニティの希薄化により、年々不足してきている。また、実施している地区数は、全26地区に対し高い割合で実施しているが、細分化し町会単位になると全町会数の50%しか実施していない。
- ・ 大学生による除雪ボランティア活動について、全体の学生数は多いがボランティアに参加する学生が少ないのが課題である。しかし、様々なボランティアの中でも、除雪ボランティアは延べ50人から60人参加しており、比較的参加しやすいボランティアであると認識していることから、早めに案内を出すなどの対応により参加人数の増加も可能と考えている。
- ・ 冬季の街歩き観光について、令和3年の12月と令和4年の1月で県内外の観光客が9件40名参加しており、冬季の歩道の状況に対する苦情は無かった。今後、継続して冬季における歩道及び車道の利便性向上に努めてもらいたい。
- ・ 弘前市雪対策懇談会で知ったが、ボランティア活動や小型除雪機貸出など良い取組がたくさんある。しかし、これらの事業を周囲で知っている人がいないことから、もっとアピールすべきだと考える。
- ・ 冬期間の通勤通学による交通渋滞の発生について、当所(商工会議所)の職員4名が、令和4年2月に30分の時差出勤を行い協力した。引き続き実施していきたいと思っている。

施策への様々な意見をプランの改訂における方針決定の参考としました。

（資料編に個別施策の評価について掲載）

第1章 弘前市雪対策総合プランの改訂

1-5. 市民参加によるプランの改訂

プランの改訂にあたっては、市民感覚・市民目線を施策に反映するため、「弘前市雪対策懇談会」において、雪対策に関する意見交換を実施したほか、市民アンケートやパブリックコメントを実施し、市民参加によるプラン改訂を行いました。

(1) 弘前市雪対策懇談会

雪対策の市民ニーズや官民協働による機運の醸成を図るとともに、実効性の高い具体的な取組の掘り起こしを目的として、さまざまな分野を専門にする委員と多種多様な意見交換を行いました。



■有識者〔コーディネーター〕

雪対策（ソフト面）：弘前学院大学 社会福祉学部 教授 高橋 和幸

雪対策（ハード面）：北海道科学大学 工学部 教授 大竹 秀雄

■委員〔各団体の代表者〕

	分 野	団 体 等 名 称
団 体 (13 団 体 等)	市民	弘前市町会連合会
	市民	弘前市老人クラブ連合会
	市民	弘前地区女性会
	福祉	社会福祉法人弘前市社会福祉協議会
	福祉	弘前市民生委員児童委員協議会
	福祉	弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
	観光	公益社団法人弘前観光コンベンション協会
	経済	弘前商工会議所
	交通	青森県タクシー協会弘前支部
	交通	弘南バス株式会社
	教育	弘前市連合父母と教師の会
	除排雪	弘前市建設業協会
	除排雪	弘前市流雪溝利用管理組合連絡協議会

(2) 市民アンケート

令和2年度から令和4年度までの取組についての評価や、市民を対象とし、冬の暮らしにおける道路状況や、雪対策への意識などについてアンケート調査を実施しました。

※市民アンケート結果は資料編－資1～参照

(3) パブリックコメント

「弘前市雪対策懇談会」や市民アンケート結果を踏まえて作成したプランに対する意見を募集するため、令和6年5月1日から5月31日の間、パブリックコメントを実施しました。期間中、寄せられたご意見はありませんでした。



第1章 弘前市雪対策総合プランの改訂

1-6. 持続可能な開発目標(SDGs)とプランの取組

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals（以下、SDGs））は、平成 27 年 9 月に国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール、169 のターゲットから構成された、2030 年までの国際開発目標です。

本市は、令和 5 年に国から選定を受けた「SDGs 未来都市」として、あらゆる施策において SDGs を意識して取り組み、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図ることで、新たな価値やにぎわいを創出し続ける持続可能な都市を目指しています。

これらを踏まえ、プランにおいても、「市民や地域力を結集した協働による持続可能な雪対策の実現」を基本方針として掲げており、SDGs の理念をもとに各施策を推進していきます。



第2章 本市の現状と課題

2-1. 本市の冬の気象

(1) 観測データから見る本市の冬

本市は豪雪地帯対策特別措置法において、全域が豪雪地帯（旧相馬村地域は特別豪雪地帯）の指定を受けている降雪の多い地域であり、シーズンあたりの平年値（30年値）で、累積降雪量は679cm、最大積雪深は88cmとなっています。

この値は、全域を特別豪雪地帯に指定されている青森市や、全国の特別豪雪地帯並みの降雪量を示しており、平均気温も低い値で推移することから、本市の冬は雪が多いうえに寒く、非常に厳しい冬であることを示しています。

○冬の雪・気温に係る市町村データ一覧（平年値） 人口15万人以上の市町村

都道府県・市町村		人口 (人)	累積降雪量 (cm)	最大積雪深 (cm)	平均気温(℃)				
					12月	1月	2月	3月	シーズンの平均
北海道	札幌市	1,958,694	479	97	-0.9	-3.2	-2.7	1.1	-1.4
	帯広市	164,349	198	71	-3.8	-6.9	-5.7	-0.4	-4.2
	旭川市	326,057	557	89	-4.2	-7.0	-6.0	-1.4	-4.7
	函館市	246,256	306	45	-0.1	-2.4	-1.8	1.9	-0.6
	網走市	33,277	312	63	-2.4	-5.1	-5.4	-1.3	-3.6
青森県	弘前市	164,831	679	88	0.8	-1.5	-1.0	2.3	0.2
	青森市	272,752	567	101	1.4	0.9	0.4	2.8	1.4
	五所川原市	52,104	543	80	1.3	-1.1	-0.7	2.5	0.5
	鱒ヶ沢町	9,156	412	54	2.1	-0.2	0.1	3.0	1.3
	深浦町	7,421	226	38	2.4	0.0	0.3	3.2	1.5
	平川市(碓ヶ関)	30,336	621	94	-0.6	-3.0	-2.4	1.0	-1.3
	むつ市	54,364	365	60	1.2	-1.2	-0.9	2.3	0.4
	十和田市	59,201	395	52	0.6	-1.7	-1.3	2.2	-0.1
	八戸市	222,173	134	27	1.7	-0.7	-0.2	3.1	1.0
	三戸町	9,353	367	52	0.6	-1.8	-1.2	2.4	0.0
大間町	4,912	208	31	2.2	0.0	0.2	3.1	1.4	
秋田県	秋田市	301,573	273	37	2.8	0.4	0.8	4.0	2.0
	能代市	50,012	337	39	2.6	0.2	0.6	3.6	1.8
	横手市	85,253	793	119	1.1	-1.3	-0.8	2.4	0.4
岩手県	盛岡市	284,044	209	36	0.8	-1.6	-0.9	2.6	0.2
	北上市	92,181	340	37	1.5	-0.9	-0.1	3.4	1.0
宮城県	仙台市	1,062,285	59	16	4.5	2.0	2.4	5.5	3.6
福島県	福島市	271,798	122	26	4.3	1.9	2.5	5.9	3.7
	会津若松市	114,639	328	59	2.2	-0.3	0.1	3.7	1.4
山形県	山形市	240,990	285	51	2.4	-0.1	0.4	4.0	1.7
	尾花沢市	14,742	948	153	1.3	-1.0	-0.7	2.1	0.4
	新庄市	33,756	637	128	1.5	-0.8	-0.5	2.4	0.7
新潟県	新潟市	776,468	139	32	5.3	2.5	3.1	6.2	4.3
	湯沢町	7,960	1054	208	2.3	-0.4	-0.1	3.0	1.2

出典）気象データ：気象庁「過去の気象データ検索」、人口：「国土地理協会 2022 年 4 月調査値」

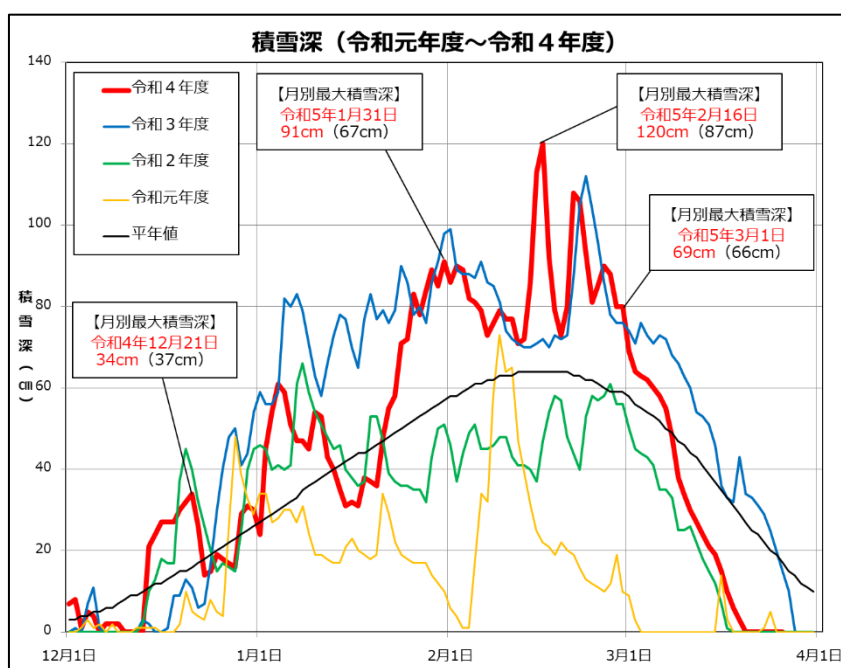


第2章 本市の現状と課題

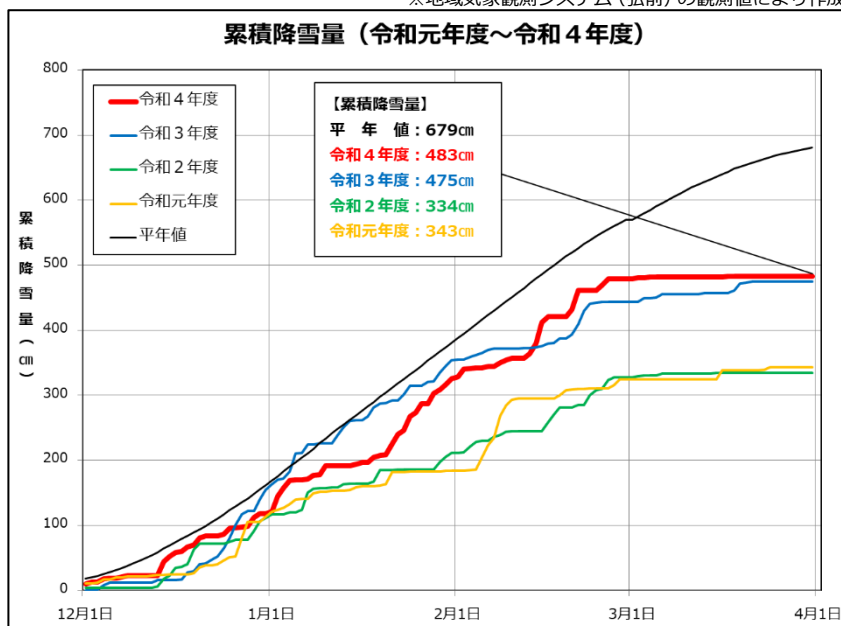
(2) 気象状況の変化

本市における令和4年度の累積降雪量は483cmと、平年値679cmの7割程度に留まりましたが、最大積雪深では1月から3月まで3カ月連続で月別平年値を上回り、なかでも、2月はシーズン最大となる120cmを記録し、8年ぶりに「弘前市豪雪対策本部」が設置されるほどの大雪に見舞われました。

近年は降雪態様の変化に加え、気温についても急激な寒暖を繰り返すなど、従来とは異なる気象傾向にあり、雪対策にとって大きな課題となっています。



※地域気象観測システム (弘前) の観測値により作成



※地域気象観測システム (弘前) の観測値により作成

第2章 本市の現状と課題

2-2. 行政による雪対策

○一般除雪について

本市では冬期間の道路交通の確保を目的に、降雪への対応として一般除雪※⁴を実施しています。

本市全域に雪が降った場合、一晩で行う除雪の総距離は約 **1,000 km** となり、渋滞や交通事故を避けるため、夜間の限られた時間内に作業を終わらせる必要があることから、道路上に積もった雪を除雪ドーザ等で道路脇に**かき分ける**作業を行っています。



【一晩で行う除雪距離】



【一晩除雪イメージ(雪のかき分け作業)】

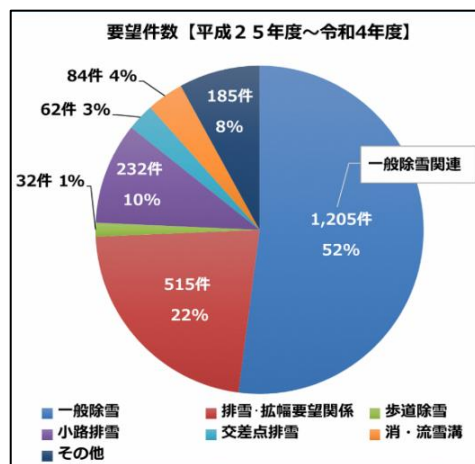
一般除雪のほか
必要に応じて

拡幅除雪※⁶や運搬排雪※⁷等を実施しています。

○一般除雪で発生する寄せ雪と要望

本市では、一般除雪（雪のかき分け作業）により発生する住宅間口への寄せ雪処理を、市民の皆さんにお願いしております。この寄せ雪は固く締まって非常に重く、その処理については、市民の冬の生活における共通課題となっています。

市の除排雪作業に寄せられた10年間（平成25年度～令和4年度）の要望件数を平均すると**2,315件**となり、内容について分類すると、「一般除雪に関する要望」が約**52%**と大半を占め、このうち約**40%**が、間口の寄せ雪に対する要望を含む「除雪粗末・片寄り」となっています。この結果は、一般除雪に関する寄せ雪の処理が、市民生活に直結する課題であることを示しています。



出典) 市 道路維持課 要望件数

※ 4 一般除雪：除雪機械により道路脇に雪をかき分ける作業。

※ 5 拡幅除雪：ロータリ除雪車により路肩に雪を積み上げて道路幅員を確保する作業。

※ 6 運搬排雪：道路幅員の確保が困難な場合に、ダンプトラックにより雪を搬出する作業。



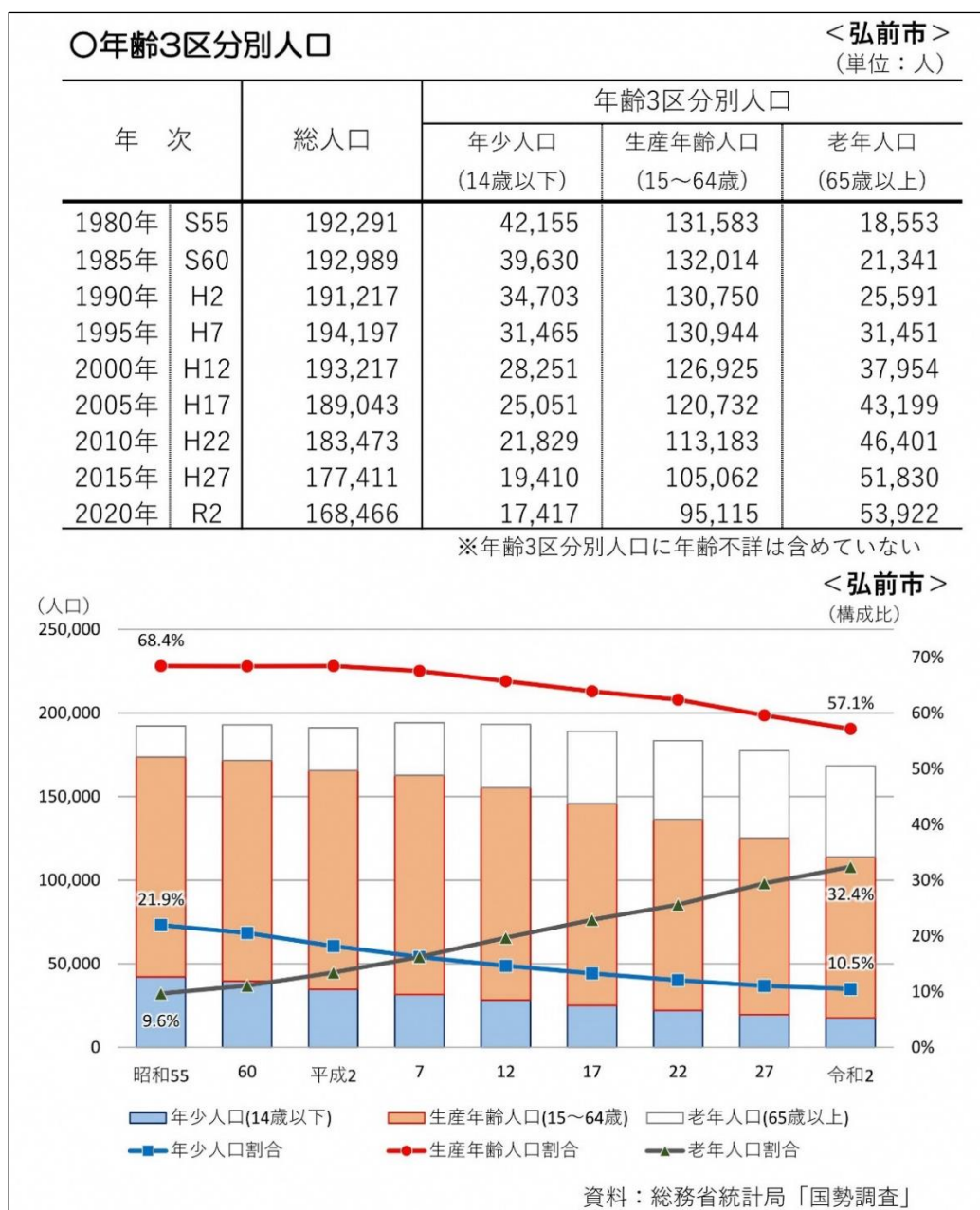
第2章 本市の現状と課題

2-3. 人口減少、高齢化の進行

本市の総人口は、平成7年の19万4,197人をピークに減少が続き、令和2年は16万8,466人となって現在も減少傾向にあります。

また、本市の令和2年の老年人口割合は32.4%と全国平均である28.7%を上回っています。

こうした社会構造の変化は、本市の雪対策にも大きな影響を与えています。

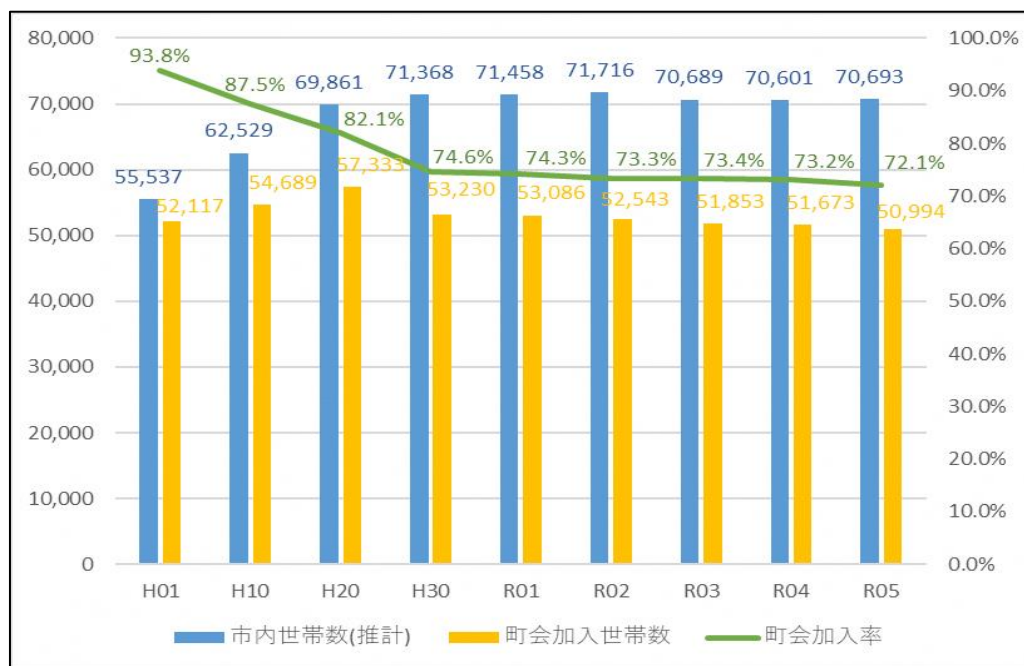


出典) 市 広聴広報課【2023年度版 弘前市統計ハンドブックより抜粋】

第2章 本市の現状と課題

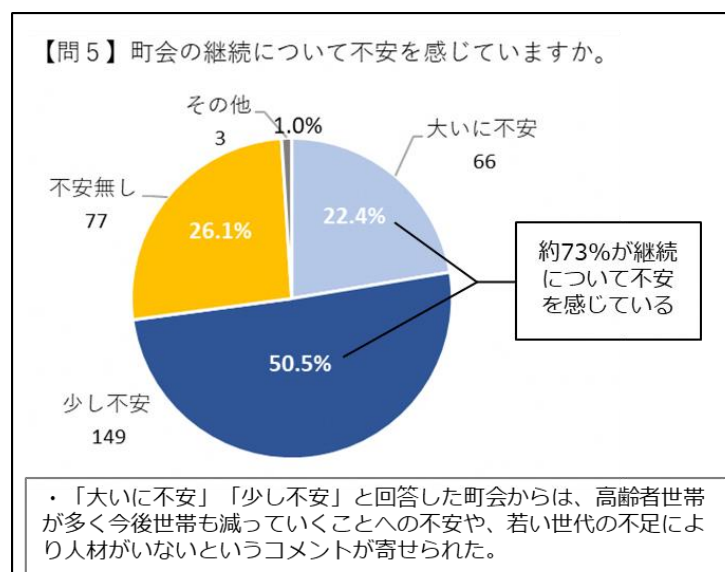
2-4. 町会活動の現状

本市の町会加入率は平成元年度の93.8%から令和5年度には72.1%まで低下しています。



出典) 市 市民協働課【町会加入状況等一覧表】

こうした状況のもと、町会に対するアンケートでは、「町会の継続について約73%が不安を感じている」と回答しており、町会活動の担い手不足という課題も顕在化しています。



出典) 市 市民協働課【町会に関するアンケート報告書令和3年2月より抜粋】



2-5. 建設業の動向

本市における建設業の就業者数は年々減少傾向にあり、特に29歳以下の若年者の就業者数は平成17年から令和2年にかけて、1,057人から約52%減少し506人となっています。就業者全体に占める割合も15%から10%へ低下しています。

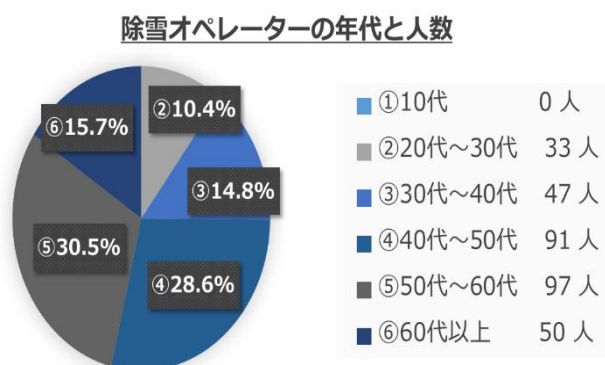
一方で、60歳以上の就業者数は、平成17年から令和2年にかけて、928人から1,521人へと約64%増加し、就業者全体に占める割合も13%から30%へ上昇しています。



出典) 総務省統計局「国勢調査」

令和4年度除排雪業務の受注者アンケートでは、除排雪作業を実施したオペレーターのうち、50代から60代の占める割合が約31%と最も高く、これに60代以上が占める割合を加えると、全オペレーターの約46%が50代以上となり、高齢化が進行している現状を示す結果となりました。

建設業従事者の減少・高齢化は、除排雪体制を担う除雪オペレーター不足に直結しており、大きな課題となっています。



出典) 市 道路維持課
「令和4年度除排雪業務受注者アンケート」

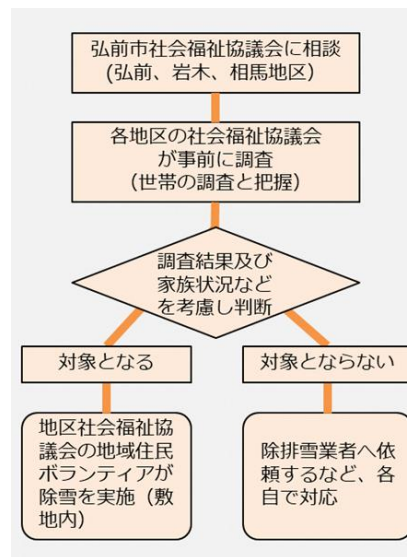
第2章 本市の現状と課題

2-6. 除雪支援事業の現状

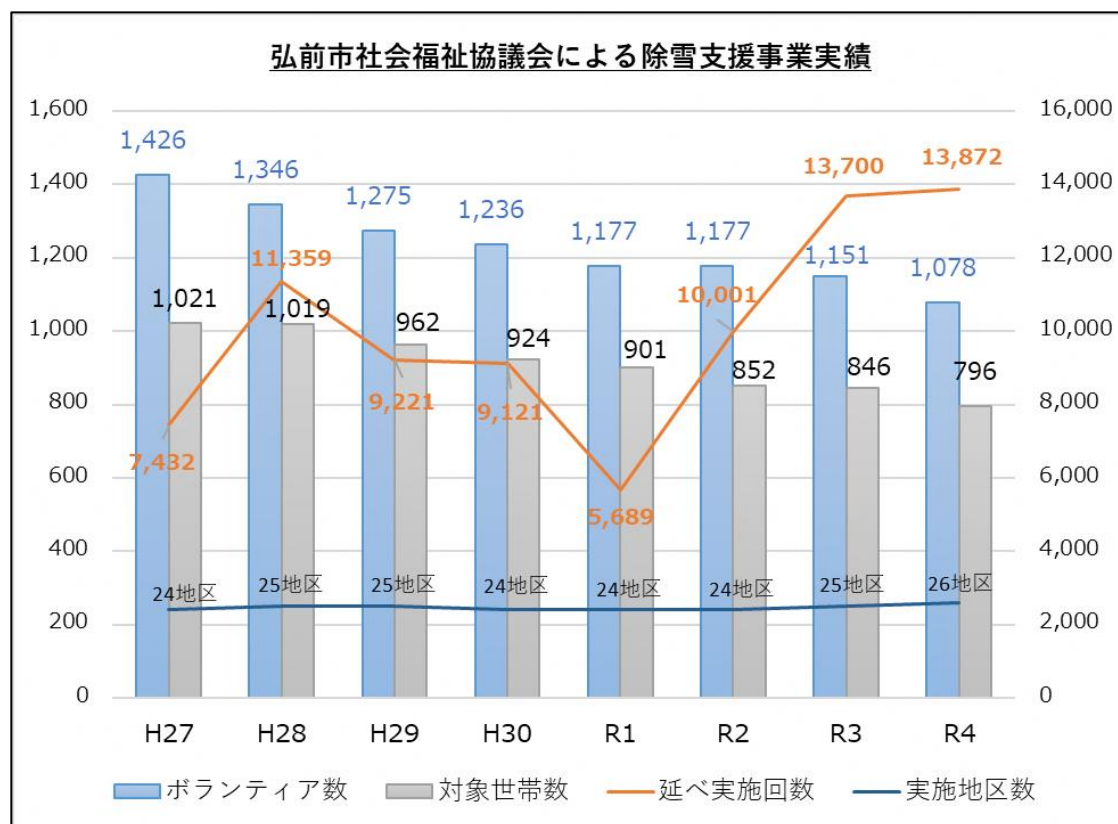
弘前市社会福祉協議会では、高齢や障がいなどで自ら除雪を行うのが困難な世帯を対象に、地域福祉活動の一環として、地域住民の助け合いによる「除雪支援事業（ボランティア除雪）」を実施しており、市はこの事業に対して費用の一部を助成しています。

本市の地区社会福祉協議会は26地区あり、令和4年度は全地区で事業が実施されましたが、地域住民ボランティアの高齢化と減少が進んでいます。

今後増加が予想される支援ニーズに応えるためには、新たな地域住民ボランティアの確保が課題となっています。



【除雪支援事業の認定フロー】



出典) 市 福祉総務課 【除雪支援事業実績】



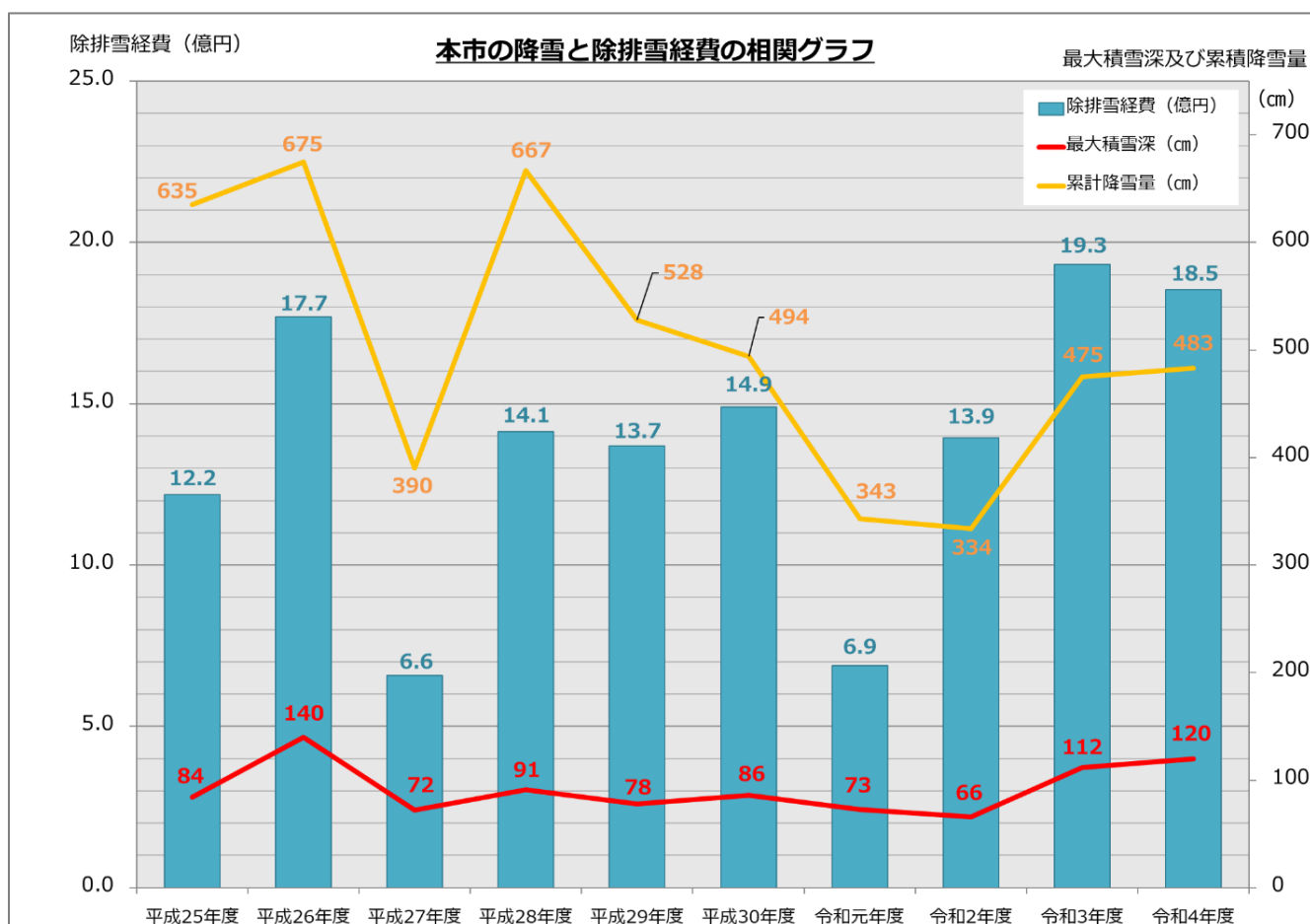
第2章 本市の現状と課題

2-7. 除排雪経費の動向

本市の財政規模は令和4年度決算額で約878億円となっており、そのうち、土木費全体で約78億円、うち除排雪経費は約18.5億円です。シーズンあたりの除排雪経費は10年平均値で約13.8億円の予算を投じています。

除排雪経費については、シーズンの気象状況に大きく左右されますが、2011年（東日本大震災）以降、労務単価や資材、油脂関連等の物価高が継続しており、特に近年の大幅な物価高騰の影響から、除排雪作業の単価も上昇しています。

これに加え、近年は気温の寒暖差が大きく、局所的な集中降雪が増加傾向にあることから、道路の適正管理に多くの予算を必要としています。



出典）【気象データ：気象庁、除排雪経費：市 道路維持課】

第3章 雪対策の基本方針と施策展開

3-1. 雪対策の基本方針

少子高齢化等の社会現象の進行により、雪対策においても除排雪体制維持の対策が急務となっています。

こうした状況において、冬期における安全・安心な暮らしの実現には、市民・事業者・行政が連携した除排雪体制の構築を進める必要があります。

本プランでは『市民や地域力を結集した協働による持続可能な雪対策の実現』を基本方針として掲げ、行政による根幹施策である道路除排雪の効率化を進めるとともに、持続可能な除排雪体制の構築を目指し、これまで進めてきた協働による雪対策のさらなる推進を図りながら、人口減少や超高齢社会にも対応した雪対策を展開します。

『市民や地域力を結集した協働による持続可能な雪対策の実現』



【雪対策連携プロジェクトキックオフミーティング】



【次世代型共助事業による町会の雪処理活動】



【協定締結式(次世代型共助事業)】



【除雪ボランティア活動】

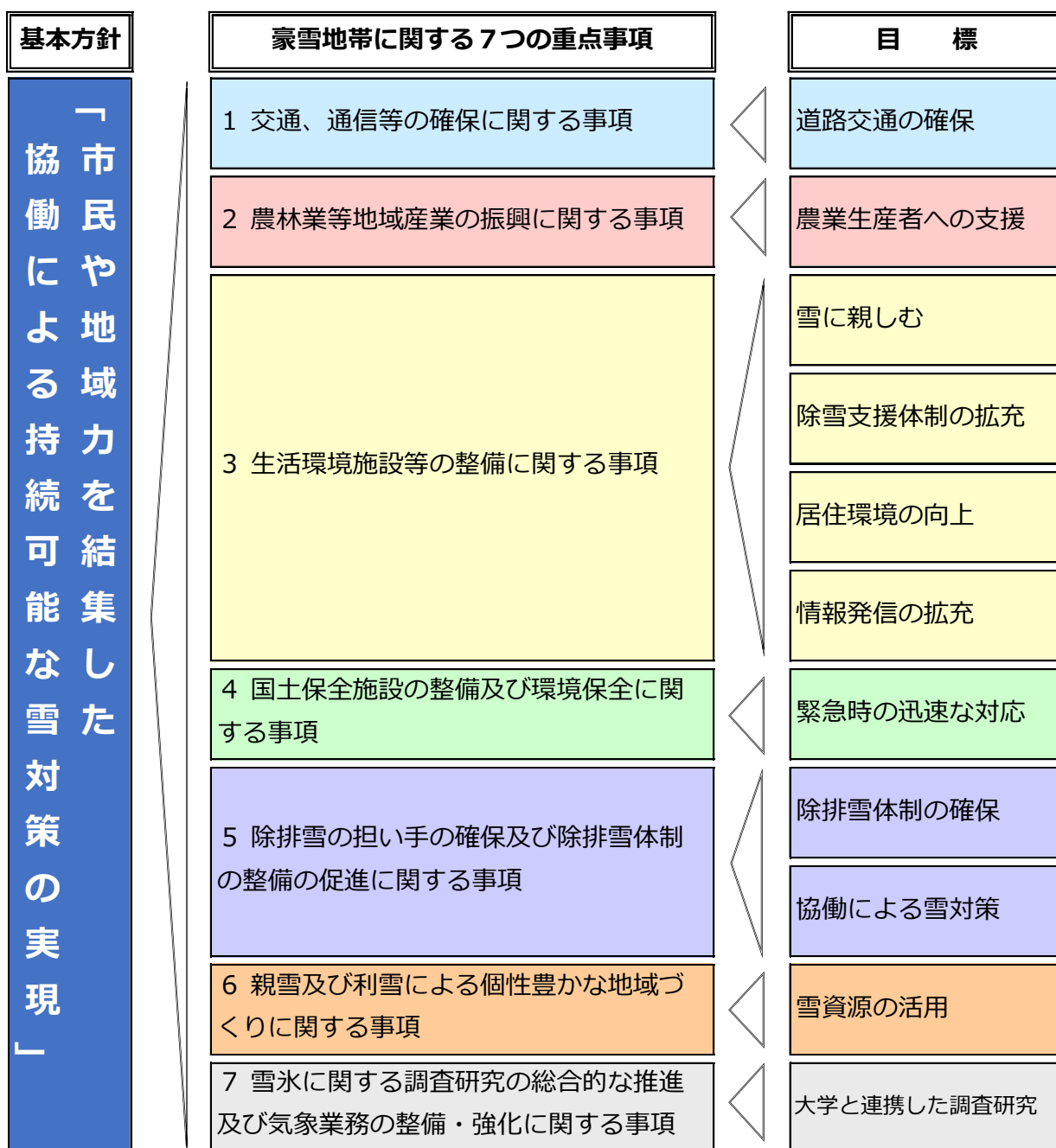


第3章 雪対策の基本方針と施策展開

3-2. 施策展開

上位計画である「弘前市総合計画」との整合性を図りながら、国の豪雪地帯対策基本計画における7つの重点事項をもとに、地域に則する事項から目標を設定し施策を展開します。

【プラン体系概要図】



第3章 雪対策の基本方針と施策展開

3-3. 重点事項と各目標

1. 交通、通信等の確保に関する事項

○道路交通の確保

冬期間における道路交通の確保は、市民生活や経済活動に直結することから、関係機関との連絡調整を図りながら、効率的かつ効果的な除排雪作業を実施するほか、町会との連携や、道路融雪施設の管理、公共交通の利用を促進し、冬期の円滑な道路交通の確保を目指します。

2. 農林業等地域産業の振興に関する事項

○農業生産者への支援

豪雪地帯対策基本計画では、雪害対策として、「農業や農業施設に接する農道の円滑な除排雪の促進に努める」としており、本市の地域特性であるりんご園地への農道除雪に関する施策を実施します。

3. 生活環境施設等の整備に関する事項

○雪に親しむ

学校教育における親雪やスキー教室等への支援により、雪に親しみ、雪に関する意識の高揚を図るための教育及び人材育成を推進します。

○除雪支援体制の拡充

少子高齢化等の社会構造の変化は、自ら寄せ雪を処理できない除雪困難者の増加や支援する側(担い手)の減少にも影響しており、除雪支援事業への助成を行いながら体制維持について検討します。

○居住環境の向上

高齢化の進行を踏まえ、雪に強い居住環境の整備に向けた取組を促進するとともに、空き家に係る除排雪等の管理の確保に取り組みます。

○情報発信の拡充

市民が必要とする雪対策に関する情報について把握し、丁寧な情報発信に取り組みます。



4. 国土保全施設の整備及び環境保全に関する事項

○緊急時の迅速な対応

広域的な関係機関との連携を図りながら、緊急時に備えた仕組みづくりを構築し、迅速な対応に向けた態勢確保に努めます。

5. 除排雪の担い手の確保及び除排雪体制の整備の促進に関する事項

○除排雪体制の確保

将来的な雪処理の担い手不足は大きな課題であり、最新技術の活用による省力化や、除雪オペレーターの育成に関する支援を行い、持続可能な除排雪体制の確保に取り組みます。

○協働による雪対策

行政による雪対策だけでは限界があり、きめ細かい雪対策の実現には市民参加が不可欠であることから、協働による雪対策への支援を拡充し、市民主体で互いに支えあえる体制づくりを目指します。

6. 親雪及び利雪による個性豊かな地域づくりに関する事項

○雪資源の活用

親雪・利雪の観点から、雪に親しむイベントやウィンタースポーツの普及を推進し、地域活性化や市民交流による地域振興を図るほか、雪冷熱エネルギーを活用した取組を継続します。

7. 雪氷に関する調査研究の総合的な推進及び気象業務の整備・強化に関する事項

○大学と連携した調査研究

雪氷に関する実証研究や、大学と共同で進めている調査研究について、協力関係を継続しながら推進します。

第4章 個別施策

4-1. プラン体系詳細図

【プラン体系詳細図】

1 交通、通信等の確保に関する事項

〔目 標〕	〔施策〕	〔主担当課〕
道路交通の確保	施策1 冬期の円滑な道路交通の確保 施策2 地域特性を踏まえた除排雪対応 施策3 交差点箇所における除排雪対応 施策4 町会と連携した除排雪 施策5 防雪柵の管理 施策6 道路融雪施設の管理 施策7 冬期における公共交通利用の推進	道路維持課 道路維持課 道路維持課 道路維持課 道路維持課 道路維持課 地域交通課

2 農林業等地域産業の振興に関する事項

〔目 標〕	〔施策〕	〔主担当課〕
農業生産者への支援	施策8 農道除雪の窓口の一本化 施策9 幹線農道における除雪 施策10 農道等の除雪作業への支援	農村整備課 農村整備課 農村整備課

3 生活環境施設等の整備に関する事項

〔目 標〕	〔施策〕	〔主担当課〕
雪に親しむ	施策11 学校教育における親雪・遊雪 施策12 スキー教室への支援 施策13 雪かきによる健康増進	学校指導課 スポーツ振興課 健康増進課
除雪支援体制の拡充	施策14 弘前市社会福祉協議会による除雪支援事業への助成	福祉総務課
居住環境の向上	施策15 雪に強い住環境の推進 施策16 空き家の適正管理等の促進	建築指導課
情報発信の拡充	施策17 市民にとってわかりやすい情報発信の改善	道路維持課



第4章 個別施策

4 国土保全施設の整備及び環境保全に関する事項

〔目 標〕	〔施策〕	〔主担当課〕
緊急時の迅速な対応	施策18 広域的な関係機関との連携	防災課
	施策19 迅速な情報収集体制と市民の安全の確保	防災課

5 除排雪の担い手の確保及び除排雪体制の整備の促進に関する事項

〔目 標〕	〔施策〕	〔主担当課〕
除排雪体制の確保	施策20 持続可能な除排雪体制の構築	道路維持課
	施策21 市による直営除雪体制の維持	道路維持課
協働による雪対策	施策22 地域共助による雪対策の創出	道路維持課
	施策23 地域共助による除排雪活動への支援	道路維持課
	施策24 市民の発案・町会等との連携による雪対策の推進	道路維持課
	施策25 町会における雪置き場開設の支援	道路維持課
	施策26 市が除雪を行わない生活道路の除雪活動への支援	道路維持課
	施策27 町会等への小型除雪機の貸出	道路維持課
	施策28 融雪装置設置の支援	道路維持課
	施策29 学校校庭等の雪置き場としての活用	学校整備課
	施策30 屋根の雪下ろし転落防止用器具の貸出	市民協働課
	施策31 学生ボランティア活動への支援	道路維持課
	施策32 除雪ボランティアの確保・育成	市民協働課

6 親雪及び利雪による個性豊かな地域づくりに関する事項

〔目 標〕	〔施策〕	〔主担当課〕
雪資源の活用	施策33 冬季観光の推進	観光課
	施策34 冬季スポーツの普及促進と地域活性化	スポーツ振興課
	施策35 雪冷熱エネルギーの活用	岩木総合支所総務課

7 雪氷に関する調査研究の総合的な推進及び気象業務の整備・強化に関する事項

〔目 標〕	〔施策〕	〔主担当課〕
大学と連携した調査研究	施策36 大学との共同研究	道路維持課

第4章 個別施策

4-2. 個別施策

1 交通、通信等の確保に関する事項

目標：道路交通の確保

施策1 冬期の円滑な道路交通の確保

弘前市道路除排雪計画書に基づいた作業を実施し、冬期の円滑な道路交通や良好な市民生活を確保します。(道路除排雪業務)

○主な内容

- ・ 除雪機械で道路脇に雪をかき分ける一般除雪。
- ・ 小型除雪機などにより路肩や堆雪帯へ雪を積み上げる歩道除雪。
- ・ 一般除雪による道路幅員の確保が困難な場合に、ロータリ除雪車により路肩に雪を積み上げる拡幅除雪。
- ・ 一般除雪や拡幅除雪による道路幅員の確保が困難な場合にダンプトラックにより雪を搬出する運搬排雪。
- ・ 除雪機械の進入ができないため、小型のショベルと小型のダンプで運搬排雪を行う小路除排雪。
- ・ 一般除雪の後にロータリ除雪車による拡幅除雪を並行して行う追従除雪。
- ・ 路面凍結によるスリップ事故の防止と交通渋滞の緩和確保するための凍結抑制剤散布。



【路面整正状況】



【運搬排雪状況】



施策2 地域特性を踏まえた除排雪対応

本市の平野部と山間部では、降雪量に大きな差があるほか、人口密集地域内においても降雪量に差があります。

各地区における降雪量を把握し、作業計画に反映することで、地域特性を踏まえた除排雪作業の実現を目指します。

○主な内容

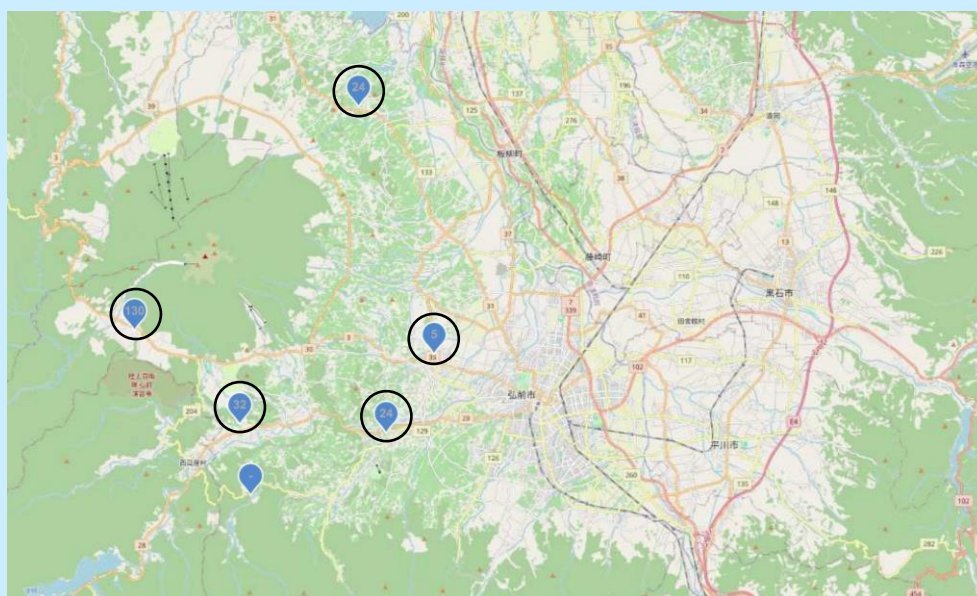
- ・各地区の降雪データの観測については、ICT 技術を活用した雪量観測を実施し、無人化による省力化についても検証を進めます。



【雪量観測センサー】



【雪量観測センサーによる観測状況】



【雪量観測センサーによる観測データの出力状況】

第4章 個別施策

施策3 交差点箇所における除排雪対応

冬期間の交差点には除雪による雪が高く積み上がり、車両や歩行者の死角となります。

特に歩道を有する道路では、歩道と車道の除雪により急激に高く積み上がることから、重点管理箇所として対応強化を図ります。

また、市の除排雪路線には国道や県道との交差点も存在し、道路管理者によって管理基準も異なることから、国、県との連携を図り、それぞれの交差点ごとの適切な対応を実施します。



○主な内容

- ・ 交通状況を踏まえた路線特性を把握した交差点の適正管理
- ・ 国、県、市の道路管理者間による除排雪の連携

施策4 町会と連携した除排雪

冬のシーズン前に、地区町会連合会ごとに道路除排雪計画についての説明会を開催し、町会との連携強化を図ります。

説明会には各町会長をはじめ、除排雪担当者も出席し、除排雪に関する注意箇所やマナーなどについて確認するなど、きめ細かい除排雪の実現に向けた話し合いを行います。





施策5 防雪柵の管理

冬期における交通障害の原因となる、吹雪による道路上の視界不良や吹き溜まりの防止を図り、歩行者と車両通行の安全を確保します。



【防雪柵】

施策6 道路融雪施設の管理

道路融雪施設等の良好な稼働を目指し、施設の修繕計画に基づいた計画的な修繕を行うことで、雪国における安全安心な通行を確保します。

(道路融雪施設等修繕事業)



【歩道融雪稼働状況(弘前駅前地区)】

施策7 冬期における公共交通利用の推進

冬期の通勤・通学において、送迎などの自家用車を使用する割合が多くなり、交通渋滞による市民生活への影響が懸念されるため、公共交通の利用を推進し、交通渋滞の緩和を図るとともに、定時運行の確保による地域公共交通の利便性向上に取り組みます。



○主な内容

- ・ 交通渋滞緩和のほか、環境負荷の低減や健康増進等の分野への貢献も視野に、公共交通の利用や時差出勤の実施を広く推奨します。
- ・ ICT 等の活用による公共交通の利便増進に取り組みます。

第4章 個別施策

2 農林業等地域産業の振興に関する事項

農業生産者への支援

施策8 農道除雪の窓口の一本化

農道の除雪に関する問い合わせについて、農林部農村整備課が窓口として随時受付け、窓口の一本化を図ります。



施策9 幹線農道における除雪

りんご樹を管理し、生産性を確保するためには、適正時期の剪定や肥培管理のほか、雪害（りんご樹の枝折れなど）への対策が必要となります。しかし、樹園地内へ至る農道等は、雪により冬期間閉鎖していることから、2月下旬頃から3月下旬頃にかけて機械による除雪を行います。



施策10 農道等の除雪作業への支援

市が除雪作業を行わない農道等の除雪を行う団体（農業協同組合や共同施行者等）に対して、その経費の一部を補助します。

○主な内容

- ・「農業ひろさき」などを活用して、農道等の除雪に関する支援制度を周知しながら、その他の支援制度についても広報し、活用を促すことで農業振興を図ります。



【農業ひろさき】



3 生活環境施設等の整備に関する事項

雪に親しむ

施策11 学校教育における親雪・遊雪

親雪・遊雪に関する取組を各学校に情報提供し、実態に応じて教科体育や生活科等における特色ある教育課程の編成及び実践の啓発を図ります。

○主な内容

- ・ 小学校体育科及び生活科における特色ある教育課程の編成及び実践の啓発を図ります。



施策12 スキー教室への支援

雪を教材とした自然学習の一環として、市民スキー教室への支援を実施し、市民がスキーを通じて雪に親しむ機運の醸成と、冬季におけるスポーツ振興を図ります。



施策13 雪かきによる健康増進

宅地内の雪や道路除雪後の寄せ雪の処理について、雪に親しみながら冬場の運動量を確保する機会ととらえ、個人の状態に合わせた雪かきによる健康増進を図ります。

○主な内容

- ・ 雪かきに関連する情報について市のホームページや広報等で発信することを検討します。



除雪支援体制の拡充

施策14 弘前市社会福祉協議会による除雪支援事業への助成

弘前市社会福祉協議会では地区社会福祉協議会と連携し、高齢や障がいなどで自ら除雪を行うのが困難な世帯を対象に、地域住民の助け合いによる「除雪支援事業（ボランティア除雪）」を行っております。

市では、この事業の費用の一部を助成し、地域福祉活動の推進及び福祉サービスの充実を図ります。



居住環境の向上

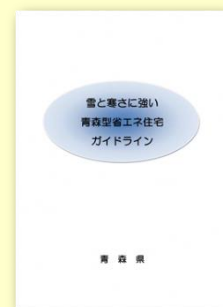
施策15 雪に強い住環境の推進

本市における冬の安心した暮らしの実現に向け、敷地内の除雪量を少なくする建築物の配置計画や屋根形状に関する情報提供を進め、雪と寒さに強い克雪住宅の促進を図ります。

○主な内容

- ・雪と寒さに強い青森型省エネ住宅ガイドライン[※]の周知等による克雪住宅の促進を図ります。

※発行：青森県 建築住宅課 住宅企画グループ



【雪と寒さに強い青森型省エネ住宅ガイドライン】



施策16 空き家の適正管理等の促進

積雪に伴う空き家の倒壊など、空き家が原因で発生する危害を防止するため、平時より所有者に対し、適正管理等の促進や助言及び指導を行います。

○主な内容

- ・ 空き家に対する具体的な対策について「弘前市空き家等対策計画」にもとづき、平時より発生予防や利活用及び適正管理等を促進します。
- ・ 危険な空き家に対する助言や指導、除却費用に関する支援等のほか、市民などから寄せられた通報や相談について対応します。



【弘前市空き家等対策計画
(令和5年11月改訂)】

情報発信の拡充

施策17 市民にとってわかりやすい情報発信の改善

道路除排雪作業や市民と行政の協働による雪対策に関する情報発信について、市民に正確かつ迅速に伝わるよう取り組みます。

○主な内容

- ・ 世代ごとに異なる「使いやすい媒体」に対応した情報発信を検討します。
- ・ 市民が必要としている情報の把握と迅速かつ正確な発信方法の構築について検討します。



第4章 個別施策

4 国土保全施設の整備及び環境保全に関する事項

緊急時の迅速な対応

施策18 広域的な関係機関との連携

集中的な降雪や記録的な豪雪に見舞われた場合、市民生活はもとより、地域経済活動が停滞し混乱を引き起こすことになり、本市のみならず広域的な範囲に影響を及ぼし、深刻な事態が発生することが想定されます。

そのような状況に陥らないよう、広域的な関係機関との連携を図ります。

○主な内容

- ・起きてはならない最悪の事態を防ぐために、豪雪などの自然災害リスクを共有する、弘前圏域8市町村国土強靱化地域計画を策定し、広域的な関係機関との連携を図ります。



【弘前圏域8市町村
国土強靱化地域計画】

施策19 迅速な情報収集体制と市民の安全の確保

地球温暖化に伴う気象変動は冬の気候にも影響し、局所的な豪雪が増えると推測されます。

災害級の降雪にも迅速な対応を図れるよう、緊急時に備えた仕組みづくりを構築するものです。

○主な内容

- ・積雪深が「弘前市地域防災計画」に定める基準に達した場合などには、警戒体制又は非常体制を敷き、豪雪警戒対策本部等の設置により、迅速な情報収集と連絡体制を構築します。



【弘前市地域防災計画
(令和5年度修正版)】



5 除排雪の担い手の確保及び除排雪体制の整備の促進に関する事項

除排雪体制の確保

施策20 持続可能な除排雪体制の構築

行政による雪対策では、道路除排雪作業をはじめとする冬期間の道路交通の確保に資する様々な作業を実施しています。

少子高齢化等の進行により、建設業従事者の就労人口が減少しており、将来の担い手不足が顕在化しつつあることから、将来にわたる持続可能な除排雪体制の構築に取り組めます。

○主な内容

- ・国が進めるDX(デジタル・トランスフォーメーション)について情報収集し、除雪機械の一人乗り化など、最新技術の地域実装について検討します。
- ・新規除雪オペレーターの資格取得に関する支援制度を実施します。
- ・除雪オペレーター講習会を開催します。



【令和4年度除雪オペレーター講習会】

施策21 市による直営除雪体制の維持

本市では、市職員の直営作業班により、一部工区の除排雪作業を行っているほか、道路が通行できない場合、緊急の除排雪作業を実施しています。

今後、豪雪災害等における緊急態勢の確保がますます重要となることから、現在の直営除雪体制の維持に努めます。



【令和4年度除雪結団式】

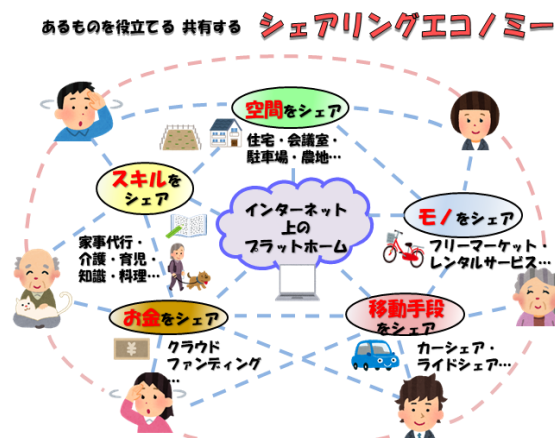
第4章 個別施策

協働による雪対策

施策22 地域共助による雪対策の創出

シェアリングエコノミーの概念を雪対策に活用した取組の普及促進を図りながら、地域コミュニティの衰退を補完する新たな地域共助創出のきっかけづくりを進めます。

(次世代型共助創出事業（雪対策）)



○主な内容

- ・地域に存在する遊休資源（モノ、スキル）を有効活用する実証を継続し、地域への概念の浸透を図ります。
- ・民間マッチングサイトによる有償の雪処理サービスの普及促進を図り、新たな地域共助のきっかけづくりを進めます。

施策23 地域共助による除排雪活動への支援

一般除雪によって幅員が狭くなった生活道路において、個人所有の小型除雪機や融雪槽等を活用して拡幅や排雪を行う町会や、地域企業と町会が連携した地域除排雪活動について支援します。(地域除排雪活動支援事業)



【地域企業による除雪状況】

○主な内容

- ・町会や、地域企業等が町会と連携して行う除排雪作業に要した各種機械の燃料費及び除雪機械の損害賠償保険の加入費について支援します。
- ・町会等が行う融雪活動に要した電気使用料について支援します。





施策24 市民の発案・町会等との連携による雪対策の推進

行政主導の雪対策だけでは限界があり、きめ細かい雪処理の実現には、市民と行政の連携が必要不可欠であることから、市民の発案による積極的な提案について検討し、地域内での雪処理能力の向上を図ります。

○主な内容

- ・「弘前市雪対策懇談会」を開催し、各分野の委員からの提案について検討します。
- ・「町会除雪説明会」や「私のアイデアポスト」などにより寄せられる提案について検討します。



【令和5年度弘前市雪対策懇談会】

施策25 町会における雪置き場開設の支援

住宅地での除雪による寄せ雪等の処理作業の軽減を図るため、空き地所有者の協力による町会雪置き場の開設を支援します。（町会雪置き場事業）



【町会雪置き場】

施策26 市が除雪を行わない生活道路の除雪活動への支援

市が除排雪作業を行う以外の生活道路の除雪を行う町会等に対し、報償金を支給し、地域が行う自主的除雪活動を支援します。

（町会等除雪報償金）



第4章 個別施策

施策27 町会等への小型除雪機の貸出

生活道路の除雪作業や高齢者等世帯の間口の雪寄せ処理を行う町会等に小型除雪機を貸し出し、地域が主体的に行う除雪を支援します。(小型除雪機町会貸出事業)



施策28 融雪装置設置の支援

融雪装置の設置に必要な資金を金融機関より借り入れる場合、貸付金に係る利子について市が支援することで、融雪装置の普及を促進し、冬期における市民生活の向上を図ります。
(融雪装置設置資金貸付制度)



施策29 学校校庭等を雪置き場として活用

学校校庭等を地域住民が利用する雪置き場として活用できるよう、地域や学校の実情などを勘案してルールを設定し、校庭等の雪置き場利用について推進するものです。



施策30 屋根の雪下ろし転落防止用器具の貸出

除雪関連の傷害事故のうち、屋根の雪下ろし作業中の事故は約半数を占め、転落による事故原因が高い比率を占めていることから、転落事故を未然に防ぐための安全器具を貸し出します。

○主な内容

- ・屋根雪下ろし作業用の安全器具を無償で貸出します。
(貸出用品：命綱、安全帯、ヘルメット一式)





施策3 1 学生ボランティア活動への支援

本市は学園都市と呼ばれるほど学生が多いものの、除雪ボランティア活動への参加者は一部の学生に限られていることから、学生が活動に参加しやすい環境や支援を検討し、地域の支え合い活動を推進します。



【大学生への支援物資の贈呈】

○主な内容

・大学コンソーシアム「学都ひろさき」※に加盟している大学との協議や、高校生による除雪ボランティアの可能性を検討し、学生が参加しやすい環境づくりや支援を進めます。

※大学コンソーシアム「学都ひろさき」：弘前市内に設置されている5高等教育機関が連携し、教育、文化、観光産業、医療の振興などの多分野を通じて、地域の自立と発展に向け一層の貢献を図っていくため設立された機関。【国立大学法人弘前大学、学校法人弘前学院 弘前学院大学、学校法人柴田学園 柴田学園大学、放送大学学園 放送大学青森学習センター、学校法人弘前城東学園 弘前医療福祉大学】で構成されている。

施策3 2 除雪ボランティアの確保・育成

新たな担い手確保のため、ひろさきボランティアセンターにおいて、除雪作業を含むボランティア活動希望者の確保と育成に努めます。

○主な内容

- ・ボランティア活動希望者の登録制度を実施します。
- ・除雪ボランティアに取り組む団体・企業の掘り起しを行います。
- ・安全な除雪ボランティア活動のための講座を開催します。



第4章 個別施策

6 親雪及び利雪による個性豊かな地域づくりに関する事項

雪資源の活用

施策33 冬季観光の推進

本市が誇る貴重な文化財と、雪国の特性である雪を観光資源として活用しながら、民間で実施しているイベントとの連携や、体験型イベントの掘り起こしなどについて検討し、これまで弱点とされていた冬季観光の推進を図ります。

○主な内容

- ・「弘前城雪燈籠まつり」は、幻想的な雪燈籠のほかプロジェクションマッピングや、弘前雪明かり、津軽錦絵大回廊など、雪と光を組み合わせた多彩な催しにより、冬季最大のイベントとして定着しています。
- ・民間で実施している「冬に咲くさくらライトアップ」は、夜空に雪、光を併せた取組で、夕食・宿泊との親和性が高く、経済効果が期待できることから、「弘前城雪燈籠まつり」などのイベントとの連携を図ります。
- ・雪を活用した体験型のイベントや、雪自体を観光資源とする工夫について検討し、通年観光の実現に向けて取り組みます。



【冬に咲くさくらライトアップ】

施策34 冬季スポーツの普及促進と地域活性化

スキーに関わる大会やイベントの開催及び支援を行い、冬季スポーツの普及促進、競技力の向上を図りながら、各種イベントを通じた交流を促進するとともに、地域活性化に繋がる施策について検討します。

○主な内容

- ・クロスカントリースキーやアルペンスキーなど、大会の開催や補助金による支援を実施します。
- ・大会開催が地域活性化にも寄与するような仕組みを検討します。



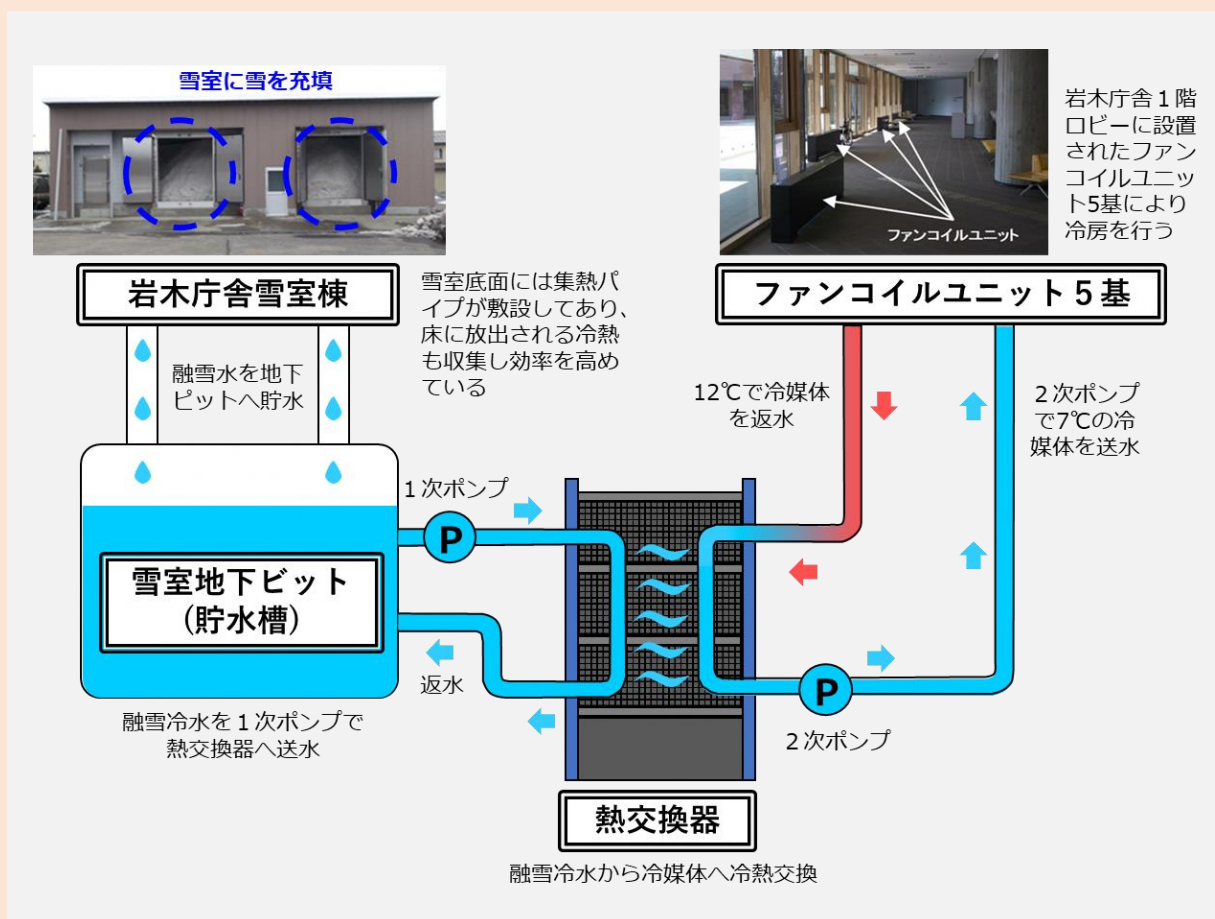


施策35 雪冷熱エネルギーの活用

平成26～27年度に実施した弘前市役所岩木庁舎の大規模改修工事の際に、既存の車庫を雪室に改修・整備し、雪の冷熱エネルギーを利用した雪冷熱による冷房設備を導入しました。

夏季間における庁舎1階ロビー（約300平方メートル）のエアコン冷房を雪室冷房稼働に置き換えることにより、二酸化炭素排出量削減等の環境負荷軽減に寄与していることから、今後も設備の運用を継続します。

○主な内容



【雪冷熱による冷房模式図】

第4章 個別施策

7 雪氷に関する調査研究の総合的な推進及び気象業務の整備・強化に関する事項

大学と連携した調査研究

施策36 大学との共同研究

本市と大学間で進めてきた連携協定にもとづき、雪対策における調査研究等への連携・協力を継続します。

○主な内容

- ・弘前市と弘前大学による「弘前市と弘前大学の連携に関する協定書」にもとづき、除雪を社会学の分野から解析する研究への連携・協力を継続します。
- ・弘前市と北海道科学大学による「弘前市と北海道科学大学の連携に関する協定書」にもとづき、雪氷分野（特に融雪、利雪）における連携・協力を継続します。



資料編

I. 市民アンケート調査……………	資 1～資 2 1
II. 旧プランの個別施策評価……………	資 2 2～資 4 3
III. 弘前市総合計画（政策⑫雪対策）……………	資 4 4～資 4 8
IV. 豪雪地帯対策基本計画（概要版）……………	資 4 9

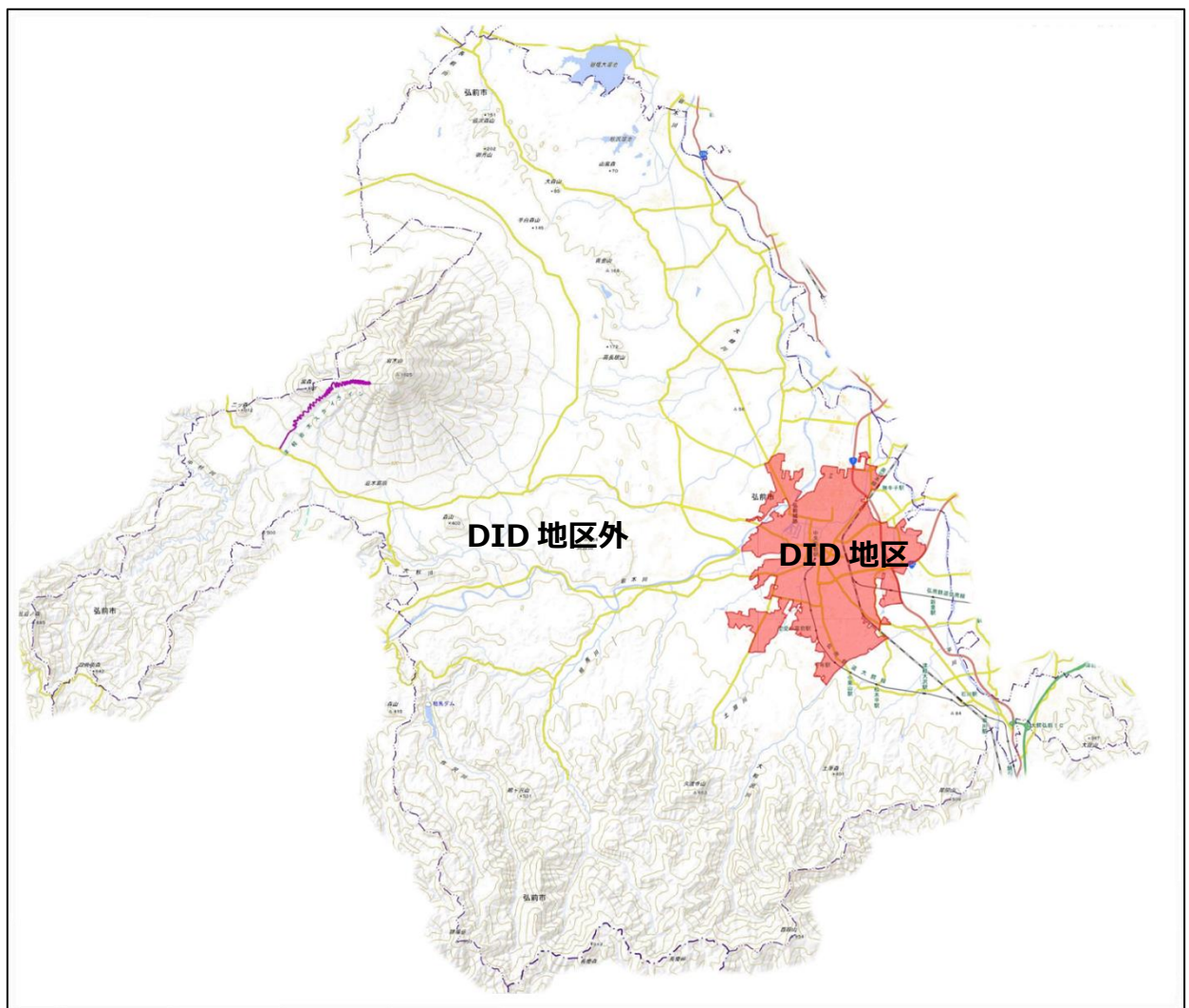
I.市民アンケート調査

○市民アンケート調査概要

- ・「弘前市雪対策総合プラン改訂」に関するアンケート調査

期 間	令和 5 年 9 月～令和 5 年 10 月
方 法	ポスティング
対 象	弘前市内の 3,000 世帯（無作為抽出）
回 答 数	1,642 件（54.7%）

- ・地域特性やニーズの把握を目的に、DID 地区(人口集中地区)と DID 地区外に区分して結果を集計した。



【弘前市における DID 地区(令和 2 年度総務省統計局)】 出典) 国土地理院地図

回答者について

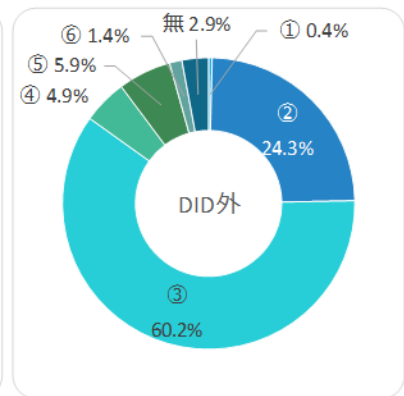
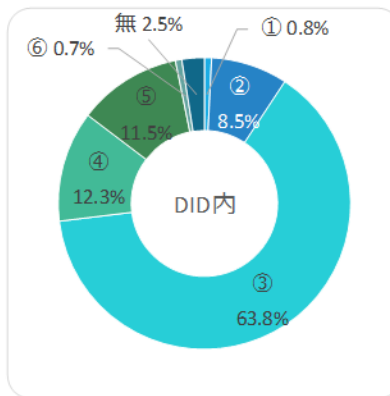
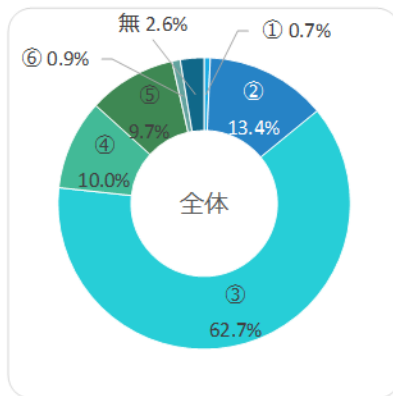
【問1】 あなたがお住いの住所をお聞きたいします。

DID内	件数	DID内	件数	DID内	件数
1 青山	17	46 新寺町	18	91 南大町	26
2 旭ヶ丘	9	47 新町	1	92 南富田町	13
3 石渡	5	48 末広	5	93 稔町	24
4 泉野	18	49 住吉町	4	94 宮川	17
5 植田町	9	50 代官町	5	95 宮園	16
6 大浦町	1	51 高崎	7	96 向外瀬	10
7 大久保	16	52 高田	12	97 元長町	1
8 大清水	19	53 館野	4	98 森町	2
9 大原	3	54 田町	9	99 八代町	3
10 大開	3	55 俵元	4	100 安原	20
11 大町	15	56 千年	33	101 山道町	1
12 親方町	1	57 田園	16	102 吉野町	3
13 学園町	5	58 土手町	3	103 和泉	6
14 堅田	23	59 外崎	20	104 若葉	12
15 紙漉町	3	60 外瀬	7	105 早稲田	23
16 川先	15	61 富田	7	106 和田町	3
17 瓦ヶ町	1	62 富野町	26	107 和徳町	9
18 寒沢町	22	63 豊原	3	無回答	19
19 桔梗野	30	64 取上	33		
20 北横町	9	65 撫牛子	6		
21 清原	13	66 長坂町	4		
22 蔵主町	4	67 中野	16		
23 楮町	3	68 西茂森	3		
24 小沢大開	3	69 西茂森町	3		
25 五十石町	2	70 禰宜町	4		
26 小人町	9	71 浜の町北	1		
27 紺屋町	1	72 浜の町西	10		
28 栄町	21	73 浜の町東	23		
29 桜ヶ丘	29	74 東城北	14		
30 桜林町	6	75 東長町	2		
31 小比内	17	76 東和徳町	1		
32 塩分町	1	77 平岡町	3		
33 茂森新町	12	78 広野	12		
34 茂森町	12	79 福田	10		
35 清水	4	80 袋町	2		
36 下新町	1	81 藤代	9		
37 下白銀町	1	82 富士見町	19		
38 自由ヶ丘	7	83 船水	1		
39 樹木	13	84 町田	2		
40 城西	26	85 松ヶ枝	9		
41 城東	22	86 松原西	14		
42 城東北	6	87 松原東	26		
43 城東中央	27	88 松森町	11		
44 城南	20	89 三岳町	11		
45 新鍛冶町	1	90 緑ヶ丘	6		
				総計	1,132

DID外	件数	DID外	件数
1 藍内	2	46 常盤野	5
2 青女子	10	47 十腰内	6
3 茜町	6	48 独狐	5
4 愛宕	9	49 十面沢	5
5 石川	14	50 富栄	12
6 一町田	24	51 中野	3
7 狼森	6	52 中畑	5
8 大沢	7	53 中別所	6
9 大森	4	54 檜木	9
10 大和沢	5	55 新里	16
11 小沢広野	8	56 乳井	6
12 鬼沢	11	57 糠坪	5
13 折笠	3	58 八幡	3
14 貝沢	1	59 原ヶ平	4
15 賀田	23	60 番館	3
16 堅田	1	61 樋の口	7
17 門外	20	62 百沢	14
18 紙濃沢	3	63 平山	5
19 川合	3	64 福村	14
20 葛原	9	65 藤沢	2
21 黒滝	2	66 藤代	1
22 黒土	5	67 細越	6
23 小金崎	1	68 堀越	7
24 五所	6	69 前坂	3
25 五代	4	70 蒔苗	3
26 駒越	15	71 町田	2
27 境関	11	72 水木在家	2
28 坂市	2	73 三岳町	1
29 桜庭	4	74 宮館	4
30 笹館	4	75 三和	7
31 沢田	1	76 百田	1
32 清水森	11	77 薬師堂	5
33 自由ヶ丘	1	78 山崎	3
34 昴	4	79 弥生	5
35 清野袋	7	80 湯口	4
36 相馬	6	81 吉川	4
37 高杉	14	82 米ヶ袋	2
38 高田	5	無回答	7
39 高屋	1		
40 館後	5		
41 館野	1		
42 種市	9		
43 津賀野	6		
44 土堂	7		
45 常盤坂	7		
		総計	510

【問2】 あなたがお住いの前の道路についてお聞きたいします。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 国道	11	9	2	0.7%	0.8%	0.4%
② 県道	220	96	124	13.4%	8.5%	24.3%
③ 市道	1,029	722	307	62.7%	63.8%	60.2%
④ 私道	164	139	25	10.0%	12.3%	4.9%
⑤ わからない	160	130	30	9.7%	11.5%	5.9%
⑥ その他	15	8	7	0.9%	0.7%	1.4%
無回答、無効	43	28	15	2.6%	2.5%	2.9%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



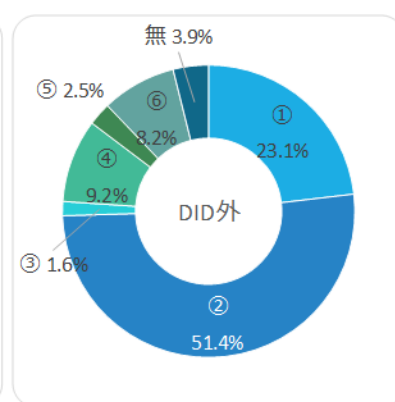
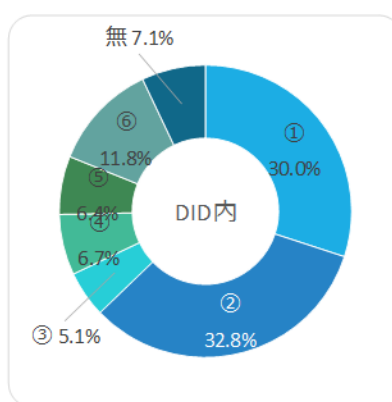
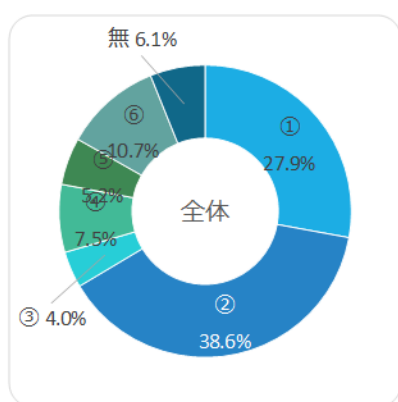
【問3】 あなたの世帯で主に除雪作業を行う方の年代と性別についてお聞きたいします。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 10代男性	3	3	-	0.2%	0.3%	0.0%
② 20代男性	7	7	-	0.4%	0.6%	0.0%
③ 30代男性	41	32	9	2.5%	2.8%	1.8%
④ 40代男性	99	67	32	6.0%	5.9%	6.3%
⑤ 50代男性	184	120	64	11.2%	10.6%	12.5%
⑥ 60代男性	365	186	179	22.2%	16.4%	35.1%
⑦ 70代以上男性	471	322	149	28.7%	28.4%	29.2%
⑧ 10代女性	-	-	-	0.0%	0.0%	0.0%
⑨ 20代女性	3	3	-	0.2%	0.3%	0.0%
⑩ 30代女性	8	6	2	0.5%	0.5%	0.4%
⑪ 40代女性	30	25	5	1.8%	2.2%	1.0%
⑫ 50代女性	66	55	11	4.0%	4.9%	2.2%
⑬ 60代女性	103	89	14	6.3%	7.9%	2.7%
⑭ 70代以上女性	145	127	18	8.8%	11.2%	3.5%
⑮ その他	31	28	3	1.9%	2.5%	0.6%
無回答、無効	86	62	24	5.2%	5.5%	4.7%
総計	1,642	1,132	510	100%	100%	100%

道路除排雪について

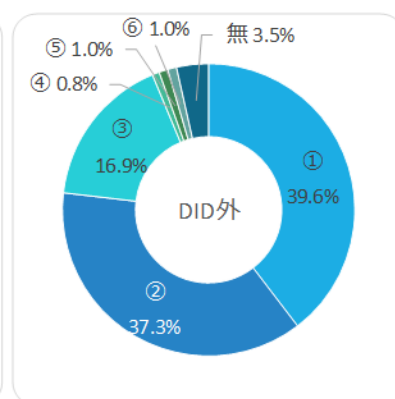
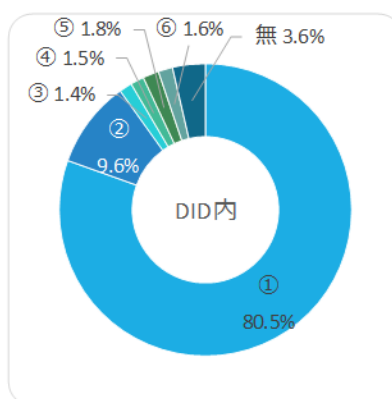
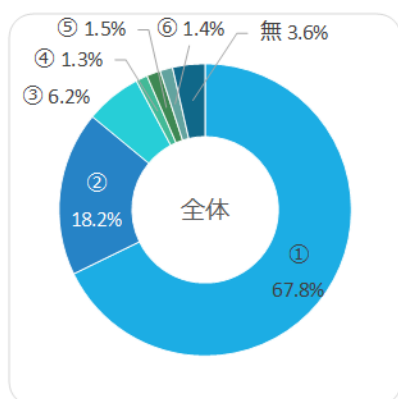
【問4】 一般除雪(かき分け除雪)で発生する寄せ雪処理について、どのように処理していますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 道路の端に積む	458	340	118	27.9%	30.0%	23.1%
② 自分の敷地内に積む	633	371	262	38.6%	32.8%	51.4%
③ 市、町会等の雪置き場に持っていく	66	58	8	4.0%	5.1%	1.6%
④ 流雪溝等を利用する	123	76	47	7.5%	6.7%	9.2%
⑤ ロードヒーティングや地下水の散水等により消雪する	86	73	13	5.2%	6.4%	2.5%
⑥ その他	176	134	42	10.7%	11.8%	8.2%
無回答、無効	100	80	20	6.1%	7.1%	3.9%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



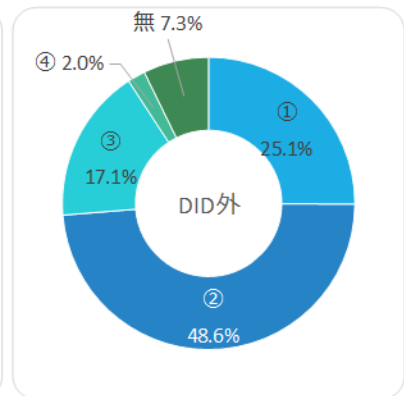
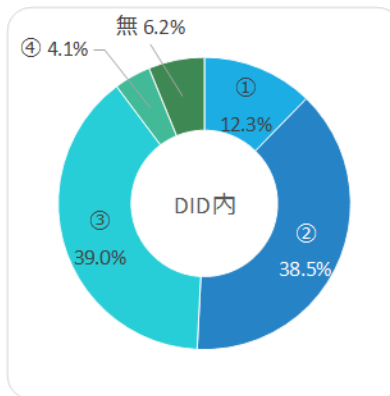
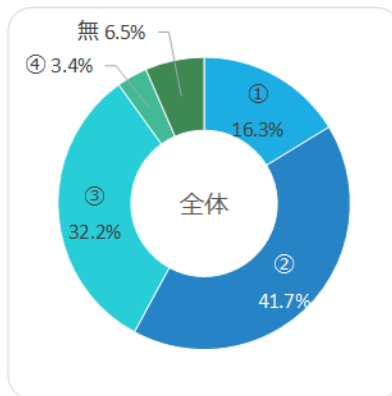
【問5】 問4について、どのような方法で処理していますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 自分で人力で	1,113	911	202	67.8%	80.5%	39.6%
② 自分で小型除雪機などで	299	109	190	18.2%	9.6%	37.3%
③ 自分で大型除雪機械などで(トラクター等含む)	102	16	86	6.2%	1.4%	16.9%
④ 業者に依頼して	21	17	4	1.3%	1.5%	0.8%
⑤ 自分以外で(親戚や知人、町会等)	25	20	5	1.5%	1.8%	1.0%
⑥ その他	23	18	5	1.4%	1.6%	1.0%
無回答、無効	59	41	18	3.6%	3.6%	3.5%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



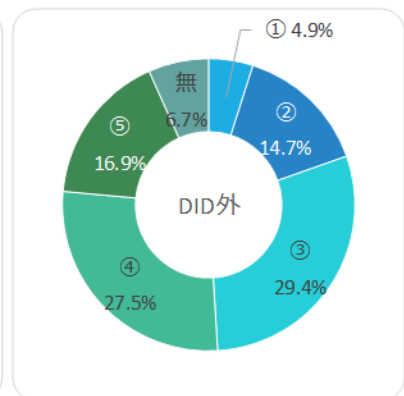
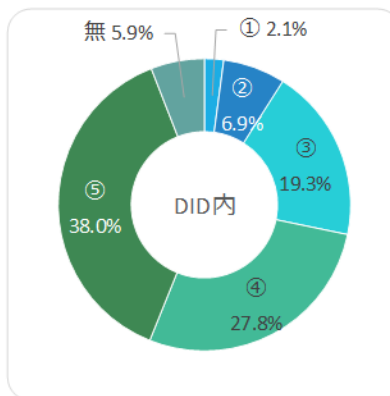
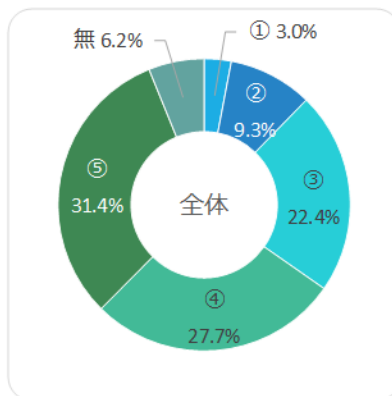
【問6】 寄せ雪などの置き場についてお聞きます。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 足りている	267	139	128	16.3%	12.3%	25.1%
② 通常は足りているが大雪の際は不足する	684	436	248	41.7%	38.5%	48.6%
③ 常に不足している	528	441	87	32.2%	39.0%	17.1%
④ その他	56	46	10	3.4%	4.1%	2.0%
無回答、無効	107	70	37	6.5%	6.2%	7.3%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



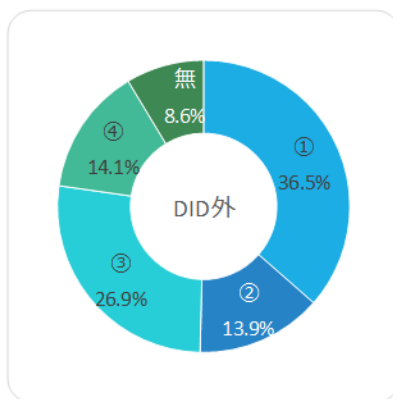
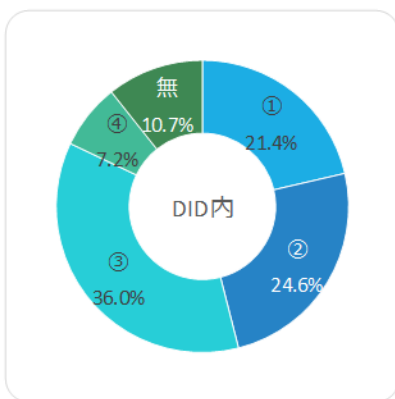
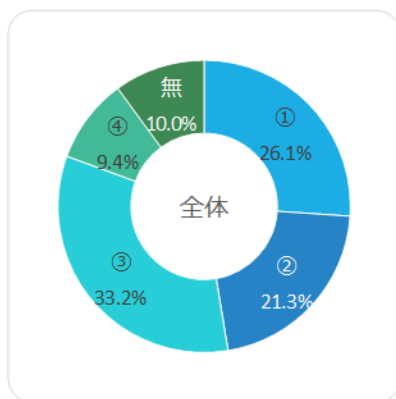
【問7】 現在の一般除雪(かき分け除雪)の状況についてお聞きます。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 満足している	49	24	25	3.0%	2.1%	4.9%
② やや満足している	153	78	75	9.3%	6.9%	14.7%
③ 普通	368	218	150	22.4%	19.3%	29.4%
④ やや不満	455	315	140	27.7%	27.8%	27.5%
⑤ 不満	516	430	86	31.4%	38.0%	16.9%
無回答、無効	101	67	34	6.2%	5.9%	6.7%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



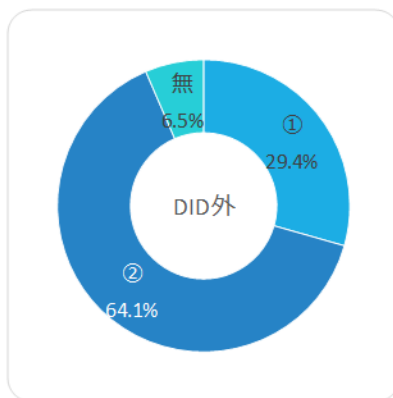
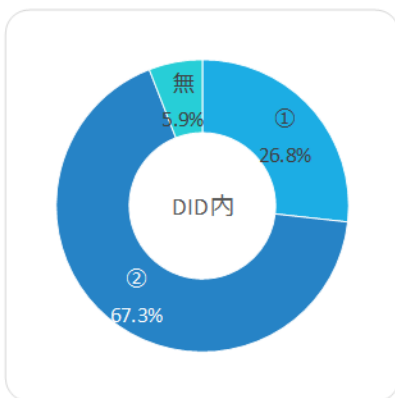
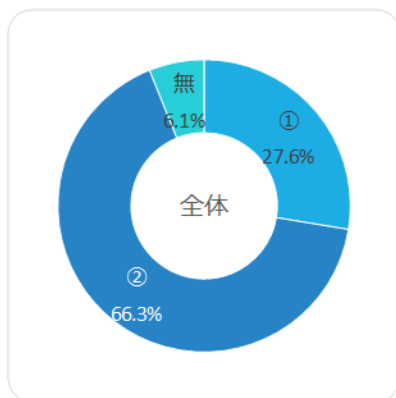
【問8】 現在の一般除雪(かき分け除雪)についてどう考えますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 寄せ雪が増えても良い、道路の幅員を確保してほしい	428	242	186	26.1%	21.4%	36.5%
② 路面に雪を残してもよい、寄せ雪を減らしてほしい	350	279	71	21.3%	24.6%	13.9%
③ 周囲との寄せ雪の量を均等にしてほしい	545	408	137	33.2%	36.0%	26.9%
④ 現状にある程度満足しており、今後も継続してほしい	154	82	72	9.4%	7.2%	14.1%
無回答、無効	165	121	44	10.0%	10.7%	8.6%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問9】 市では幹線道路や生活道路など、それぞれの役割に応じた除排雪水準で対応していますが、ご存じですか。
あてはまるものを1つ選んでください。

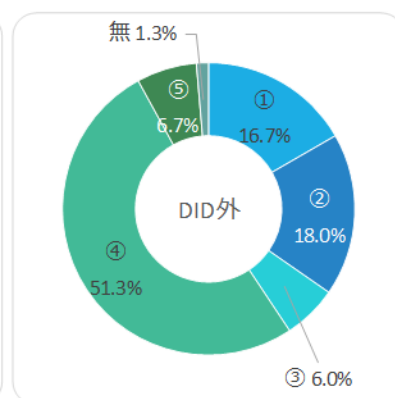
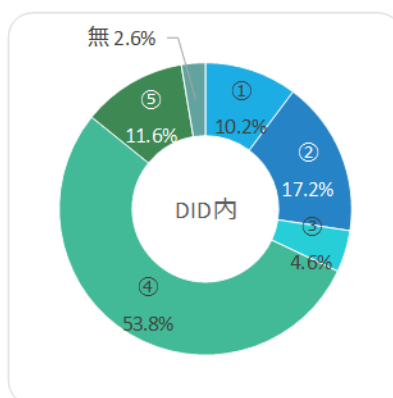
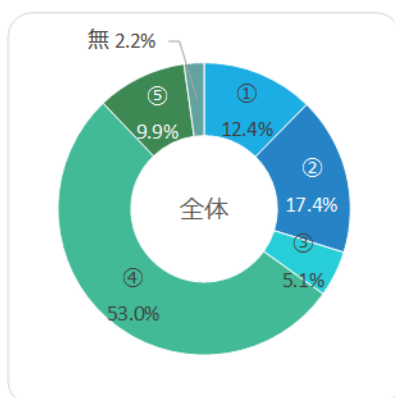
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 知っている	453	303	150	27.6%	26.8%	29.4%
② 知らない	1,089	762	327	66.3%	67.3%	64.1%
無回答	100	67	33	6.1%	5.9%	6.5%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問10】 問9について、それはどのようにして知りましたか。

あてはまるものを1つ選んでください。(問9で『①知っている』と回答した方が対象)

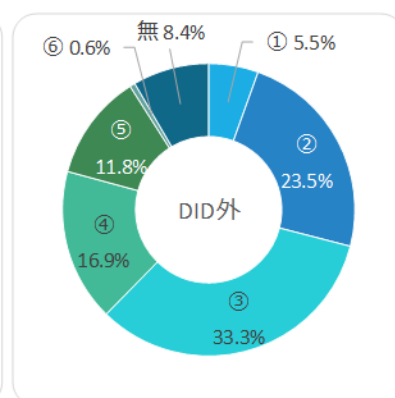
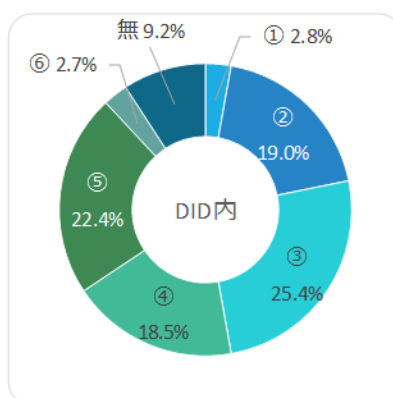
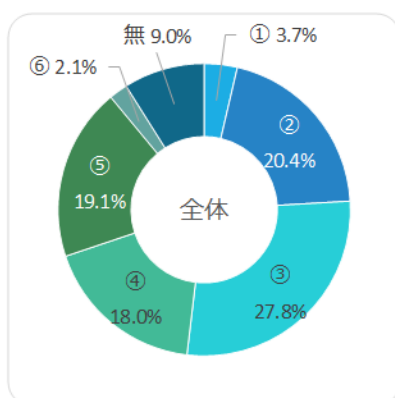
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 市の担当者から聞いた	56	31	25	12.4%	10.2%	16.7%
② 知人から聞いた	79	52	27	17.4%	17.2%	18.0%
③ 市のホームページから知った	23	14	9	5.1%	4.6%	6.0%
④ 広報ひろさきで知った	240	163	77	53.0%	53.8%	51.3%
⑤ その他	45	35	10	9.9%	11.6%	6.7%
無回答、無効	10	8	2	2.2%	2.6%	1.3%
総計	453	303	150	100.0%	100.0%	100.0%



【問11】 お住いの地区の冬期間の「幹線道路」の車の走りやすさはどう思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

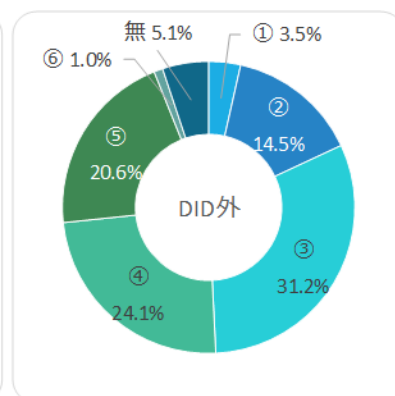
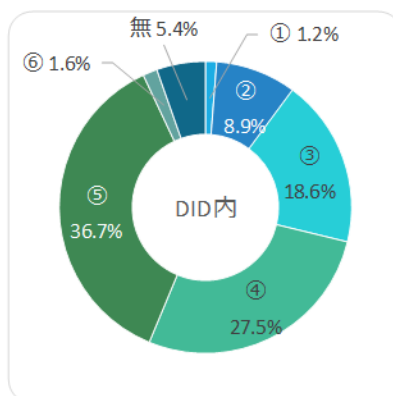
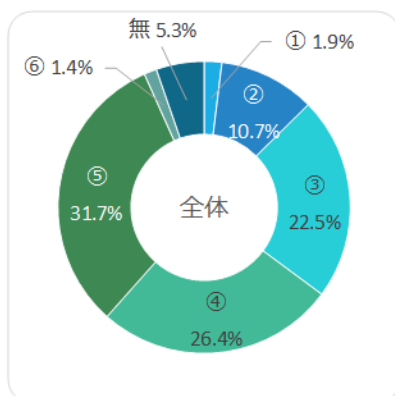
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 良い	60	32	28	3.7%	2.8%	5.5%
② おおむね良い	335	215	120	20.4%	19.0%	23.5%
③ 普通	457	287	170	27.8%	25.4%	33.3%
④ やや悪い	295	209	86	18.0%	18.5%	16.9%
⑤ 悪い	314	254	60	19.1%	22.4%	11.8%
⑥ わからない	34	31	3	2.1%	2.7%	0.6%
無回答、無効	147	104	43	9.0%	9.2%	8.4%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問12】 お住いの地区の冬期間の「生活道路」の車の走りやすさはどう思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

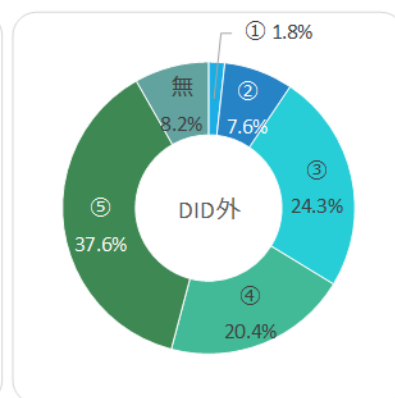
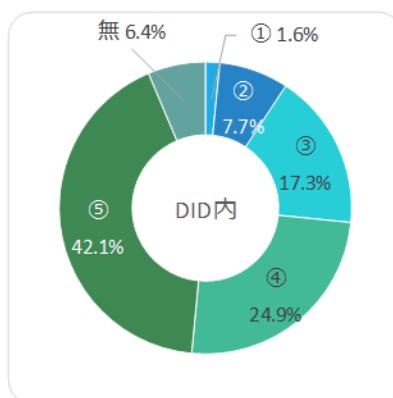
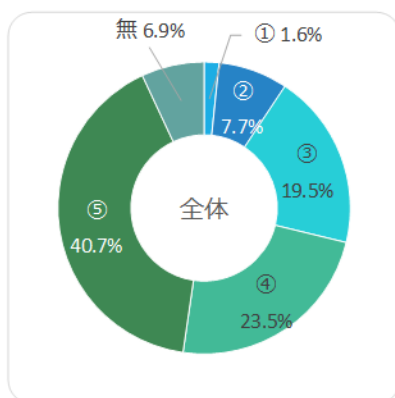
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 良い	32	14	18	1.9%	1.2%	3.5%
② おおむね良い	175	101	74	10.7%	8.9%	14.5%
③ 普通	370	211	159	22.5%	18.6%	31.2%
④ やや悪い	434	311	123	26.4%	27.5%	24.1%
⑤ 悪い	521	416	105	31.7%	36.7%	20.6%
⑥ わからない	23	18	5	1.4%	1.6%	1.0%
無回答	87	61	26	5.3%	5.4%	5.1%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問13】 お住いの地区の冬期間の「歩道」の歩きやすさはどう思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

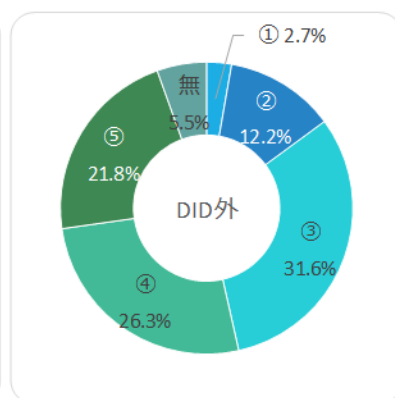
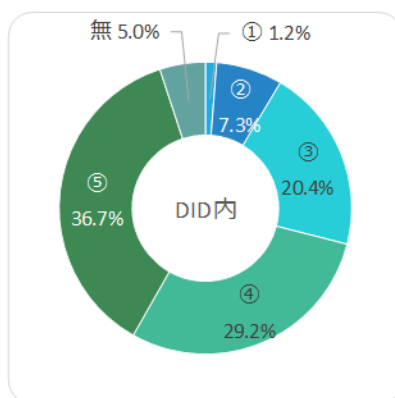
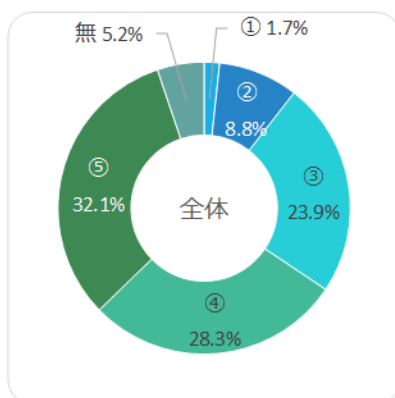
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 良い	27	18	9	1.6%	1.6%	1.8%
② おおむね良い	126	87	39	7.7%	7.7%	7.6%
③ 普通	320	196	124	19.5%	17.3%	24.3%
④ やや悪い	386	282	104	23.5%	24.9%	20.4%
⑤ 悪い	669	477	192	40.7%	42.1%	37.6%
⑥ わからない	114	72	42	6.9%	6.4%	8.2%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問14】 お住いの地区の冬期間の「交差点の見通し」についてどう思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 良い	28	14	14	1.7%	1.2%	2.7%
② おおむね良い	145	83	62	8.8%	7.3%	12.2%
③ 普通	392	231	161	23.9%	20.4%	31.6%
④ やや悪い	465	331	134	28.3%	29.2%	26.3%
⑤ 悪い	527	416	111	32.1%	36.7%	21.8%
無回答	85	57	28	5.2%	5.0%	5.5%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%

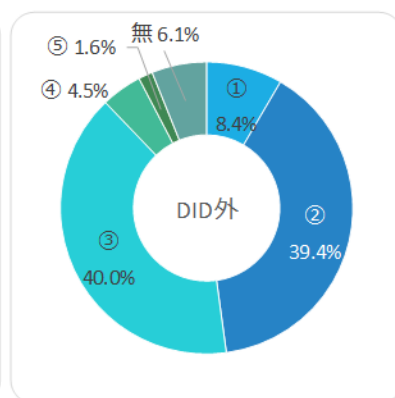
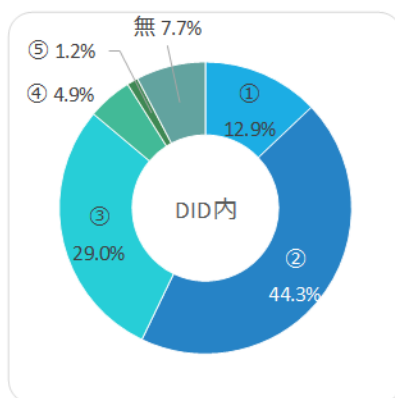
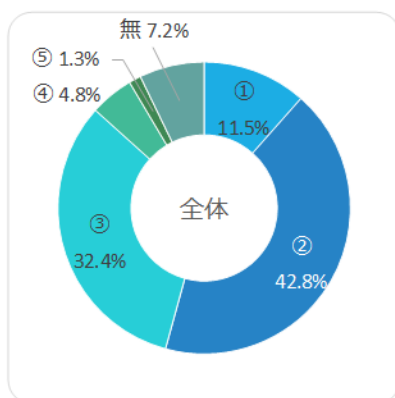


【問15】 市の除排雪経費は10年平均で約14億円となっており、1シーズン市民一人当たりの額は約8,000円です。

この額についてどう考えますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 少なすぎるので増加し、雪対策を拡充すべき	189	146	43	11.5%	12.9%	8.4%
② もう少し増やし、雪対策を拡充すべき	702	501	201	42.8%	44.3%	39.4%
③ 市全体の施策を考え現状維持	532	328	204	32.4%	29.0%	40.0%
④ もう少し削減し、その他の施策を拡充すべき	79	56	23	4.8%	4.9%	4.5%
⑤ 多すぎるので削減し、その他の施策を拡充すべき	22	14	8	1.3%	1.2%	1.6%
無回答	118	87	31	7.2%	7.7%	6.1%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問16】 除排雪経費のなかで優先的に予算を投じていくべきとお考えのものについてお聞きます。

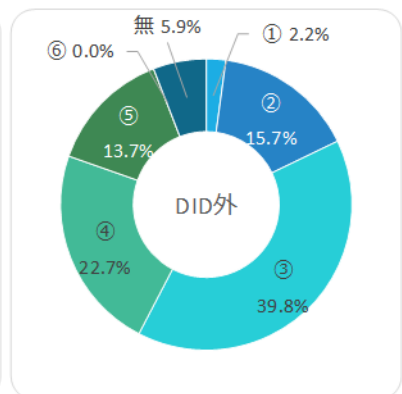
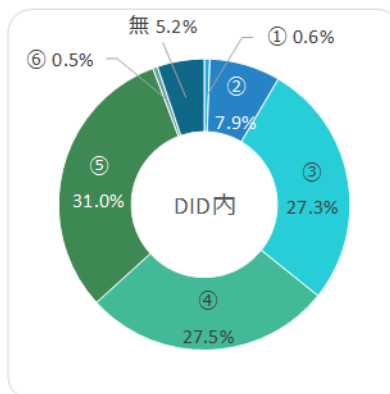
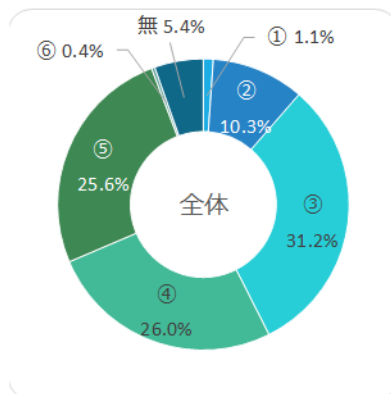
あてはまるものを3つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 幹線道路の幅員確保	501	308	193	11.4%	10.2%	14.2%
② 生活道路の幅員確保	988	649	339	22.5%	21.4%	24.9%
③ 私道や狭隘道路の幅員確保	225	167	58	5.1%	5.5%	4.3%
④ 路面状態(走行性)の確保	324	187	137	7.4%	6.2%	10.1%
⑤ 路面の凍結抑制	103	68	35	2.3%	2.2%	2.6%
⑥ 歩道除雪の強化	385	300	85	8.8%	9.9%	6.3%
⑦ 一般除雪の出動回数の増加	281	169	112	6.4%	5.6%	8.2%
⑧ 寄せ雪の処理	852	655	197	19.4%	21.6%	14.5%
⑨ 交差点の見通し確保	415	306	109	9.5%	10.1%	8.0%
⑩ 雪置き場の拡充	111	77	34	2.5%	2.5%	2.5%
⑪ 行止まりの雪山の処理	54	36	18	1.2%	1.2%	1.3%
⑫ その他	50	40	10	1.1%	1.3%	0.7%
無回答、無効	100	68	32	2.3%	2.2%	2.4%
総計	4,389	3,030	1,359	100.0%	100.0%	100.0%

【問17】 お住いの地区の「除排雪状況」を総合的にどう思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

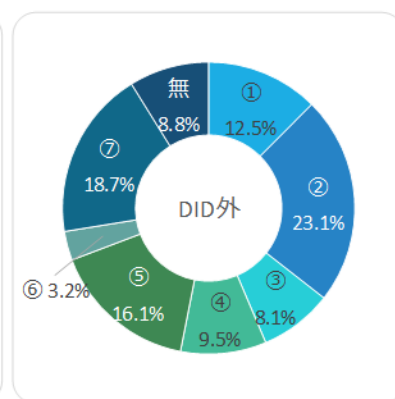
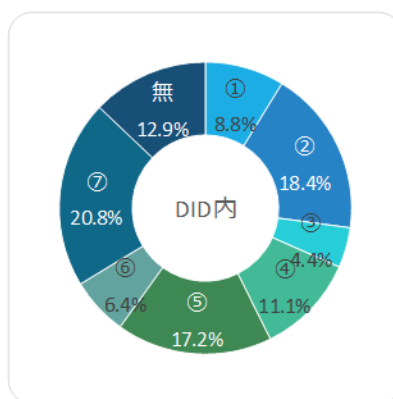
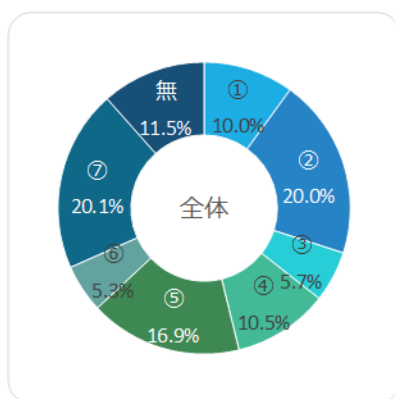
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 満足している	18	7	11	1.1%	0.6%	2.2%
② おおむね満足している	169	89	80	10.3%	7.9%	15.7%
③ どちらとも言えないが、冬の事であり仕方ないと思う	512	309	203	31.2%	27.3%	39.8%
④ やや不満である	427	311	116	26.0%	27.5%	22.7%
⑤ 不満である	421	351	70	25.6%	31.0%	13.7%
⑥ その他	6	6	-	0.4%	0.5%	0.0%
無回答、無効	89	59	30	5.4%	5.2%	5.9%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



協働による雪対策について

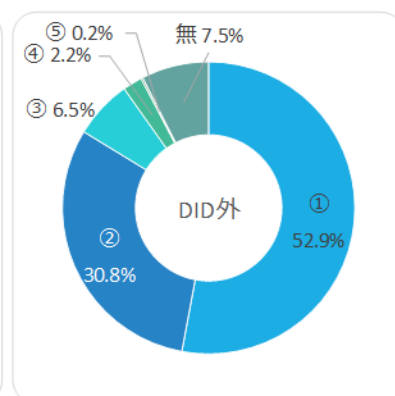
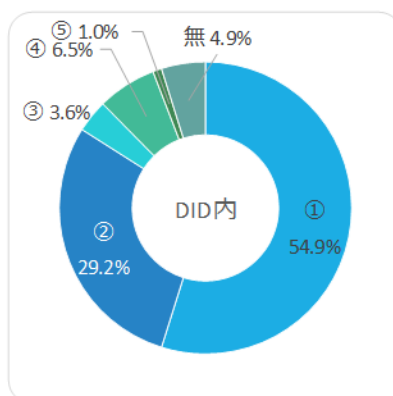
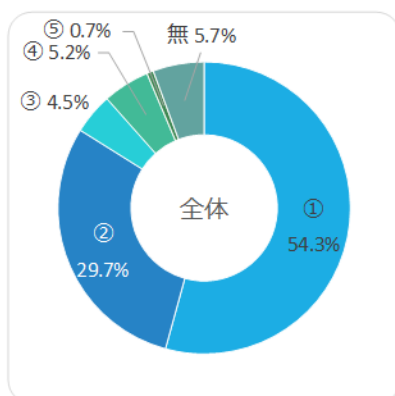
【問18】 弘前市が行っている市民協働による雪対策支援事業について、知っている制度をお聞きたいします。
あてはまるものをすべて選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 町会等除雪報償金	382	223	159	10.0%	8.8%	12.5%
② 小型除雪機町会貸出事業	763	468	295	20.0%	18.4%	23.1%
③ 地域除排雪活動支援事業	216	113	103	5.7%	4.4%	8.1%
④ 町会雪置き場事業	403	282	121	10.5%	11.1%	9.5%
⑤ 社会福祉協議会による除雪支援事業	644	438	206	16.9%	17.2%	16.1%
⑥ 融雪装置設置資金貸付制度	204	163	41	5.3%	6.4%	3.2%
⑦ 屋根雪下ろし転落防止用器具の貸出	768	529	239	20.1%	20.8%	18.7%
無回答	441	328	113	11.5%	12.9%	8.8%
総計	3,821	2,544	1,277	100.0%	100.0%	100.0%



【問19】 お住いの世帯では【ご近所付き合い】はありますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

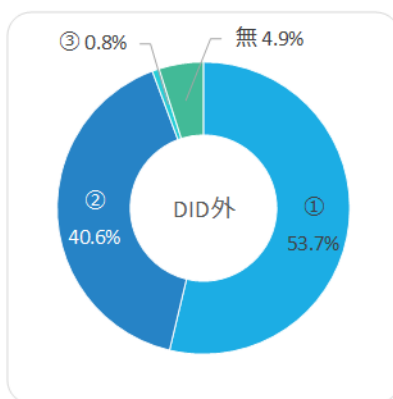
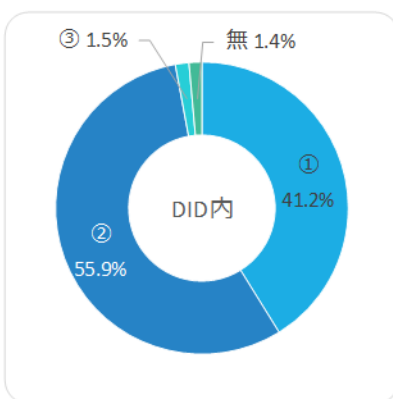
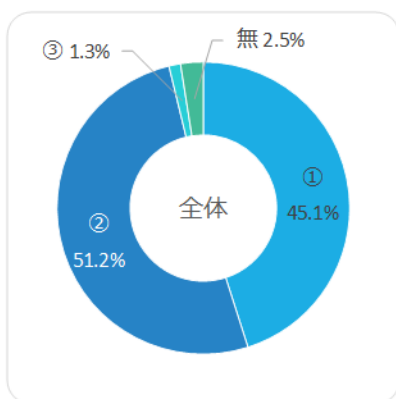
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 挨拶をする	891	621	270	54.3%	54.9%	52.9%
② 立ち話をする	487	330	157	29.7%	29.2%	30.8%
③ 家を訪問する	74	41	33	4.5%	3.6%	6.5%
④ 近所付き合いはない	85	74	11	5.2%	6.5%	2.2%
⑤ その他	12	11	1	0.7%	1.0%	0.2%
無回答、無効	93	55	38	5.7%	4.9%	7.5%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問20】 町会活動やご近所付き合いなどで、自宅以外の寄せ雪の処理などを【行った又は、行ってもらった】ことはありますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

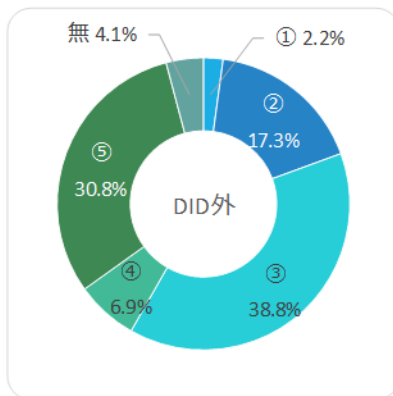
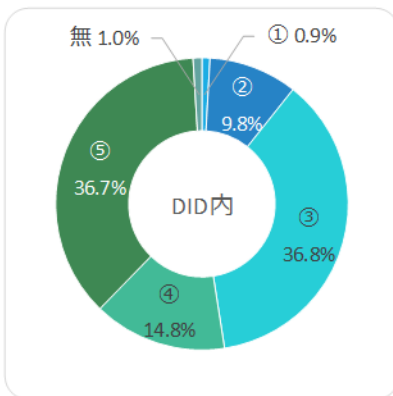
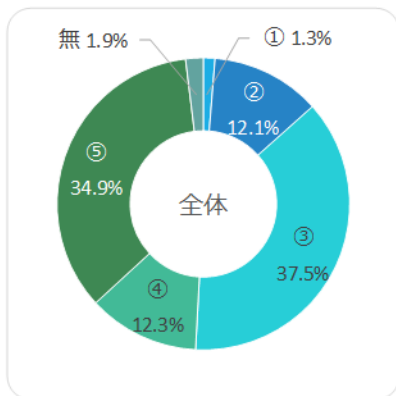
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① ある	740	466	274	45.1%	41.2%	53.7%
② ない	840	633	207	51.2%	55.9%	40.6%
③ その他	21	17	4	1.3%	1.5%	0.8%
無回答、無効	41	16	25	2.5%	1.4%	4.9%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問21】 弘前市の雪対策において、「市民と行政の協働」はどの程度進んでいると思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① よく進んでいる	21	10	11	1.3%	0.9%	2.2%
② やや進んでいる	199	111	88	12.1%	9.8%	17.3%
③ あまり進んでいない	615	417	198	37.5%	36.8%	38.8%
④ 全く進んでいない	202	167	35	12.3%	14.8%	6.9%
⑤ よく分からない	573	416	157	34.9%	36.7%	30.8%
無回答、無効	32	11	21	1.9%	1.0%	4.1%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%

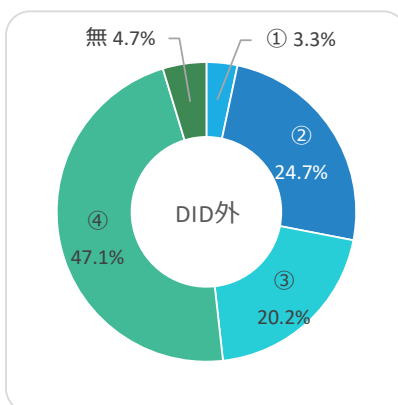
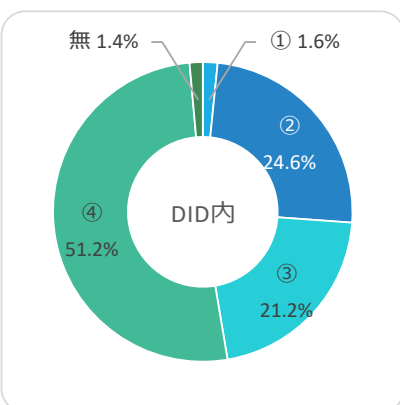
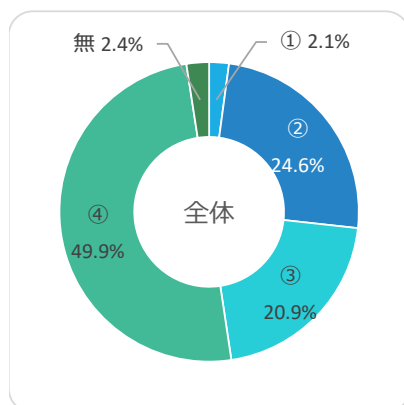


【問22】 除排雪業務以外で特に推進していくべきとお考えのものについてお聞きます。
あてはまるものを3つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 町会等への支援制度の拡充	554	297	257	12.5%	9.7%	18.7%
② 民間マッチングサイトによる有償の雪処理の普及促進	258	188	70	5.8%	6.2%	5.1%
③ 雪処理ボランティアの体制強化	405	281	124	9.2%	9.2%	9.0%
④ 高齢者、障がい者等に対する支援制度の拡充	973	693	280	22.0%	22.7%	20.4%
⑤ 冬期間の空き家対策	294	181	113	6.6%	5.9%	8.2%
⑥ 雪に強い地域づくりへの支援	551	391	160	12.4%	12.8%	11.6%
⑦ 雪を活用した冷熱エネルギーの利用促進	365	280	85	8.2%	9.2%	6.2%
⑧ 雪に親しむ冬期間の観光イベントの促進	100	58	42	2.3%	1.9%	3.1%
⑨ ウィンタースポーツの推進	49	37	12	1.1%	1.2%	0.9%
⑩ 消融雪施設の整備	801	602	199	18.1%	19.7%	14.5%
無回答、無効	76	43	33	1.7%	1.4%	2.4%
総計	4,426	3,051	1,375	100.0%	100.0%	100.0%

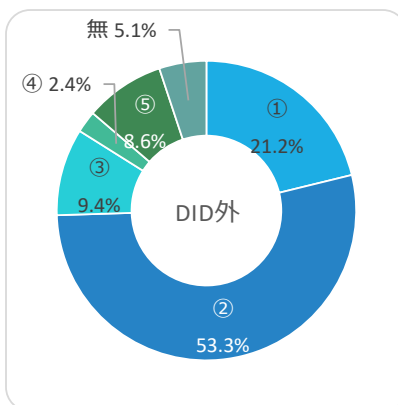
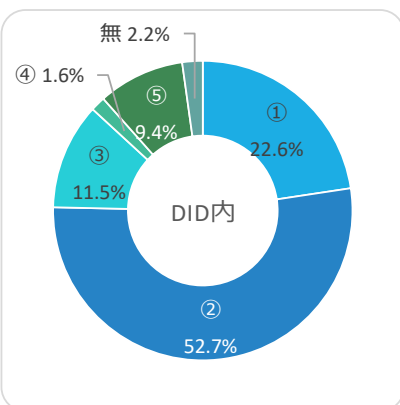
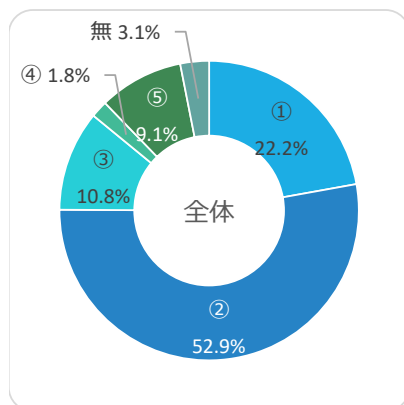
- 【問23】 高齢者等などの除雪困難者世帯を対象に弘前市社会福祉協議会がボランティア除雪を実施する『除雪支援事業』についてお聞かいたします。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① この事業を知っており、利用している	35	18	17	2.1%	1.6%	3.3%
② この事業を知っているが、利用していない	404	278	126	24.6%	24.6%	24.7%
③ この事業を知っており、将来的に利用したい	343	240	103	20.9%	21.2%	20.2%
④ この事業について知らなかった	820	580	240	49.9%	51.2%	47.1%
無回答、無効	40	16	24	2.4%	1.4%	4.7%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



- 【問24】 問23は無償で雪処理を行う事業ですが、申請世帯の課税状況により一部負担を求めて実施している自治体もあります。これに関してどう思いますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

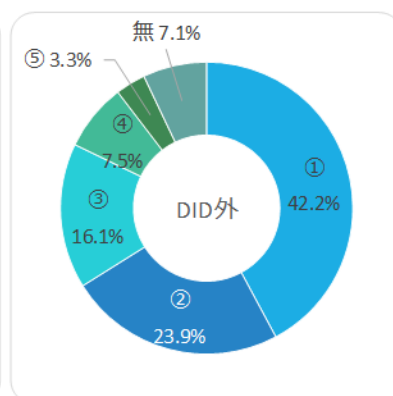
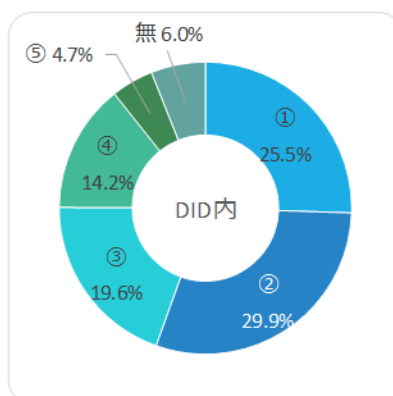
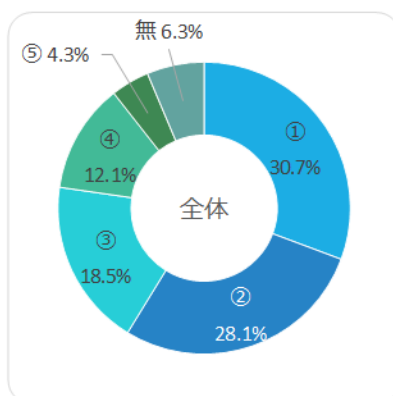
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 無償で実施すべき	364	256	108	22.2%	22.6%	21.2%
② 負担が発生するのはしょうがない	869	597	272	52.9%	52.7%	53.3%
③ 負担を増やしてでも実施すべき	178	130	48	10.8%	11.5%	9.4%
④ 事業として必要ない	30	18	12	1.8%	1.6%	2.4%
⑤ 分からない	150	106	44	9.1%	9.4%	8.6%
無回答、無効	51	25	26	3.1%	2.2%	5.1%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問25】 市による除雪困難者世帯への対策として、どのような施策の展開を優先すべきと考えますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 町会等に対する支援制度の拡充	504	289	215	30.7%	25.5%	42.2%
② 社会福祉協議会における除雪ボランティアの増員	461	339	122	28.1%	29.9%	23.9%
③ 民間事業者による有償の雪処理サービスの普及展開	304	222	82	18.5%	19.6%	16.1%
④ 学生等による除雪ボランティア活動の拡充	199	161	38	12.1%	14.2%	7.5%
⑤ その他	70	53	17	4.3%	4.7%	3.3%
無回答、無効	104	68	36	6.3%	6.0%	7.1%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%

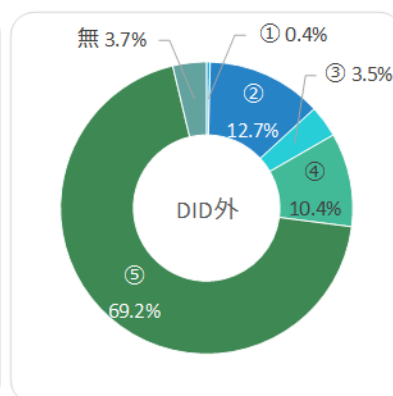
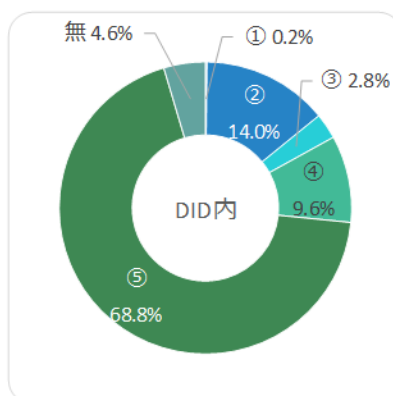
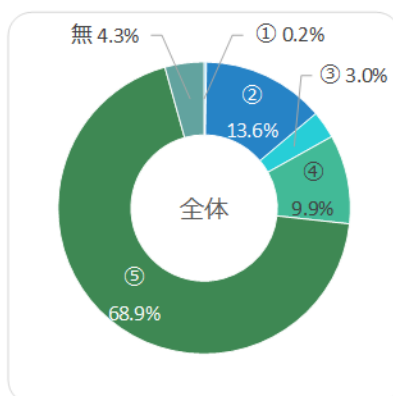


【問26】 民間事業者のマッチングサイトを介した有償の雪処理サービスが弘前市でも事業展開しております。

このサービスについてお聞きたいです。

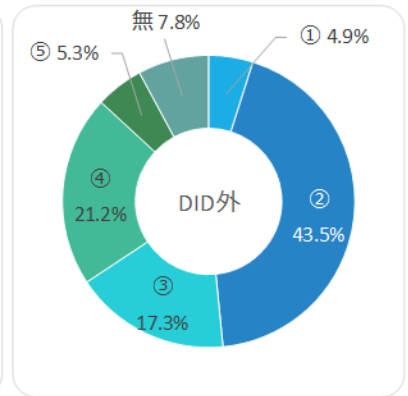
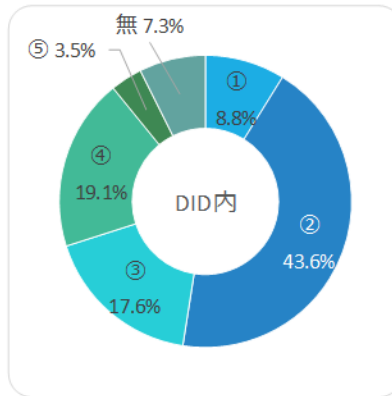
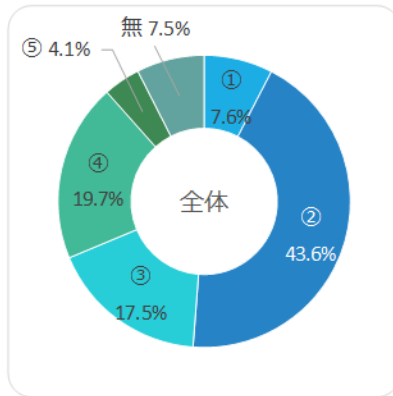
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① このサービスを利用している	4	2	2	0.2%	0.2%	0.4%
② 知っているが状況を見守りたい	223	158	65	13.6%	14.0%	12.7%
③ 知っていて、利用したいがスマホ等の操作が難しい	50	32	18	3.0%	2.8%	3.5%
④ 知っているが必要がない	162	109	53	9.9%	9.6%	10.4%
⑤ 知らなかった	1,132	779	353	68.9%	68.8%	69.2%
無回答、無効	71	52	19	4.3%	4.6%	3.7%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



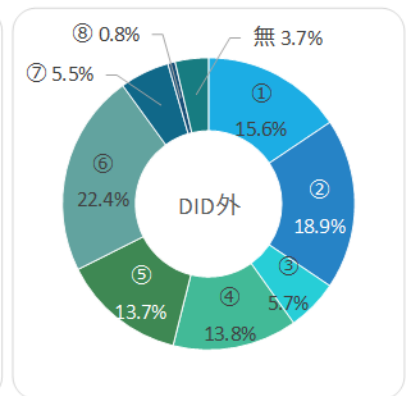
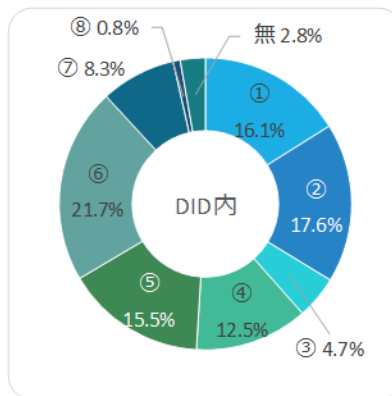
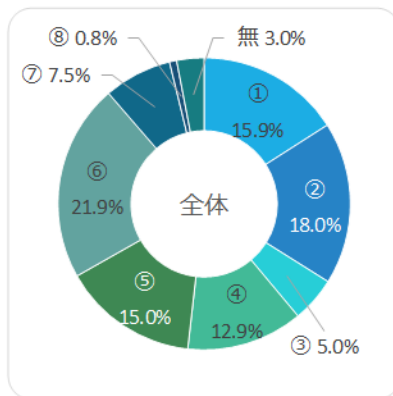
【問27】 問26のサービスで寄せ雪処理を依頼する場合、1時間でどの程度であれば報酬を支払っても良いと考えますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 500円程度	125	100	25	7.6%	8.8%	4.9%
② 1,000円程度	716	494	222	43.6%	43.6%	43.5%
③ 1,500円程度	287	199	88	17.5%	17.6%	17.3%
④ 2,000円程度	324	216	108	19.7%	19.1%	21.2%
⑤ 2,500円以上	67	40	27	4.1%	3.5%	5.3%
無回答、無効	123	83	40	7.5%	7.3%	7.8%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問28】 問26のサービスで寄せ雪処理を依頼する場合、不安に感じることは何ですか。
あてはまるものをすべて選んでください。

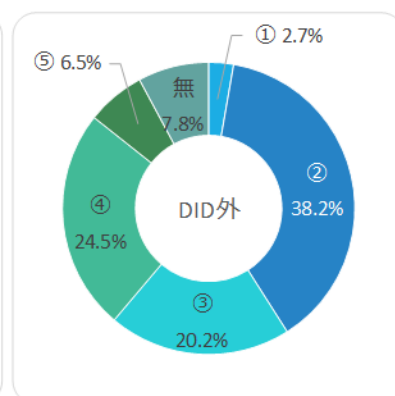
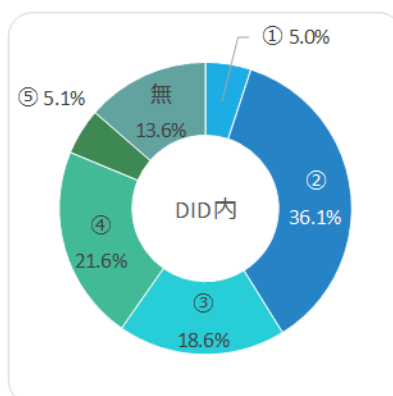
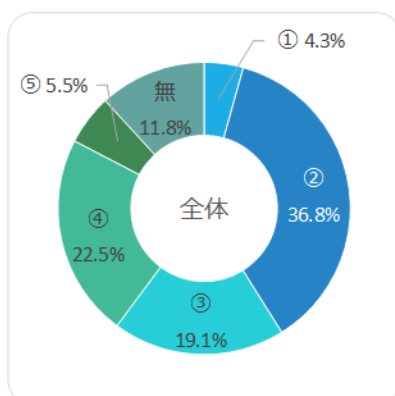
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 相手の素性	644	471	173	15.9%	16.1%	15.6%
② 約束通り作業を実施するか	727	517	210	18.0%	17.6%	18.9%
③ スマホ等の操作	202	139	63	5.0%	4.7%	5.7%
④ 報酬のやり取り	520	367	153	12.9%	12.5%	13.8%
⑤ 提供されるサービスの質	606	454	152	15.0%	15.5%	13.7%
⑥ 物損やケガなどトラブル発生時の対応	884	635	249	21.9%	21.7%	22.4%
⑦ 個人情報の漏洩	304	243	61	7.5%	8.3%	5.5%
⑧ その他	32	23	9	0.8%	0.8%	0.8%
無回答、無効	122	81	41	3.0%	2.8%	3.7%
総計	4,041	2,930	1,111	100.0%	100.0%	100.0%



【問29】 問26のサービスで寄せ雪処理を行う場合、1時間でどの程度の報酬を得たいと考えますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

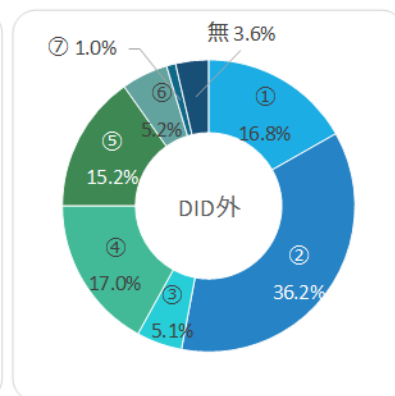
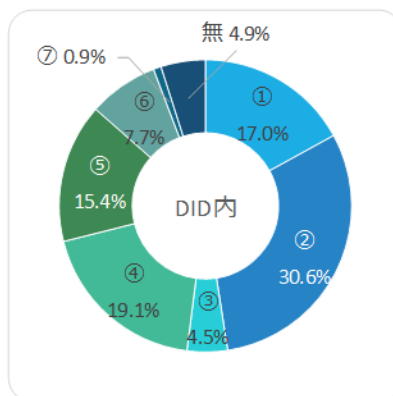
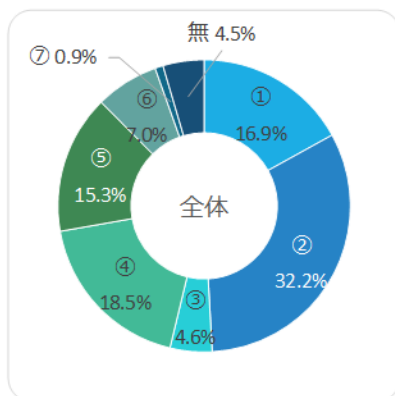
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 500円程度	71	57	14	4.3%	5.0%	2.7%
② 1,000円程度	604	409	195	36.8%	36.1%	38.2%
③ 1,500円程度	313	210	103	19.1%	18.6%	20.2%
④ 2,000円程度	369	244	125	22.5%	21.6%	24.5%
⑤ 2,500円以上	91	58	33	5.5%	5.1%	6.5%
無回答、無効	194	154	40	11.8%	13.6%	7.8%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問30】 問26のサービスで寄せ雪処理を行う場合、不安に感じることは何ですか。

あてはまるものをすべて選んでください。

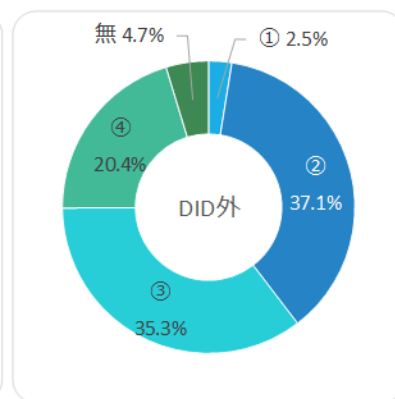
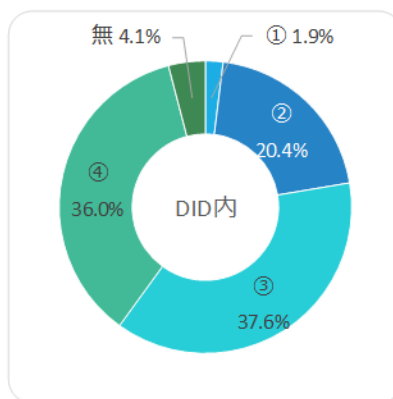
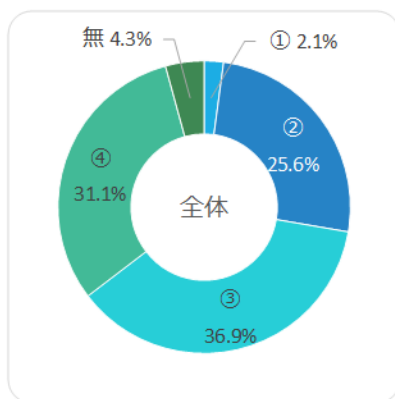
	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 相手の素性	582	416	166	16.9%	17.0%	16.8%
② 物損やケガなどトラブル発生時の対応	1,105	747	358	32.2%	30.6%	36.2%
③ スマホ等の操作	159	109	50	4.6%	4.5%	5.1%
④ 求められるサービスの質	634	466	168	18.5%	19.1%	17.0%
⑤ 報酬のやり取り	527	377	150	15.3%	15.4%	15.2%
⑥ 個人情報の漏洩	240	189	51	7.0%	7.7%	5.2%
⑦ その他	31	21	10	0.9%	0.9%	1.0%
無回答、無効	156	120	36	4.5%	4.9%	3.6%
総計	3,434	2,445	989	100.0%	100.0%	100.0%



雪処理に関する広報について

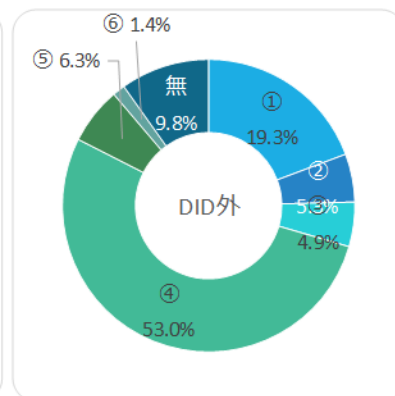
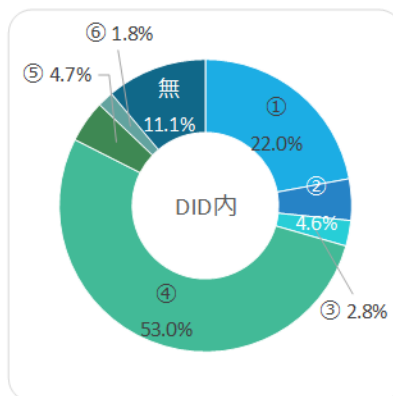
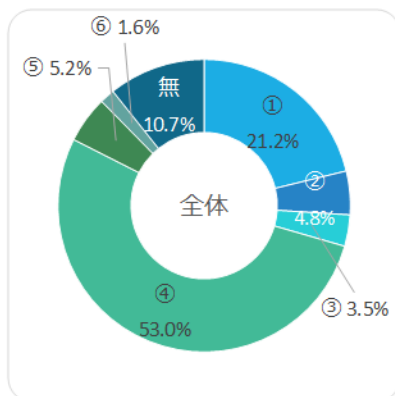
【問31】 あなたがお住いの地区の道路除排雪に関する情報は十分伝わっていると感じますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 十分に伝わっている	35	22	13	2.1%	1.9%	2.5%
② おおむね伝わっている	420	231	189	25.6%	20.4%	37.1%
③ やや不十分である	606	426	180	36.9%	37.6%	35.3%
④ 不十分である	511	407	104	31.1%	36.0%	20.4%
無回答	70	46	24	4.3%	4.1%	4.7%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



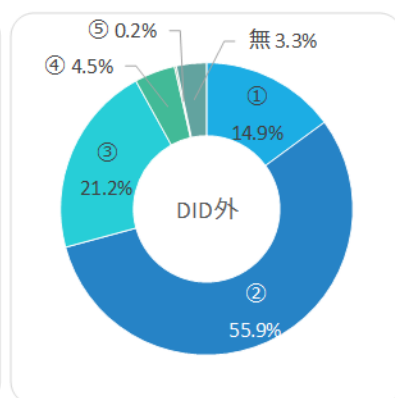
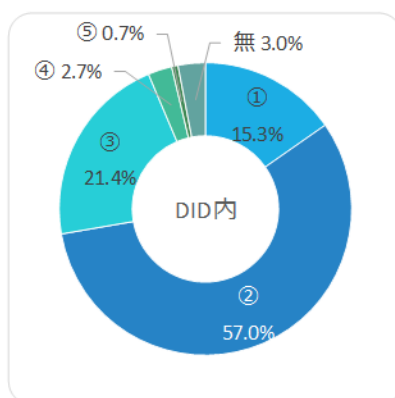
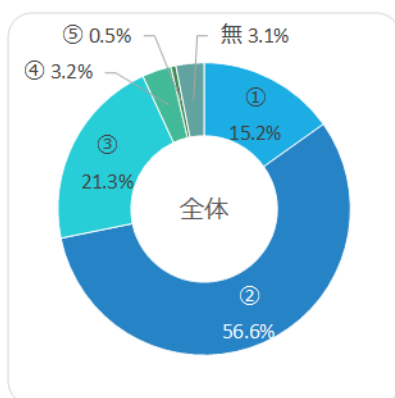
【問32】 市ではこれまで、ホームページやラジオなどでリアルタイムに雪対策に関する情報を発信しておりますが、今後どのような情報の提供を希望しますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 一般除雪(かき分け除雪)の出勤	348	250	98	21.2%	22.0%	19.3%
② 雪置き場の開設	79	52	27	4.8%	4.6%	5.3%
③ 市内の冬季の気象状況	57	32	25	3.5%	2.8%	4.9%
④ 道路の拡幅作業(運搬排雪、拡幅除雪等)の予定	870	601	269	53.0%	53.0%	53.0%
⑤ 冬期の緊急・防災情報	85	53	32	5.2%	4.7%	6.3%
⑥ その他	27	20	7	1.6%	1.8%	1.4%
無回答、無効	176	126	50	10.7%	11.1%	9.8%
総計	1,642	1,134	508	100.0%	100.0%	100.0%



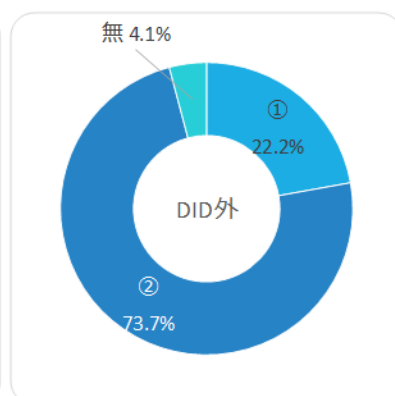
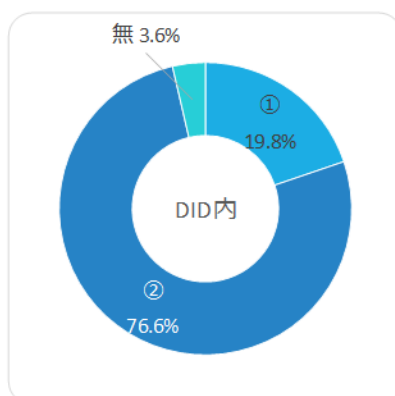
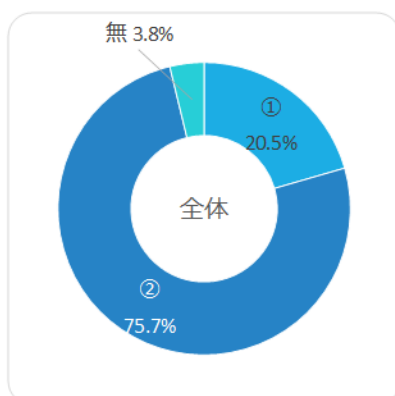
【問33】 「広報ひろさき」に雪処理に関する記事が掲載されていることを知っていますか。また、読んでいますか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 知っており、よく読んでいる	249	173	76	15.2%	15.3%	14.9%
② 知っているが、目を通す程度	930	645	285	56.6%	57.0%	55.9%
③ 知らない	350	242	108	21.3%	21.4%	21.2%
④ 知っているが読まない	53	30	23	3.2%	2.7%	4.5%
⑤ その他	9	8	1	0.5%	0.7%	0.2%
無回答、無効	51	34	17	3.1%	3.0%	3.3%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問34】 除排雪に関する情報を発信しているひろさき便利マップについてご存じですか。
あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 知っている	337	224	113	20.5%	19.8%	22.2%
② 知らない	1,243	867	376	75.7%	76.6%	73.7%
無回答	62	41	21	3.8%	3.6%	4.1%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



【問35】 雪対策に関する情報について、どのような媒体で入手していますか。

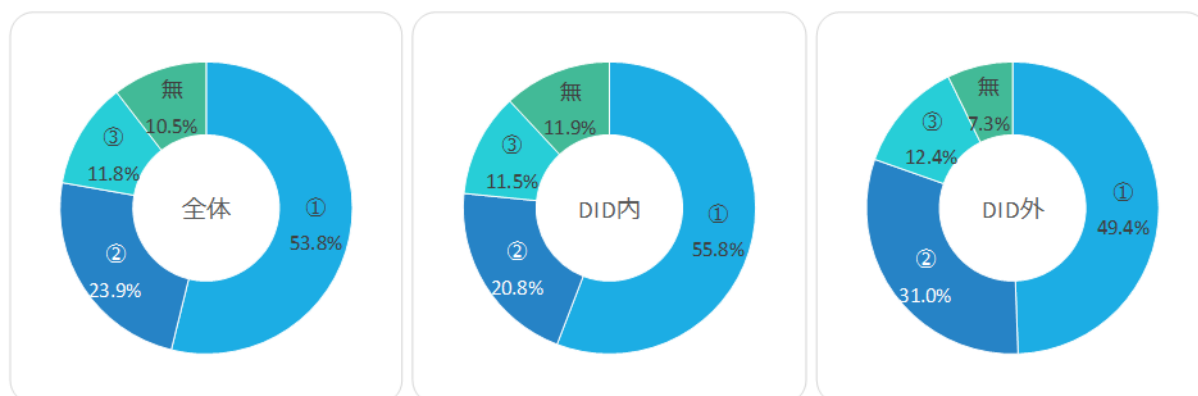
あてはまるものをすべて選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 広報誌(広報ひろさき)	831	593	238	35.1%	36.8%	31.5%
② 町会等の回覧物	488	305	183	20.6%	18.9%	24.2%
③ 弘前市ホームページ	134	99	35	5.7%	6.1%	4.6%
④ 新聞	214	143	71	9.0%	8.9%	9.4%
⑤ ひろさき便利まっぷ	56	37	19	2.4%	2.3%	2.5%
⑥ ラジオ	124	73	51	5.2%	4.5%	6.8%
⑦ 電話で問い合わせ	37	22	15	1.6%	1.4%	2.0%
⑧ 入手していない	385	270	115	16.3%	16.8%	15.2%
⑨ その他	29	21	8	1.2%	1.3%	1.1%
無回答、無効	68	48	20	2.9%	3.0%	2.6%
総計	2,366	1,611	755	100.0%	100.0%	100.0%

【問36】 雪対策に関する電子媒体(ホームページ、SNS等)での情報発信について、今後どのように進めるべきと考えますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

	件数			割合		
	全体	DID内	DID外	全体	DID内	DID外
① 充実すべき	884	632	252	53.8%	55.8%	49.4%
② 現状を維持すべき	393	235	158	23.9%	20.8%	31.0%
③ 簡素化すべき	193	130	63	11.8%	11.5%	12.4%
無回答、無効	172	135	37	10.5%	11.9%	7.3%
総計	1,642	1,132	510	100.0%	100.0%	100.0%



○旧プラン体系図

① 市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち

〔政策の方向性〕

② 雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適な暮らしを創るまち

- 資 22 -

〔政策の方向性〕

③ 迅速な対応ができる、安全安心なまち

〔目 標〕	〔項 目〕	〔施策の展開〕	〔主担当課名〕
降雪・積雪への迅速な対応	状況の把握と対策	施策３３：広域的な関係機関との連携 施策３４：迅速な情報収集体制と市民の安全の確保 施策３５：市民にとってわかりやすい情報提供の改善	(防災課) (防災課) (道路維持課)

〔政策の方向性〕

④ 雪との共生を図り、くらし続けられるまち

〔目 標〕	〔項 目〕	〔施策の展開〕	〔主担当課名〕
雪資源の活用	雪冷熱エネルギーの活用	施策３６：雪冷熱エネルギーの活用の検討	(農政課)
	冬季観光の推進	施策３７：冬季観光の推進(弘前城雪燈籠まつり) 施策３８：魅力的な冬季体験型観光の推進	(観光課) (観光課)
雪に親しむ	雪への愛着	施策３９：岩木山ウィンターフェスティバルへの支援 施策４０：スキー教室等への支援 施策４１：冬季スポーツの普及促進と地域活性化 施策４２：学校教育における親雪・遊雪	(スポーツ振興課) (スポーツ振興課) (スポーツ振興課) (学校指導課)

旧プラン個別施策評価

[政策の方向性]

① 市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち

[目 標]	[項 目]	[施策の展開]	[担当課名]
協働による雪対策	地域コミュニティの共助	施策 1：地域共助による雪対策の創出 施策 2：地域共助による除排雪活動への支援 施策 3：市民の発案・町会等との連携による雪対策の推進 施策 4：雪に強い住環境の推進 施策 5：町会における雪置き場開設の支援 施策 6：市が除雪を行わない生活道路の除雪活動への支援 施策 7：町会等への小型除雪機の貸出 施策 8：屋根の雪下ろし転落防止用器具の貸出 施策 9：融雪装置設置の支援 施策 10：学校校庭等の雪置き場としての推進	(道路維持課) (道路維持課) (道路維持課) (建築指導課) (道路維持課) (道路維持課) (道路維持課) (市民協働課) (道路維持課) (学校整備課)

[政策の方向性] ①市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち				
[目標] 協働による雪対策				
[項目] 地域コミュニティの共助				
No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 1	地域共助による雪対策の創出	【掲載コメント】 雪対策における地域共助として、ご近所同士の助け合いや地元企業による地域支援が促進しやすい環境づくりを検討します。(次世代型共助創出事業(雪対策)) ○地域に存在する人材(労力)、モノ(小型除雪機)などの資源を有効活用し、市民が互いに助け合い、補い合える持続可能な地域共助による仕組みの検討。	〈道路維持課〉 ・令和2年度よりシェアリングエコノミーを雪対策に活用した実証事業(次世代型共助事業)を開始。(企業が所有する遊休小型除雪機を市の仲介により町会に貸出し、町会活動の効率化を図るもの。) ・市がプラットフォームとしてアナログマッチングを行い、令和2年度は3事業者、3町会及び市による3つのマッチングが成立し、三者間による協定を締結した。 ・令和3年度はさらに1つマッチングが追加され、4つのマッチングによる実証を継続している。 ・実証事業と並行し、検討してきたマッチングシステムの導入については、令和4年度より民間事業者のマッチングサイトが弘前地域で事業展開されることとなり、新たな地域共助創出のきっかけとして期待されることから、広報による支援を実施した。	【評価】 ・次世代型共助事業は、事業者のCSR活動(企業の社会的責任、地域貢献)への意欲が前提の事業であり、町会活動の担い手不足も相まってマッチングの成立が難しいものの、住民生活の向上に高い効果を発揮した。 ・マッチングシステム導入に係る各協議等は、スキームの理解や地域の実情を把握するうえで非常に役立った。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・市民が主体となった、互いに支えあう新たな除排雪の体制づくりを目指し、シェアリングエコノミーの概念を活用したマッチングサイトを介する雪処理サービスの地域普及を図る。 ・実証事業を継続しながら、事業者が参加しやすい環境づくりについて検討するとともに、マッチングのデジタル化やシェア内容の拡充について可能性を継続検討する。

〔政策の方向性〕 ①市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち

〔目標〕 協働による雪対策

〔項目〕 地域コミュニティの共助

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 2	地域共助による除排雪活動への支援	【掲載コメント】 一般除雪によって幅員が狭くなった生活道路において、個人所有の小型除雪機や融雪槽等を活用して拡幅や排雪を行う町会や、企業雪対策ボランティアなどによる除排雪活動を支援します。（地域除排雪活動支援事業）	〈道路維持課〉 ・除雪機械や融雪設備を活用して拡幅、排雪作業や、融雪活動を行う町会等に対し、燃料費や電気料の一部を報償金として支給した。 ・令和2年度より、地域貢献の意向を持つ企業と地元町会を市がマッチングし、除雪作業を実施する「企業連携事業」を開始している。 【実績】 [令和2年度] 除排雪 10 町会、融雪 3 町会、企業連携 1 マッチング [令和3年度] 除排雪 8 町会、融雪 1 団体、1 町会、企業連携 8 マッチング [令和4年度] 除排雪 7 町会、融雪 1 団体、1 町会、企業連携 8 マッチング	【評価】 ・市の除排雪に加え、地域の町会・団体が除排雪や融雪活動を実施することで、きめ細やかな地域除雪活動が実現した。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・町会や団体の除排雪や融雪活動の支援となる他、企業の地域貢献に根差す活動により、地域住民の生活環境の向上に効果が発揮された。 ・今後とも事業への参加意向を示す町会や企業を募りながら事業を継続していく。
施策 3	市民の発案・町会等との連携による雪対策の推進	【掲載コメント】 住宅地などの生活空間は堆雪能力が比較的小さいため、機械除雪に頼るだけでは十分な効果を得ることが難しくなっています。市民が望む、きめ細かい雪処理を実現するために、市民の発案による積極的な地域雪対策の提案に対して支援を検討し、地域内での雪処理能力の向上を図ります。	〈道路維持課〉 ・令和2年度より、次世代に向けた継続性の高い雪対策の検討に向けて、幅広く多角的な視点から、今後の雪対策のあり方に関する意見交換を実施するため、雪対策懇談会を開催した。 ・懇談会は市民の発案の場としてだけでなく、各分野の課題の共有や次世代に向けた継続性の高い雪対策の在り方についての意見が交わされた。 ・雪対策懇談会のメンバーには市民団体をはじめ、福祉、観光、経済、交通、学校及び除排雪関係の合計 14 団体の代表者と、有識者 2 名、市の関連部門長 4 名が参加している。	【評価】 ・雪対策懇談会の意見交換では、各分野の課題の共有が図られ、様々な提案もあがるなど雪対策に関する有意義な意見交換の場として機能した。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・少子高齢化等の社会現象の進行により、次世代に向けた継続性の高い雪対策の実現が求められ、市民や事業者との連携による雪対策が必要不可欠であることから、今後とも雪対策懇談会を継続し、有意義な意見の施策への反映を目指す。
施策 4	雪に強い住環境の推進	【掲載コメント】 冬期の安心した暮らしを確保するため、敷地内の除雪量を少なくする等の対策が必要です。無理な除雪作業は、事故やケガの原因にもなることから、除雪量を少なくする建築物の配置計画や屋根形状について、積極的に情報提供することにより、安全安心な住環境の向上を図ります。 ○敷地内の雪処理に関する情報などを掲載した「雪と寒さに強い青森型省エネ住宅ガイドライン」の活用。 ○「雪と寒さに強い青森型省エネ住宅ガイドライン」を活用した、克雪住宅の促進。	〈建築指導課〉 ・敷地内の雪処理に関する情報などが掲載された「雪と寒さに強い青森型省エネ住宅ガイドライン」を関係団体へ周知するとともに、窓口に設置して克雪住宅の促進を図っている。	【評価】 ・雪処理に係る建築計画については、個人及び設計事務所等で協議しており、市に事前に問い合わせが来ることがない。そのため、直接的に市民の方々に情報提供する機会がなく、建築関係団体等に対して周知するのみに留まっていたため、施策による効果が十分とは言えない状況である。 【新プランにおける方針】 ・拡充・継続 ・施策による効果が十分とは言えない状況であることから、建築関係団体に対して改めて周知するとともに、市民の方々の目に触れる機会を積極的に設けるため、より効果的な施策について検討する。

【政策の方向性】①市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち

【目標】協働による雪対策

【項目】地域コミュニティの共助

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 5	町会における雪置き場開設の支援	【掲載コメント】 住宅地での除雪による寄せ雪などの処理作業の軽減を図るため、空き地所有者の協力による町会雪置き場の開設を支援します。（町会雪置き場事業）	〈道路維持課〉 ・住宅街などで雪置き場の不足を解消にむけ、地域住民のための雪置き場として空き地を無償で町会へ貸し付けした場合、この土地に係る翌年度の固定資産税及び都市計画税の3分の1以内の減免を実施した。 【実績】 [令和2年度]: 32 町会 [令和3年度]: 29 町会 [令和4年度]: 29 町会	【評価】 ・町会雪置き場として活用され、地域住民の冬期間の生活環境の向上に繋がっている。 ・住宅地や狹隘路線など、寄せ雪の置き場が少ない路線で特に大きな効果を発揮している。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・要件の緩和について要望もあることから、今後、事業を継続しながら現状を把握し、制度の拡充について検討していく。
施策 6	市が除雪を行わない生活道路の除雪活動への支援	【掲載コメント】 市が除雪作業を行う以外の生活道路の除雪を行う町会等に対し、報償金を支給し、地域が行う自主的除雪活動を支援します。（町会等除雪報償金）	〈道路維持課〉 ・市が除排雪作業を行う路線以外の生活道路の除雪を行う町会等に対して報償金を支給した。 ・除雪を行う生活道路の延長1mあたりに200円を乗じた額を支給。（平成27年度までは1mあたり180円で実施） 【実績】 [令和2年度]: 49 町会 [令和3年度]: 51 町会 [令和4年度]: 52 町会	【評価】 ・狭隘な生活道路の交通が確保され、冬期間の生活環境の維持が図られた。 ・地域住民による除排雪体制として、自ら除雪を行うという意識づくりに寄与する事業となった。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・支給額の見直しについて要望もあることから、今後、事業を継続しながら現状を把握し、制度の拡充について検討していく。
施策 7	町会等への小型除雪機の貸出	【掲載コメント】 生活道路の除雪作業や高齢者等世帯の間口の雪寄せ処理を行う町会等に小型除雪機を貸し出し、地域が主体的に行う除雪を支援します。（小型除雪機町会貸出事業）	〈道路維持課〉 ・冬期間における市民生活の確保を図るため、生活道路などの除雪を行う町会等に対して、小型除雪機（ハンドガイド）の貸出を平成7年度より実施している。 【実績】 [令和2年度]: 66 町会 [令和3年度]: 66 町会 [令和4年度]: 66 町会	【評価】 ・高齢者等世帯等の間口の寄せ雪処理にも活用され、町会等による除排雪体制の確立に寄与する事業となっている。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・事業効果が高く、市民が主体となった互いに支えあう除排雪体制の構築に寄与する事業であるが、将来的な担い手不足が予測され、現状を把握したうえで機械の更新計画を進める必要がある。

〔政策の方向性〕 ①市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち

〔目標〕 協働による雪対策

〔項目〕 地域コミュニティの共助

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 8	屋根の雪下ろし転落防止器具の貸出	【掲載コメント】 屋根の雪下ろし作業には、はしごや屋根から転落する危険を伴うことから、事故を未然に防ぐため、命綱などを貸出します。	〈市民協働課〉 ①市内5か所の消防署に貸出業務を依頼しており、消防職員の豊富な知識と経験に基づき、的確なアドバイスをしてもらうことに加え、土曜・日曜・祝日も職員が待機し対応できることで、利用者の利便性向上を図った。 【実績】 [令和2年度]：2件 [令和3年度]：24件 [令和4年度]：27件 ②広報ひろさきやFMアップルウェーブ「行政なんでも情報」、陸奥新報「市政だより」、弘前市ホームページを活用し、市民に対し周知を図った。	【評価】 ・雪下ろし作業の安全性を高めるとともに、市民と行政のコミュニケーションを深める間接的効果も期待できる。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・現状において事業の効果が期待できるため、引き続き実施する。
施策 9	融雪装置設置の支援	【掲載コメント】 市内に土地や建物を所有している個人または法人が、その土地等に貸付対象となる融雪装置を設置するために必要な資金を金融機関から借り入れる際、貸付金に係る利子を市が金融機関へ補給することで、融雪装置の普及促進による、冬期における市民生活の向上を図ります。（融雪装置設置資金貸付制度）	〈道路維持課〉 ・個人、法人が融雪装置を設置するために必要な資金の貸付金に係る利子補給を実施し、融雪装置の普及促進を図った。 【実績】 [令和2年度] 新規件数2件、継続件数8件 [令和3年度] 新規件数1件、継続件数8件 [令和4年度] 新規件数3件、継続件数9件	【評価】 ・融雪装置の導入増加に効果を発揮しており、冬期間の市民生活の向上に寄与している。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・新規件数として毎年度申請されており、融雪装置の普及促進に寄与する取組として今後も継続していく。 ・拡充については現状を把握しながら検討していく。
施策 10	学校校庭等の雪置き場としての推進	【掲載コメント】 学校校庭等を、地域住民が利用する雪置き場として活用することを推進します。学校ごとに、地域や学校の実情等を勘案しながら、除雪に係る条件やルールを設定します。	〈学校整備課〉 ・地域住民が雪の置き場に困った際に、学校校庭等が活用されている。	【評価】 ・住民生活の向上に一定の効果を発揮している。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・引き続き、地域住民が利用する雪置き場として活用する。 ・今後、教育活動に大きな支障が出る場合などは、学校関係者等と協議し、施策の見直しを検討する。

〔政策の方向性〕

① 市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち

〔目標〕

〔項目〕

〔施策の展開〕

〔主担当課名〕

協働による雪対策

除雪困難者への支援

施策 1 1：弘前市社会福祉協議会による除雪支援
 施策 1 2：ボランティア活動の支援
 施策 1 3：持続可能な除雪支援の検討

(福祉総務課)
 (道路維持課)
 (福祉総務課)

〔政策の方向性〕 ①市民が主体となり、助け合い、支える安心なまち

〔目標〕 協働による雪対策

〔項目〕 除雪困難者への支援

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 11	弘前市社会福祉協議会による除雪支援	【掲載コメント】 弘前市社会福祉協議会では地区社会福祉協議会と連携し、高齢や障がいなどで自ら除雪を行うのが困難な世帯を対象に、地域住民の助け合いによる「除雪支援事業（ボランティア除雪）」を行っています。 地域福祉活動の推進及び福祉サービスの充実を図るため、弘前市社会福祉協議会が行う除雪支援事業に対して費用の一部を助成します。	〈福祉総務課〉 ・弘前市社会福祉協議会に対し、補助金として1,000円×世帯数を交付した。 ・広報ひろさき「雪処理の手引き」内へ事業の記事を掲載した（10月15日号）。 ・弘前市社会福祉協議会において、事業実施、ボランティア確保についての呼びかけを継続して行った。	【評価】 ・長年実績が無かった地区が令和3年度において事業を実施したため、継続した地区への呼びかけやニーズの増加により、各地区においてより制度理解と協力体制が得られたものと評価する。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・事業のあり方について、現行のまま継続するか、見直しや拡充を図るか検討する。
施策 12	ボランティア活動の支援	【掲載コメント】 冬期の安心した暮らしを確保するとともに、ボランティア活動による地域の支え合い活動の促進のため、ボランティアとの連携による除雪活動や除雪活動を行う個人及び団体等への支援について検討します。	〈道路維持課〉 ・弘前大学ボランティアセンターを中心に、雪処理のボランティア活動（消流雪溝への投雪作業）を実施しており、市は活動への支援を行ってきた。 ・令和2年度には、新たに弘前大学柔道部が活動に参加し、令和3年度からは、弘前医療福祉大学短期大学部と弘前学院大学が参加している。令和4年度も各大学への活動支援を継続しながら、更なる学生の参加促進を図った。	【評価】 ・冬場の生活環境の向上に効果を発揮したほか、地域と学生の交流が生まれ、町会・市民活動団体による「協働によるまちづくりの推進」に寄与した。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・弘前市には学生が多く、学生力を雪対策に活用することが、雪処理の担い手不足対策として有効。 ・更なる学生の参加促進を図り、事業拡充を目指す。
施策 13	持続可能な除雪支援の検討	【掲載コメント】 高齢者などの除雪困難者については、弘前市社会福祉協議会が地区社会福祉協議会と連携し、「除雪支援事業（ボランティア除雪）」を行っています。各地区におけるボランティアが減少傾向にあり、担い手の確保が課題となっています。除雪困難者が冬期も安心して地域で暮らせるよう、まずは、弘前市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会をはじめとする関係団体、町会や地域の声を聴き、実態把握に努めます。 さらに、地縁組織にとらわれない多様な主体による除雪支援のしくみづくりの構築に向けた研究・検討を行います。	〈福祉総務課・弘前市社会福祉協議会〉 ・令和3年度に各地区社会福祉協議会に対しボランティア除雪のほか、各種活動状況に係るヒアリングを実施。 〈弘前市・弘前市社会福祉協議会〉 ・弘前市と弘前市社会福祉協議会がそれぞれ設置していたボランティアセンターを機能統合し、「ひろさきボランティアセンター」が新設された。 ・様々なニーズに対応するため、市と弘前市社会福祉協議会がそれぞれ有する知見を活用し、担い手の掘り起こしのほか、周知や募集に係る手法等を検討することとしている。	【評価】 ・ボランティアセンターの機能が統合され「ひろさきボランティアセンター」が設置されたことにより、今まで市と市社協がそれぞれ持っていたノウハウや情報との共有、機能強化が図られた。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・地縁、地区にとらわれない仕組みなど、新たな担い手の掘り起こしや周知等の研究とあわせ、除雪支援の仕組みづくりの構築等について、地域やボランティア実施者、地区社会福祉協議会等の声を広く聞きながら、市と市社協、ひろさきボランティアセンターをはじめとした関係者間で協議を行っていく。

② 雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適な暮らしを創るまち

[illegible]

「目標」 道路交通の確保

〔項目〕 冬期道路の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 14	地域特性を踏まえた除排雪の対応	【掲載コメント】 少子高齢化の進展により、就労人口の減少による人手不足から、機械除排雪業務従事者の減少が予想されます。 このような事態に備えるため、機械除排雪の効率化は最も重要な課題であり、日々進歩する ICT の技術を活用した雪処理システムの可能性と併せて、山間部、平野部、市街地、農村部の降雪特性を把握し、それぞれの状況に適した除排雪作業について検討します。 ○既往データと新たなデータの整理による地区の降雪特性の把握。 ○降雪特性（場所）に応じた除排雪作業計画基準の見直し。	〈道路維持課〉 ・令和元年度より降雪状況の適時把握に ICT 技術を活用する取組として、積雪センサーによる自動観測システムの段階導入を開始し、令和 3 年度にはシステムの本格導入を行った。 【実績】 ・積雪センサーによる自動観測システムによる雪量観測 [令和 2 年度]：5 箇所 [令和 3 年度]：6 箇所 [令和 4 年度]：6 箇所 ・国土交通省では、令和 2 年度に「国土交通省インフラ分野の DX(デジタル・トランスフォーメーション)推進本部」を設置し、i-Construction(ICT を全面的に建設現場に導入する取組)を中核に、データとデジタル技術を活用して、業務そのものや組織、プロセス、文化や風土、働き方の変革に向けた取組を進めており、こうした国の動向について情報収集を実施。	【評価】 ・降雪量観測の ICT 化については、これまで進めてきた実証により実用段階にあると評価できる。 ・国土交通省の DX に関する取組は実証段階であるものの、除雪補助や自動運転など、担い手不足解消に繋がる技術として実用化が期待される。 【新プランにおける方針】 ・継続、施策 18、23 と統合 ・事業を継続し観測精度の検証を行いながら、データ蓄積を進め、今後の除排雪作業計画基準等の見直しに活用していく。 ・現時点での国の DX への取組は、将来的に除雪機械の自動運転等に繋がるものであり、今後も国の実証を注視しながら、除雪分野への DX の活用について、地域との情報共有を図っていく。

【政策の方向性】 ②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

【目標】 道路交通の確保

【項目】 冬期道路の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 15	持続可能な除 排雪体制の構 築	【掲載コメント】 雪対策については、様々な工種（除排雪、凍結抑制剤散布、流雪溝管理、等）により実施していますが、少子高齢化に伴う就労人口の減少から作業従事者の人手不足、除雪オペレーターの高齢化により、雪対策の担い手の減少が予想されます。将来にわたり、現在の除排雪力を確保し継続していくために、持続可能な除排雪体制の構築に取り組みます。 ○地域特性に配慮した除雪工区の統合についての検討やゾーン包括業務方式の改善。 ○除雪業者に対し、除雪ロータリ車購入に要する費用の支援について検討。 ○除雪オペレーター講習会の実施。	〈道路維持課〉 ・オペレーターの確保、除排雪機械の故障、感染症等不測の事態にも迅速に対応し、継続した除排雪体制を維持するために、令和2年度には、委託20工区から、18工区へ工区統合を実施した。 ・令和4年度除雪オペレーター講習を開催した。※令和2・3年度は、コロナウイルス感染症対策の為、除雪オペレーター講習は開催していない。	【評価】 ・4つの工区を2つの工区に統合したことにより、統合した2つの工区の構成員が増えたことで、オペレーターの確保や不測の事態への対応等、継続した除排雪体制の維持が図られた。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・今後も、工区統合をはじめ継続した除排雪体制の構築を進める。
施策 16	市による直営 除雪体制の維持	【掲載コメント】 道路の除排雪については、業務委託による作業のほか、市職員による直営作業も実施しています。豪雪災害時における緊急的な道路交通の確保や除雪業者への作業支援が可能な除排雪体制を継続していくために、現在の直営除雪体制の維持に努めます。	〈道路維持課〉 【実績】 [令和2年度] 一般除雪 1,390 km 運搬排雪 65km 拡幅除雪 431km 雪山処理 54箇所 [令和3年度] 一般除雪 1,503 km 運搬排雪 57km 拡幅除雪 285km 雪山処理 147箇所 [令和4年度] 一般除雪 1,554 km 運搬排雪 50km 拡幅除雪 401km 雪山処理 130箇所	【評価】 ・直営による豪雪災害時などの緊急・応急対応や除排雪業者への作業支援を実施したことで、安心・安全な冬期間の道路交通が確保された。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・今後も直営による除排雪体制を継続する。

【政策の方向性】②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

【目標】道路交通の確保

【項目】冬期道路の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 17	融雪への地下 水利用の対策	【掲載コメント】 地下水利用による融雪施設については、市民へ普及してきており、協働による雪対策が推進されている一方で、地域の共有資源と地下資源保護の観点に立った対策をする必要があります。 ○市による新たな散水融雪施設の整備を休止。 ○地下資源保護を目的とした、市内各所の地下水位観測の検討。	〈道路維持課〉 ・散水融雪施設の運用は、地域共有資源である地下水を使用することから、地下資源保護の観点に立ち、令和2年度より市内各所において地下水調査業務を実施した。 ・一部の地区の調査結果について、有識者から「一定の揚水量を超えると水位が干渉しあう可能性がある」との見解が示され、「地下水障害の原因や因果関係の特定には継続的な調査が必要」との指摘を受けた。 ・市道豊田4号線の散水融雪施設について、地下水の揚水量低下から融雪効果が減少し、道路状況が悪化したため、令和5年度に地元町会と協議のうえ稼働を停止した。 ・他地区における散水融雪施設及び地下水を利用する消流雪溝についても、地下水の揚水量低下の報告があり、稼働を継続することが難しい状況。	【評価】 ・散水融雪施設及び地下水を利用する消流雪溝は、地下水の揚水量低下に伴い、安定した稼働が期待できない。 【新プランにおける方針】 ・廃止 ・地下水の揚水量低下に伴い、施設が安定して稼働できないことから、融雪への地下水利用を廃止する。
施策 18	除雪機械の開 発促進	【掲載コメント】 除雪機械製造メーカーの技術開発と除排雪作業の課題を共有できる意見交換の場などを用意し、課題実態に則した車両の開発促進について検討します。	〈道路維持課〉 ・除雪機械の課題抽出において、地域事業者から「除雪機械よりも担い手不足が大きな課題」との指摘があった。 ・国土交通省で推進しているDX(デジタル・トランスフォーメーション)では、除雪機械の自動運転など除雪の担い手不足対策として有効な実証を進めており、全国雪対策協議会等による国土交通省に対する要望書において、技術開発を推進する要望を提出した。(令和2～4年度継続要望)	【評価】 ・国土交通省のDXに関する取組は実証段階であるものの、除雪補助や自動運転など、担い手不足解消に繋がる技術として実用化が期待される。 【新プランにおける方針】 ・継続、施策14と統合 ・課題は機械の性能というより、除雪の担い手不足にあることから、国の実証の進捗を注視し情報収集に努めていく。

【政策の方向性】②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

【目標】 道路交通の確保

【項目】 冬期道路の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 19	冬期の円滑な 道路交通の確 保	【掲載コメント】 道路除排雪作業指針に基づいた作業を実施し、冬期の円滑な道路交通や良好な市民生活を確保します。（除排雪事業） ○除雪機械で道路脇に雪をかき分ける一般除雪。 ○小型除雪機などにより路肩や堆雪帯へ雪を積み上げる歩道除雪。 ○一般除雪による道路幅員の確保が困難な場合に、ロータリ除雪車により路肩に雪を積み上げる拡幅除雪。 ○一般除雪や拡幅除雪による道路幅員の確保が困難な場合にダンブトラックにより雪を搬出する運搬排雪。 ○除雪機械の進入ができないため、小型のショベルと小型のダンプで運搬排雪を行う小路除排雪。 ○一般除雪の後にロータリ除雪車による拡幅除雪を並行して行う追従除雪。 ○路面凍結によるスリップ事故の防止と交通渋滞の緩和、歩行者の安全な横断を確保するための凍結抑制剤散布。	〈道路維持課〉 【実績】 [令和2年度] 一般除雪 18,645km 歩道除雪 2,084km 拡幅除雪 431km 運搬排雪 261km 小路除排雪 28km 追従除雪 1,173km 凍結抑制剤散布 17,400km [令和3年度] 一般除雪 20,199km 歩道除雪 2,184km 拡幅除雪 285km 運搬排雪 535km 小路除排雪 44km 追従除雪 1,606km 凍結抑制剤散布 15,759km [令和4年度] 一般除雪 22,800km 歩道除雪 2,748km 拡幅除雪 401km 運搬排雪 184km 小路除排雪 36km 追従除雪 1,240km 凍結抑制剤散布 15,773km	【評価】 ・除排雪について、多くの要望・苦情が寄せられたが、限られた予算のなか市民の協力を得ながら除排雪を実施することで道路交通の安全が確保された。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・除排雪計画・道路除排雪作業指針に基づき、限られた予算のなか、市民の協力を得ながら効果的な除排雪を実施することで道路交通の安全を確保する。
施策 20	交差箇所にお ける除雪対応	【掲載コメント】 市が除排雪を実施する区間には様々な交差箇所があり、その場所の特性や管理基準の相違によって一律の対応が難しいことから、交差する道路（国道、県道）との連携を図り、それぞれの箇所ごとに条件を明確にした適切な対応を実施します。 ○国、県、市の道路管理者間による除排雪の連携。 ○路線の特性や交通状況等を整理し、交差点や車道路肩幅員を含めた施設帯の考え方の設定と対策を検討。	〈道路維持課〉 ・令和2年10月に、「道路の除雪業務の相互委託に関する協定書」を継続更新し、それぞれが管理する一部道路について除雪を委託しあい作業をおこなっている。 ・道路パトロール及び市民からの情報提供をもとに、国・県に情報を提供するとともに、視認性の確保を目的とする交差点排雪を実施している。	【評価】 ・積雪状況にあわせて国・県と連携した作業を実施することで道路交通の安全が確保されていた。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・今後も国、県と連携した除排雪を実施するとともに、除排雪計画、道路除排雪作業指針に基づき、道路パトロールを実施し道路交通の安全を確保する。

【政策の方向性】②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

【目標】道路交通の確保

【項目】冬期道路の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 21	町会と連携した除排雪	【掲載コメント】 町会と市が連携し、役割分担の明確化と住民が主体となったマナーの徹底を図り、除雪方法や作業時期等を確認しあい、適切なタイミングによる効果的な除排雪が図られるしくみづくりをモデル的に実施し検証を進めながら、各地区への普及展開について検討を進めます。	〈道路維持課〉 ・桜ヶ丘町会をモデル地区として、町会と連携した除排雪作業を実施しており、運搬排雪作業のタイミングを町会と打合せることにより、効率的な作業が実現した。	【評価】 ・排雪作業のタイミングを町会と協議したことで、排雪要望件数の低減が図られた。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・町会との連携により排雪要望の低減に効果を発揮したことから、今後も継続していく。 ・排雪作業の進捗状況は地域住民の大きな関心事項であり、進捗状況の管理と情報発信の方法について検討していく。
施策 22	間口への寄せ雪を軽減する除雪車の購入支援	【掲載コメント】 間口の除雪に係る負担を軽減するため、除雪業者に対して、除雪車両や除雪機械の導入に係る費用の一部を支援します。（間口除雪軽減事業）	〈道路維持課〉 ・弘前市間口除雪軽減事業費補助金として間口除雪に使用する除雪機械等の導入支援を実施。 【実績】 [令和2年度]：1事業者（サイドシャッター装置） [令和3年度]：1事業者（サイドシャッター装置） [令和4年度]：予算措置なし	【評価】 ・サイドシャッター装置の導入路線では、一定の寄せ雪軽減効果が発揮されたが、個別の除雪支援と比較すると支援効率が悪い。 【新プランにおける方針】 ・中止 ・サイドシャッター装置の寄せ雪軽減効果は低く、その他の機械導入の意向も無いことから、導入支援については中止とする。
施策 23	間口の寄せ雪を軽減する方法の検討	【掲載コメント】 間口への寄せ雪を軽減する方法の検討に取り組むとともに、除雪分野におけるICT活用の事例を調査し、地域の実情に合ったICT活用による除雪方法を検討します。	〈道路維持課〉 ・国土交通省では、令和2年度に「国土交通省インフラ分野のDX(デジタル・トランスフォーメーション)推進本部」を設置し、i-Construction(ICTを全面的に建設現場に導入する取組)を中核に、データとデジタル技術を活用して、業務そのものや組織、プロセス、文化や風土、働き方の変革に向けた取組を進めており、こうした国の動向について情報収集を実施。 ・国のDX推進の動向を踏まえ、令和3年度に地域のDXに関する状況等について、現状把握や情報共有を図ることを目的に「DXとシェアリングエコノミーに関する有識者会議」を実施した。	【評価】 ・「DXとシェアリングエコノミーに関する有識者会議」において、国のDXに関する動向や、地域の実情について情報共有が図られた。 【新プランにおける方針】 ・継続、施策14と統合 ・現時点での国のDXへの取組は、将来的に除雪機の自動運転等に繋がるものであり、間口への寄せ雪軽減にも関連することから、今後も国の実証を注視していく。 ・除雪分野へのDXの活用について、地域との情報共有を図りながら、地域実情に適した技術活用を目指す。

【政策の方向性】②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

【目標】 道路交通の確保

【項目】 冬期道路の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 24	道路融雪施設の 適正管理	【掲載コメント】 道路融雪施設等が良好に機能するよう、施設の長寿命化に主眼を置いて修繕を計画的に行います。また、道路融雪については、最適な熱源やその他の手法による融雪が可能かどうかについての検討を併せて行います。 更に、フロン排出抑制法を踏まえた、道路融雪施設のノンフロン化についても検討します。 道路融雪施設等の良好な稼働を維持し、雪国における生活と安全安心な通行の向上を図ります。（道路融雪施設等修繕事業）	〈道路維持課 雪対策室〉 ・弘前市内に存在しているフロンガス冷媒のヒートポンプ融雪施設のうち、特定フロンを冷媒に使用している融雪設備の一部について環境省補助を活用して更新し、ノンフロン化を実現した。 【実績】 [令和2年度]：駅前高圧2号機器更新に係る設計委託 [令和3年度]：駅前高圧2号機器更新工事 [令和4年度]：更新実績なし	【評価】 ・環境省の補助活用により融雪施設のノンフロン化が実現したが、令和4年度以降の計画について特定財源の確保が喫緊の課題となっている。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・融雪施設の更新により、冬道の安心・安全やまちづくりにおける冬期間の歩行者の周遊性にも影響し、ノンフロン化も果たされることから、今後の補助財源について検討し更新計画を検討していく。
施策 25	防雪柵の整備	【掲載コメント】 冬期における交通障害の原因となる、吹雪による道路上の視界不良や吹き溜まりの防止を図り、歩行者と車両通行の安全を確保します。	〈道路維持課〉 ・令和2年度に防雪柵整備計画策定した。 ・整備に向けた財源について調査中であるが、その確保には至っていない。	【評価】 ・計画的な整備が進まない中、道路パトロール等により大きなトラブルもなく経過した。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・新たな財源確保に向けた調査を継続するとともに、降雪状況により道路パトロール等を強化する。

〔政策の方向性〕 ②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

〔目標〕 道路交通の確保

〔項目〕 冬期道路の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 26	消流雪溝の整備	【掲載コメント】 消流雪溝については、多くの整備要望が寄せられていますが、水源や排出先の確保のほか、整備後に施設が利用されないなどの課題があります。 地域の協力のもと、消流雪溝の利用による効果的な雪処理活動が行える地区の整備を推進しながら、地域の実情に合った整備を進め、冬期における道路交通の確保を図ります。（消流雪溝整備事業）	〈道路維持課〉 【実績】 [令和2年度]：青山二丁目9号線凍雪害防止工事 [令和3年度]：馬屋町2号線凍雪害防止工事詳細設計 [令和4年度]：馬屋町2号線凍雪害防止工事	【評価】 ・整備された路線については消流雪溝が利用され、冬期間の道路交通の確保につながっている。 【新プランにおける方針】 ・要望のある箇所について、現地調査を実施し可能であれば簡易型の消流雪溝の整備を進める。
施策 27	冬期における公共交通利用の推進	【掲載コメント】 冬期の通勤・通学において、送迎などの自家用車を使用する割合が多くなり、交通渋滞による市民生活への影響が懸念されるため、公共交通の利用を推進し、交通渋滞の緩和と定時運行の確保による地域公共交通の利便性向上に取り組めます。	〈地域交通課〉 【実績】 [令和2年度] 市職員を対象に公共交通利用、徒歩出勤及び時差出勤を推奨した。 期間：令和3年1月15日～2月28日、通勤手段転換：16人、時差出勤：213人 [令和3年度] 市職員に加え、官公庁及び民間事業者にも協力を依頼した。 期間：令和4年1月17日～2月28日、通勤手段転換：73人、時差出勤：221人※市職員以外37人含む [令和4年度] 市職員及び協力を得た民間事業者従業員に公共交通利用、徒歩出勤及び時差出勤を推奨した。 期間：令和5年1月16日～2月28日、通勤手段転換：26人、時差出勤：239人※市職員以外70人を含む	【評価】 ・交通渋滞対策としては、時差出勤の推進により、朝の通勤ピーク時間帯の交通量の減少に一定の効果はあったものと捉えている。公共交通利用については、官民ともにさまざまな課題から冬期のみ利用促進には限界があるものと捉えている。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・公共交通利用の推進については、環境負荷の低減、健康増進及びSDGsへの貢献といったメリットをPRしつつ、冬期に限らず通年で普及啓発に取り組む。

[政策の方向性]

② 雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

[目 標]

[項 目]

[施策の展開]

[主担当課名]

道路交通の確保

雪置き場の管理

施策28：新規雪置き場配置の検討

(道路維持課)

[政策の方向性] ②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

[目標] 道路交通の確保

[項目] 雪置き場の管理

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 28	新規雪置き場 配置の検討	【掲載コメント】 現在、市民開放型の雪置き場は、堀越、紙漉沢と岩木川右岸の悪戸、樋の口町にあります。岩木川右岸の2箇所については、河川敷内であることから、堆雪量の制限や消雪費用が負担となっています。また、豪雪時には道路に事業所排雪の大型ダンプや各家庭からの小型トラックが集中し、雪置き場周辺道路は渋滞を引き起こし、市民生活に多大な影響を及ぼしています。市内各所からの運搬排雪の作業効率向上、周辺道路の渋滞緩和及び雪置き場の効果的な配置と必要性について検討します。(新規雪置き場整備検討事業)	〈道路維持課〉 ・「令和元年度新規雪置き場整備検討業務」において候補地を複数選定し、整備規模等の概略を算定して、令和2年度より交付金等の財源確保に向けた青森県との協議を開始した。 ・令和3年度に新規雪置き場について、道路事業により整備が可能か青森県を通じ国へ相談したが、道路事業の対象外である判断が示された。 ・令和3年度より岩木川河川敷の町田雪置き場について、青森県との共同利用を開始。 ・「令和3年度河西地区雪置き場基本設計業務」を実施 ・令和4年度に岩木川河川敷を管理する青森河川国道事務所と、岩木川河川敷内雪置き場における堆雪量の増加(積上げ高さ)について協議した。	【評価】 ・現段階で新規整備に関する特定財源の確保が難しい状況にある。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・新規雪置き場整備における特定財源の確保について、国への働きかけや情報収集を青森県と連携しながら実施するほか、全国雪対策協議会等による要望活動を実施していく。 ・青森河川国道事務所との協議では、岩木川河川敷内において積み増しは管理上難しいものの、堆雪場として使用できる場所があれば協議に応じるとの回答があり、新たな雪の搬出先について可能性を検討する。

[政策の方向性]

② 雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

[目 標]

[項 目]

[施策の展開]

[主担当課名]

農業生産者支援

農道の確保

施策29：農道除雪の窓口の一本化
 施策30：除雪体制の確保
 施策31：農道等の除雪作業への支援
 施策32：幹線農道における除雪

(農村整備課)
 (農村整備課)
 (農村整備課)
 (農村整備課)

[政策の方向性] ②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

【目標】 農業生産者支援

【項目】 農道の確保

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策29	農道除雪の窓口の一本化	【掲載コメント】 冬期閉鎖している農道及び市道については、農業振興のため2月下旬から農道除雪を実施しています。また、農道除雪を実施していない路線については、実施する団体へ補助を実施しています。農道除雪に関する相談については、農村整備課に一本化し、随時受付します。	〈農村整備課〉 ・農村整備課において、農家から除雪時期の相談を受けている。	【評価】 ・引き続き農村整備課において窓口となり事業を実施する。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・市内部での横の繋がりの強化を図る。
施策30	除雪体制の確保	【掲載コメント】 地域内の幹線農道の除雪について、業者への委託方式と町会等共同施行による除雪と市の直営作業とを組み合わせ、農道の除雪体制を確保します。	〈農村整備課〉 ・地域内の幹線農道の除雪について、業者への委託方式と町会等共同施行による除雪と市の直営作業とを組み合わせ、農道の除雪体制を確保した。 【実績】 [令和2年度] 業者11工区:除雪延長L=52km 町会等6工区:除雪延長L=25km 市直営:除雪延長L=94km [令和3年度] 業者11工区:除雪延長L=52km 町会等6工区:除雪延長L=25km 市直営:除雪延長L=95km [令和4年度] 業者11工区:除雪延長L=52km 町会等6工区:除雪延長L=25km 市直営:除雪延長L=95km	【評価】 ・現地の状況や地元の声を勘案しながら事業を進める。 【新プランにおける方針】 ・継続、施策32と統合 ・引き続き、現地の状況や地元の声を反映しながら、事業を継続する。

【政策の方向性】②雪をよく知る人の経験を継承し、冬の快適なくらしを創るまち

【目標】農業生産者支援

【項目】農道の確保

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 31	農道等の除雪 作業への支援	【掲載コメント】 樹園地内の農道等は冬期閉鎖しているため、りんご樹を雪害から守るための早期の枝折れ防止作業、消雪作業の促進を図る必要があります。このため農業協同組合や共同施行者が行う農道等の除雪に対してその経費の一部を補助します。（りんご樹雪害対策農道等除雪事業費補助金制度）	〈農村整備課〉 ・りんご樹の雪害対策や剪定作業等、園地へ行ける環境を整え、冬期間の農作業の進歩を図った。 【実績】 [令和2年度]：申請団体12団体、除雪距離43.3km、補助金交付額1,650千円 [令和3年度]：申請団体11団体、除雪距離40.9km、補助金交付額1,689千円 [令和4年度]：申請団体16団体、除雪距離50.5km、補助金交付額1,984千円	【評価】 ・令和4年度から要望量調査を農業ひろさき等を通して行っており、市民への周知強化も行うことができた。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・要望が絶えない事業であり、引き続き事業を継続する。
施策 32	幹線農道における除雪	【掲載コメント】 冬期は園地への道路が閉鎖しているため、剪定、肥培管理などの作業の遅れにより生産性の低下を招く恐れがあります。このため雪害対策作業が早期に行えるよう、2月下旬から3月下旬にかけて機械による農道等の除雪を行います。	〈農村整備課〉 ・春先の作業を支援するため、年1回閉塞している農道の除雪を行う「幹線農道除雪事業」を実施。 【実績】 [令和2年度] 業者11工区 除雪延長L=52km 町会等6工区 除雪延長L=25km [令和3年度] 業者11工区 除雪延長L=52km 町会等6工区 除雪延長L=25km [令和4年度] 業者11工区 除雪延長L=52km 町会等6工区 除雪延長L=25km	【評価】 ・現地の状況や地元の声を勘案しながら事業を進める。 【新プランにおける方針】 ・継続、施策30と統合 ・引き続き、現地の状況や地元の声を反映しながら、事業を継続する。

[政策の方向性]

③ 迅速な対応ができる、安全安心なまち

[目 標]

[項 目]

[施策の展開]

[主担当課名]

降雪・積雪への迅速な対応

状況の把握と対策

施策33：広域的な関係機関との連携
 施策34：迅速な情報収集体制と市民の安全の確保
 施策35：市民にとってわかりやすい情報提供の改善

(防災課)
 (防災課)
 (道路維持課)

[政策の方向性] ③迅速な対応ができる、安全安心なまち

[目標] 降雪・積雪への迅速な対応

[項目] 状況の把握と対策

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策33	広域的な関係機関との連携	【掲載コメント】 集中的な降雪や記録的な豪雪に見舞われた場合、市民生活はもとより、地域経済活動が停滞し大混乱を引き起こすことになり、市のみならず広域的な範囲に影響が及び深刻な事態が発生することが想定されます。そのような状況に陥らないよう、広域的な関係機関との連携を図ります。	〈防災課〉 ・予算化した事業はなし。 ・令和3年度は、暖気による融雪被害の防止のため、防災無線や広報車による周知のほか、新聞掲載、市ホームページやSNSなどへの掲載、農協への無線放送依頼、また、県中南地域県民局との情報共有を図るなど、広域的な連携を図った。	【評価】 ・農協や県など広域的な関係機関と連携を密に図ることができた。 【新プランにおける方針】 ・継続
施策34	迅速な情報収集体制と市民の安全の確保	【掲載コメント】 降雪が長期間続いた場合、除排雪作業が追いつかなくなり、市民生活や地元産業等に大きな影響を与えるため、いざという時に迅速な対応を取れるよう、緊急時に備えた仕組みづくりを構築します。 ○迅速な情報収集と連絡体制の構築。 ○地域防災計画に基づき、庁内各部署との連携を強化し、早期の応急対策を講じた雪害拡大防止。 ○積雪深が「弘前市地域防災計画」に定める基準に達した場合等には、警戒態勢又は非常態勢を敷き、市民の安全や道路交通の確保等に向けて速やかな応急対策の実施。	〈防災課〉 ・予算化した事業はなし。 ・注意報や警報発令時の態勢確保と情報収集の伝達に努めた。 ・令和2年度は「雪に関する部長連絡会議」、令和3年度は「豪雪警戒対策会議」及び「豪雪警戒本部会議」を開催し、被害の状況と対応の状況、今後の対応予定など、庁内の情報共有を図る体制づくりに努め、令和4年度は「豪雪対策本部」を設置した。	【評価】 ・対策、情報共有や今後の対応状況の意思統一など庁内の体制づくりに効果があった。また、市長指示により一斉排雪を行い、公共交通や道路交通など市民生活の安全・安心を確保することができた。 【新プランにおける方針】 ・継続
施策35	市民にとってわかりやすい情報提供の改善	【掲載コメント】 道路除雪作業など雪対策に係る情報は、広く市民へ提供することが重要です。特に雪処理活動を市民と行政の協働で実践するために必要な情報については、迅速かつ丁寧な情報発信となるよう取り組みます。 ○必要となる情報について精査し、迅速に公開できる環境の改善。 ○情報の提供方法と情報内容の改善。	〈道路維持課〉 ・雪対策に関する情報については、市のホームページ、広報ひろさきで発信している。 ・一般除雪の実施情報については、「ひろさき便利まっぷ」というサイト内の雪対策のページで除雪車両の作業軌跡を公開している。 ・令和3年度から運搬排雪作業の進捗状況を市のホームページに掲載し、情報発信を行った。 ・令和4年度は新たに雪置き場の情報について SNS や新聞を活用して発信した。	【評価】 ・「ひろさき便利まっぷ」において雪対策のページはトップアクセス数を誇り、雪対策の情報発信という点で一定の効果を発揮した。 【新プランにおける方針】 ・継続、拡充 ・ホームページ等における情報発信を継続しながら、雪対策に係る各ページの拡充について検討していく。 ・一般除雪の出動に関する情報発信については、判断体制の見直しも含めた検討が必要となる。

[政策の方向性]

④ 雪との共生を図り、くらし続けられるまち

[目 標]

[項 目]

[施策の展開]

[主担当課名]

雪資源の活用

雪冷熱エネルギーの活用

施策36：雪冷熱エネルギーの活用の検討

(農政課)

[政策の方向性] ④雪との共生を図り、くらし続けられるまち

【目標】 雪資源の活用

【項目】 雪冷熱エネルギーの活用

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 36	雪冷熱エネルギーの活用の検討	【掲載コメント】 低温貯蔵の最適な利用方法や効果、得られる価値等を検証するための実証研究等を検討します。	〈農政課〉 ・農産物の雪室低温貯蔵に関する研究事例及び雪室利活用の先進事例に関する情報収集を行ったほか、既存の倉庫を活用した実証研究を検討した。	【評価】 ・雪室による農作物の保存の効果として、ジャガイモでは糖度の上昇や食味の向上が確認されており、雪室を活用してブランド化・高付加価値化に取り組む事例も報告されている一方、多くの生産者・事業者においては、電気エネルギー等による冷蔵保存が一般的に行われており、特に当市の主要農産物であるりんごに関しては、特殊冷蔵技術のCA冷蔵によって、一年を通じて良質なりんごを安定して消費者へ供給することができ、国内外において高い評価を受けている。 また、保存にかかる労力面でも取組拡大は難しいとの考え。 【新プランにおける方針】 ・廃止 ・その他の農作物を含め、これまで生産者や関係団体から雪室を活用した取組に対して市へ要望がないことから、実証研究に向けた検討は行わないこととする。

〔政策の方向性〕

④ 雪との共生を図り、くらし続けられるまち

〔目標〕

〔項目〕

〔施策の展開〕

〔担当課名〕

雪資源の活用

冬季観光の推進

施策37：冬季観光の推進(弘前城雪燈籠まつり)
施策38：魅力的な冬季体験型観光の推進

(観光課)
(観光課)

〔政策の方向性〕 ④雪との共生を図り、くらし続けられるまち

〔目標〕 雪資源の活用

〔項目〕 冬季観光の推進

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策37	冬季観光の推進(弘前城雪燈籠まつり)	【掲載コメント】 四大まつりの一つ「弘前城雪燈籠まつり」は、幻想的な雪燈籠のほか、プロジェクトマップや、弘前雪明かり、津軽錦絵大回廊など雪と光を組み合わせた多彩な催しで、冬季最大のイベントとして定着しています。 夜空に雪、光を併せた取組は、夕食・宿泊との親和性が高く、高い経済効果が期待できることから、民間で実施している「冬に咲くさくらライトアップ」などと、連携しながらさらなる冬季観光の推進を図ります。	〈観光課〉 - 令和2年度は新たな取組みとして、スカイランタンやキャンドルアートを実施したほか、園内各所でライトアップを実施し公園全体を使用しまつりを開催した。 - 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 - 令和4年度は「HIROSAKIスノーオブジェ」やイルミネーションカマクラを制作し園内の見どころを拡充した。	【評価】 - 雪国の宿命である雪を貴重な観光資源として活用し、雪燈籠制作に市民が直接参加することで、市が一体となって冬季観光に寄与することができ、観光客に対するおもてなしの機運醸成にも繋がっている。 【新プランにおける方針】 - 継続
施策38	魅力的な冬季体験型観光の推進	【掲載コメント】 国内外の観光客に向けて、冬季の魅力的な観光資源の掘り起こしとその活用を検討するとともに、既存のコンテンツの磨き上げを行い、雪を活用したスキーなどのテーマ・目的別観光の促進、雪自体を観光資源とする工夫など、これまで弱点とされていた冬季観光を推し進め、通年観光の実現に向けて取り組みます。	〈観光課〉 - 平成29年度より民間で実施している「冬に咲くさくらライトアップ」について、令和3年度からは補助金を支出している。 - 弘前公園周辺のイルミネーションや歴史的建造物のライトアップ等と連携し、実施している。	【評価】 - 冬に咲くさくらライトアップは多数のメディアに取り上げられるなど、冬期間の新たなコンテンツとして定着しつつあり、誘客につながっている。 【新プランにおける方針】 - 継続

〔政策の方向性〕

④ 雪との共生を図り、くらし続けられるまち

〔目標〕

〔項目〕

〔施策の展開〕

〔主担当課名〕

雪に親しむ

雪への愛着

施策39：岩木山ウィンターフェスティバルへの支援
 施策40：スキー教室等への支援
 施策41：冬季スポーツの普及促進と地域活性化
 施策42：学校教育における親雪・遊雪

（スポーツ振興課）
 （スポーツ振興課）
 （スポーツ振興課）
 （学校指導課）

〔政策の方向性〕 ④雪との共生を図り、くらし続けられるまち

〔目標〕 雪に親しむ

〔項目〕 雪への愛着

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策39	岩木山ウィンターフェスティバルへの支援	【掲載コメント】 スキー競技におけるジュニアの育成及び冬季の体力増進を図り、スポーツ振興、地域活性化を目指し、雪に親しむことを目的とした大会・イベントを開催し、スキー競技の底辺拡大と親子で楽しめる空間の創出を図ります。	〈スポーツ振興課〉 ・岩木青少年スポーツセンターにて親子チューブそり、クロスカントリースキー記録会等について開催した。 〔令和2年度〕 実施日：令和3年3月14日 入場者数：219人 〔令和3年度〕 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止。 〔令和4年度〕 実施日：令和5年3月5日 入場者数：3,049人（延べ）	【評価】 ・クロスカントリースキー記録会及び講習会の実施により、競技力の向上及び競技の普及につながった。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・施策41と統合する。
施策40	スキー教室等への支援	【掲載コメント】 冬季における市民のスポーツ振興や競技力向上並びに体力の維持増進を図ります。	〈スポーツ振興課〉 ・岩木山百沢スキー場にて実施した市民スキー教室に補助金を交付した。（主催：岩木スキークラブ） 〔令和2年度〕 実施日：令和2年12月29日～30日、参加者：109人 〔令和3年度〕 実施日：令和2年12月29日～30日、参加者：108人 〔令和4年度〕 実施日：令和4年12月29日～30日、参加者：116人 ・そうまロマンピアスキー場にて実施したナイタースキースクールに補助金を交付した。（主催：そうまロマンピアスキークラブ） 〔令和2年度〕 実施日：令和3年1月6日～2月27日、参加者：840人 〔令和3年度〕 実施日：令和4年1月5日～1月19日、参加者：229人 〔令和4年度〕 実施日：令和5年1月7日～2月25日、参加者：758人	【評価】 ・スキー教室の実施により、スキー競技の普及や体力の維持増進につながった。 【新プランにおける方針】 ・継続

【政策の方向性】④雪との共生を図り、くらし続けられるまち

【目標】雪に親しむ

【項目】雪への愛着

No.	掲載取組	施策の概要	実施内容	評価／新プランにおける方針
施策 41	冬季スポーツの普及促進と地域活性化	【掲載コメント】 冬季は身体活動能力が減少しやすい時期であるため、各種イベントを通し運動習慣の定着を図る事業を引き続き実施し、冬季スポーツの普及促進を図ります。 また、各種イベントを民間との共同イベントあるいは民間主導イベントへと誘導し、さらなる発展的な拡大を図りながら地域の活性化を目指すとともに、学校教育や生涯学習におけるスキー教室について市内スキー場の活用を推進し、地域振興を図ります。	〈スポーツ振興課〉 ・岩木山百沢スキー場にて開催した、青森県ジュニア・アルペンスキー大会について補助金を交付した。（主催：岩木スキークラブ） [令和2年度] 開催日：令和3年1月23・24日、参加者75人 [令和3年度] 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止。 [令和4年度] 開催日：令和5年1月21・22日、参加者65人 ・岩木山百沢スキー場にて開催した、岩木山選抜ジャイアントスラローム大会について補助金を交付した。（主催：岩木スキークラブ主催） [令和2年度] 開催日：令和3年3月6・7日 参加者：96人 [令和3年度] 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止。 [令和4年度] 開催日：令和5年3月4・5日 参加者91人	【評価】 ・当該大会の実施により、冬季スポーツ競技の競技力向上及び競技の普及につながった。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・施策39と統合する。
施策 42	学校教育における親雪・遊雪	【掲載コメント】 親雪・遊雪に関する取組を各学校に情報提供し、実態に応じて教科体育や生活科等における特色ある教育課程の編成及び実践の啓発を図ります。	〈学校指導課〉 ・体育科において、自然との関わりの深い雪遊びなどの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に行うこととしている。 ・生活科においては、季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。 上記内容について、学校の実情に合わせた取組を依頼した。	【評価】 ・各学校の実情に応じて、取り組まれている。 【新プランにおける方針】 ・継続 ・今後も安全指導の徹底を呼びかけていく。

Ⅲ. 弘前市総合計画（政策⑫雪対策）

弘前市総合計画 後期基本計画

～みんなで創り みんなをつなぐ あずましいりんご色のまち～

2023（令和5）年3月策定
2024（令和6）年3月改訂

政策 ⑫ 雪対策

市民が快適な雪国生活を送られるように、地域と行政が連携した雪対策を進めるほか、将来に向けて持続可能な雪対策に取り組みます。

〈関連するSDGsゴール〉

政策の方向性 1 冬期間における快適な道路・住環境の形成



【①目指す姿】

■市民にとって効果的な雪対策が行われるとともに、豪雪時においても安全・安心に生活できる体制が構築され、市民ニーズと財政負担を考慮した継続性のある雪に強いまちづくりが進められています。

■自助・共助・公助による除排雪活動の取組が推進され、市民・事業者・行政が一体となった効果的できめ細かな雪対策が行われ、快適な雪国生活が送られています。

政策課題指標	総合計画初年度（2019年度）	基準値（2022年度）	目標値（2026年度）
安全で安心な生活のため地域と行政が一体となって雪対策を進めていると感じる市民の割合	—	21.3%	23.4%
指標の説明			
『弘前市市民意識アンケート』における、「安全で安心な生活のため地域と行政が一体となって雪対策を進めていると感じますか」という設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合			

【②現状と課題】

◇冬期道路環境の維持・整備

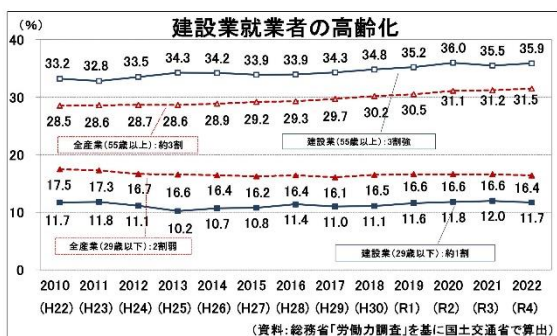
●冬季の厳しい寒さと雪は本市の大きな特徴であり、岩木山をはじめとした雪国ならではの景観のもと、雪解け水の恩恵を受ける農業や雪と親しむまつり、スポーツなど豊かな地域生活を送る源になっています。

●一方で、雪害による交通渋滞や歩道への堆雪などで市民生活に大きな影響が及び、地域活動を停滞させる要因になっており、通勤や通学等の安全確保などにも取り組む必要があります。また、雪対策に毎年多額の経費を費やすなど財政的に大きな負担となっているほか、建設業就業者の高齢化、若者の建設業離れによる除排雪作業従事者の減少や技術力の低下が懸念されています。

●市の雪対策に対する市民の満足度は、その年の降雪状況にも左右されますが、市民の約半数が不満を感じている状況にあります。市では、特に市民からの要望が多い間口への寄せ雪に対して、追従除雪*等を実施するなど、様々な取組を展開しています。

●今後も、市民ニーズや財政負担を考慮しながら、既存融雪施設等の維持管理や更新等を適切に進めること、また、効果的な情報発信に取り組むことで効率的で効果的な雪対策を進めていきます。

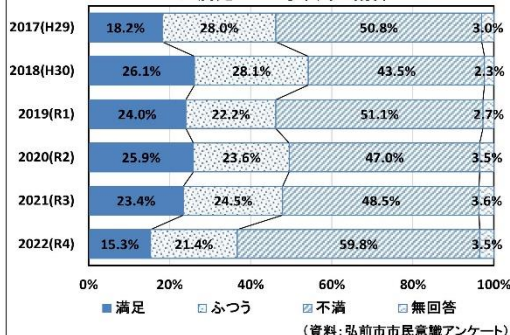
〈主な統計値（定量分析）〉



〈主な市民等意見（定性分析）〉

関係団体との意見交換会では、「従来型の機械除雪や消流雪溝と融雪との適切な組み合わせが重要だ」との意見や、「間口の寄せ雪に対する苦情は、除雪業者や行政だけでなく町会も一体となって対応する仕組みが必要だ」との意見が寄せられました。

冬期間において安心・快適な生活が送れていることに満足している市民の割合



◇地域一体となった新たな除排雪体制の構築

●行政が行う除排雪作業は、限られた時間と予算の中で大型重機を使用している作業であるため、地域の隅々まで除排雪作業を行えない状況にありますが、市民からはきめ細かな除排雪の要望が年々増加しており、人口減少や高齢化による除雪困難者も増加しています。

●これまでも住宅地における雪置き場不足解消のため、町会雪置き場事業を実施しているほか、小型除雪機町会貸出事業や地域除排雪活動支援事業、町会等除雪報償金事業により、町会による生活道路や高齢者世帯の間口除雪など、共助による除排雪活動に対する支援策を進めてきた結果、協力町会等は増加傾向にあり、地域一体となった雪対策が進められています。

●また、町会、事業者、行政がそれぞれの役割を果たすことによる次世代型共助での取組のほか、市内の大学や事業者が地元町会と連携し、通学路や町会への除雪支援活動を行うなど、地域での協働による新たな除雪活動の展開が期待できます。今後も、人口減少や少子高齢化等により除雪の担い手不足が懸念される中、安全・安心な冬道の確保と暮らしやすい雪国生活のためには、今まで以上に市民・事業者・行政が連携し、地域における自助・共助・公助による雪対策に取り組むことが必要です。

〈主な統計値（定量分析）〉

町会等支援事業の推移



〈主な市民等意見（定性分析）〉

ワークショップ提案事業では、「雪かきでバイトが可能なマッチングアプリ」の開発を、各種団体からは、「除雪ボランティア等のマッチング作業のデジタル化を検討してほしい」など、共助に関するマッチングの手法について意見が寄せられました。



運搬排雪作業の様子



拡幅・路面整正作業の様子

【③目指す姿までに至る施策と成果の図式（ロジックモデル）】

目指す姿

施策の成果
(アウトカム)

政策の方向性
1 冬期間における快適な道路・住環境の形成

施策 1) 冬期道路環境の維持・整備

【期待する成果】

・除排雪作業の基本となる除雪車等による効率的な機械除雪に加え、既存融雪施設の維持管理や更新を行うことにより、効果的な雪対策が図られます。

施策成果指標	報告対象年度（2019年度）	基準値（2022年度）	目標値（2026年度）
冬期間において安全・安心な道路環境が整備されていると感じる市民の割合	—	21.5%	23.6%
指標の説明			
『弘前市市民意識アンケート』における、「冬期間において安全・安心な道路環境が整備されていると思いますか」という設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合			

施策 2) 地域一体となった新たな除排雪体制の構築

【期待する成果】

・自助・共助による地域での除排雪活動を行政が支援することで、除雪による寄せ雪などの雪片付が容易になり、身近な除雪環境の改善が図られています。

施策成果指標	報告対象年度（2019年度）	基準値（2021年度）	目標値（2026年度）
①空き地所有者が空き地を雪置き場として提供した箇所数	①37箇所	①35箇所	①40箇所
②共助による生活道路の除排雪等を行う団体（町会など）の延べ数	②57団体	②71団体	②96団体
指標の説明			
①町会雪置き場として利用される空き地箇所数 ②地域除排雪活動支援事業参加団体数・町会等除雪報償金事業参加町会数			



消流雪溝に投雪する様子

施策の取組
(アウトプット)

施策を構成する計画事業
(インプット)

【取組内容】

- ・冬期の市民生活を支える道路除排雪について、市民が快適に暮らせるよう、効果的な除排雪及び情報発信に取り組めます。
- ・除雪オペレーター*に対し、講習会等を実施し、技術力の向上を図るとともに、担い手不足である除雪オペレーター*等の人材確保対策に取り組めます。
- ・既存融雪施設等の維持修繕・更新を進め、持続可能な効率的で効果的な雪対策を進めます。
- ・新規雪置き場整備に関する制度拡充について、国への要望活動に継続して取り組めます。

【計画事業】

- ①除排雪事業
- ②道路融雪施設等修繕事業
- ③雪対策環境整備事業
- ④除雪オペレーター担い手確保事業費補助金

【取組内容】

- ・住宅地などで、市民の雪置き場不足を解消するため、町会雪置き場の活用を推進します。
- ・安全・安心な冬道の確保と快適な雪国生活のため、町会など地域が自主的に行う除排雪活動を支援します。
- ・地域での除排雪活動への支援のほか、マッチングサイト*等を介した個人同士による有償の雪処理サービスを広く紹介し、地域への普及を図ることで、人・モノなどの地域資源を雪対策に有効活用できる取組を推進します。

【計画事業】

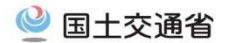
- ①町会雪置き場事業
- ②地域除排雪活動支援事業
- ③町会等除雪報償金
- ④小型除雪機町会貸出事業
- ⑤次世代型共助創出事業（雪対策）



除雪ボランティア作業の様子

IV. 豪雪地帯対策基本計画（概要版）

豪雪地帯対策基本計画（令和4年12月9日閣議決定）



変更の主なポイント

現行計画の構成
1 基本計画の目的
2 基本計画の性格
3 基本計画の重点
(1)交通、通信の確保
(2)農林業等地域産業の振興
(3)生活環境施設等の整備
(4)国土保全施設の整備及び環境保全
(5)雪氷に関する調査研究の総合的な推進
4 基本計画の内容
5 基本計画の推進

計画見直しの背景
○令和4年3月 豪雪地帯対策特別措置法改正
○同改正法に対する附帯決議
○近年の豪雪地帯をとりまく課題への対応
・人口減少・高齢化の進行
・年毎の降雪量の変化、集中降雪の増加等の降雪の態様の変化
・除排雪の担い手不足の危機的な状況等

積雪による条件不利性がもたらす課題を克服し、豪雪地帯の魅力を生かした地域振興を推進

「基本理念」の創設

- 国土強靱化を踏まえた克雪対策の充実
雪に強く安全に安心して暮らすことの出来る地域社会の実現
- 親雪・利雪の推進
雪国の自然的特性、固有の文化を生かした取組を推進
- 地域の特性を尊重
地方公共団体や地域住民の意見を施策に反映
- 豪雪地帯の理解促進
平時より全国に幅広く豪雪地帯の状況を周知



重点に「除排雪の担い手の確保と除排雪体制の整備」を新設

- 冬期交通確保のための除排雪事業者の確保
 - ・建設業の担い手確保
 - ・除雪機械の更新への配慮
 - ・適切な経費の計上
- 共助除排雪体制の整備
 - ・除排雪の体制整備と安全の確保
 - ・交付金の交付その他の措置



重点に「親雪・利雪による個性豊かな地域づくり」を新設

- 親雪を通じた文化育成及び交流促進
 - ・雪国文化の形成、景観の創造・保全
 - ・雪国の特性を生かした交流の展開
- 利雪を通じた地域の振興
 - ・雪冷熱エネルギーの利活用
 - ・雪の多様な利活用



豪雪地帯対策基本計画（令和4年12月）（主な変更点）



1 基本計画の目的	4 基本計画の重点 / 5 基本計画の内容
- 豪雪地帯の地理的・社会的な状況を踏まえた豪雪地帯を取り巻く状況 - 豪雪地帯ならではの自然環境等の資源を活用した地域づくりの必要性 - 総合的な豪雪地帯対策による地域経済の発展と住民生活の向上に寄与するという基本計画の目的 - 昨今の豪雪地帯の困難な現状および雪の新たな価値の創出という視点	I 豪雪地帯に関する事項 (1) 交通、通信等の確保に関する事項 - 積雪期においても、交通、通信の安全性、円滑性の確保及び高度化を図るために必要な施設等の整備・拡充に努める - 短期間の集中的な大雪時における幹線道路での大規模な車両滞留の回避及びその備えに努める (2) 農林業等地域産業の振興に関する事項 - 産業の振興を総合的に推進し、活力ある地域づくりを進めるために必要な産業の基礎条件等の整備・改善に努める (3) 生活環境施設等の整備に関する事項 - 安全・安心で快適な地域づくりを進めるために必要な施設等の生活環境施設の総合的な整備・拡充に努める 等 (4) 国土保全施設の整備及び環境保全に関する事項 - 安全な国土の形成を図るために必要な治山、治水等による国土保全施設の総合的な整備・拡充に努める 等 (5) 除排雪の担い手の確保及び除排雪体制の整備の促進に関する事項 - 人口減少や高齢化の進行による除排雪の担い手不足に対応するために必要な施策を推進 - 担い手不足に対応するため、除排雪の自動化・省力化に資する技術の開発及び普及を図る (6) 親雪及び利雪による個性豊かな地域づくりに関する事項 - 豪雪地帯の自然的特性、固有の文化等を生かした個性豊かな地域づくりに関する取組を推進 (7) 雪氷に関する調査研究の総合的な推進及び気象業務の整備・強化に関する事項 - 豪雪地帯対策を円滑かつ効果的に推進するために必要な克雪や利雪に関する調査研究の総合的な推進及び気象業務の整備・強化に努める II 特別豪雪地帯に関する事項 (1) 道路交通の確保に関する事項 (2) 農林業等に関する事項 (3) 生活環境施設等の整備に関する事項
2 基本計画の位置付け	6 基本計画の推進
- 本計画は、豪雪地帯における恒久的な諸対策の基本となるべきものであること - 本計画は、豪雪地帯における種々の長期計画に反映されなければならないこと - 本計画は、地域の特性に配慮した地震、津波等に係る防災対策を含めたあらゆる施策を行うに当たって、尊重されなければならないこと	- 特に留意すべき事項 - 地方公共団体の自主性、自立性の強化 - 道府県豪雪地帯対策基本計画の尊重 - 市町村における雪対策に関する計画の考慮 - 効率的な事業の実施 - 民間団体等の協力 - 工事の早期着工 - 財政上の措置
3 基本理念	
- 雪を産業の停滞等の要因ではなく資源と捉え、雪国の特性を生かした交流と連携の促進を推進することの必要性 - 国土強靱化の観点から、克雪対策の充実の促進すること - 親雪、利雪の観点から、豪雪地帯の特性を生かした取組を支援し魅力を発信することで、産業の振興等に取り組むことの重要性	

